川柳塔

創刊大正十三年　通巻一一二四号

日川協加盟

No.1124

一月号

第九回 春の川柳塔まつり誌上大会募集

川柳塔社では、日頃句会などにお出掛けになれない方々を含め、結社を越えて広く川柳をお楽しみいただく機会として、第九回誌上大会を企画いたしました。参加要領は左記のとおりです。是非皆様のご参加をお待ち申し上げます。

川柳塔社

課題と選者（各題2句　共選）

課題吟

「波」　野沢省悟（川柳触光社）　平井美智子（川柳塔社）

「飾る」　弘兼秀子（ふあうすと川柳社）　竹治ちかし（川柳塔社）

自由吟

芳賀博子（川柳宙）　小島蘭幸（川柳塔社）

投句要領　規定の用紙（コピー可）または、用紙の入手できない場合は便箋などご使用いただいても結構です。

投句料　一〇〇〇円（切手は不可）

投句締切　**令和三年二月二十八日（日）消印有効**

送付先　〒543－0052
大阪市天王寺区大道一－一四－一七－二〇一
川柳塔社　誌上大会係　宛
TEL／FAX（〇六）六七七九－三四九〇

賞及び発表　各題特選に賞呈　発表は川柳塔誌五月号誌上
川柳塔誌を購読されていない方には発表誌呈

2021年（令和3年）本社句会　開催日程表

会場：ホテルアウィーナ大阪

開催日	時間	会場
4月7日（水）	13:00～17:00	葛城の間（全室）　3F
5月6日（木）	13:00～17:00	葛城の間（全室）　3F
6月7日（月）	13:00～17:00	葛城の間（全室）　3F
7月7日（水）	13:00～17:00	葛城の間（全室）　3F
8月11日（水）	13:00～17:00	葛城の間（全室）　3F
9月7日（火）	13:00～17:00	葛城の間（全室）　3F
10月2日（土） 第27回 川柳塔まつり	同人総会　10:00～12:00　生駒	
	句会　11:00～17:00　金剛（全室）	
	懇親宴　17:00～20:00　葛城（全）	
11月5日（金）	13:00～17:00	葛城の間（全室）　3F
12月7日（火）	13:00～17:00	葛城の間（全室）　3F

会いたい

小島蘭幸

明けましておめでとうございます。令和三年コロナが収束して皆様に一日も早く句会でお会い出来ることを心から願っています。

しあわせは牛のあゆみでゆらゆらと　太虚

二〇〇九年に古田太虚さんからいただいた賀状の作品です。こんな時だからこそ牛のあゆみの如くゆっくりと大地を踏み締めて前へ、前へ進みたいと、思います。

さて昨年を振り返りますと、川柳界にとっても新型コロナウイルスに翻弄された一年でした。一月二月、私はいつものように大阪、岡山、東京、広島と川柳の旅をすることが出来ましたが、三月からは各地の大会が中止、延期となり、誌上句会、誌上大会になりました。川柳塔本社句会も感染拡大防止のため、急遽三月から休会と致しました。本年の四月句会から再開出来ることを願っています。

おれに似よ俺に似るなと子をおもひ　路郎

飲んで欲しやめてもほしい酒をつぎ　葭乃

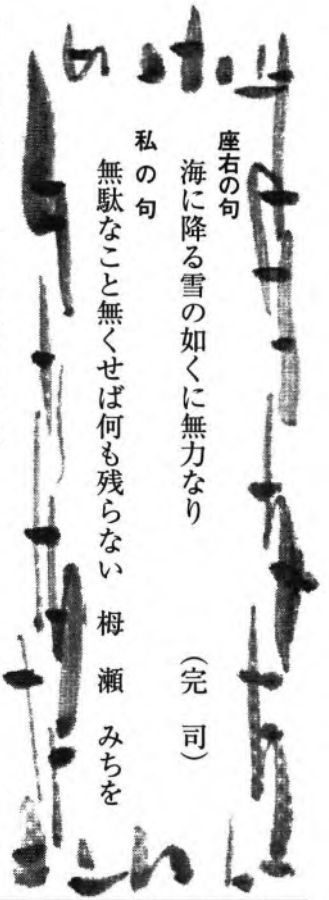
平成十三年七月七日、麻生路郎・葭乃の比翼の句碑が尾道市志賀直哉旧居前の文学公園に建立されてから今年で二十年になります。昨年の七月に麻生路郎句碑まつりを開催する予定でしたが、コロナに加えて大雨の予報が出ていて中止になりました。今年は二十年の節目でもありますので尾道川柳会の皆様と盛大に開催出来ることを願っています。

お元日水平線を見ています　蘭幸

三密を避けるため、まだ初詣に行ってませんので、これから路郎のふるさと尾道千光寺と路郎・葭乃の比翼の句碑に参拝致します。千光寺山頂の展望台から美しい向島、尾道大橋、尾道水道を眺望し心を鎮めてから、新型コロナウイルスの収束を祈りたいと思います。

人生は牛歩ぐらいが丁度いい　大輪
牛の背でゆったり年を重ねたし　みつ子
のんびりと草食む牛にあこがれる　楓楽
星の海師は牛の背で笛を吹く　由一

川柳塔社同人誌友の皆様のご健吟を心から願っています。会いたいですね。



座右の句

海に降る雪の如くに無力なり　（完　司）

私の句

無駄なこと無くせば何も残らない　栂　瀬　みちを

川柳塔　一月号目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田　尋「丑」

■巻頭言　会いたい……小島蘭幸…(1)
ハードルを下げる……新家完司…(2)
川柳塔（同人吟）……小島蘭幸選…(4)
川柳塔の川柳讃歌 ⑲……木津川計…(38)
西尾栞句集『水鶏笛』……(39)
自選集……(40)
句集の森……高須賀金太…(43)
温故知新……(43)
水煙抄……西出楓楽選…(44)
名句選・この一句……(62)
英語 de Senryu ⑱……吉村侑久代…(63)
誹風柳多留一三篇研究 5……(64)
愛染帖……新家完司選…(66)
檸檬抄「覚　悟」……石橋芳山・古今堂蕉子共選…(70)

ハードルを下げる

新家完司

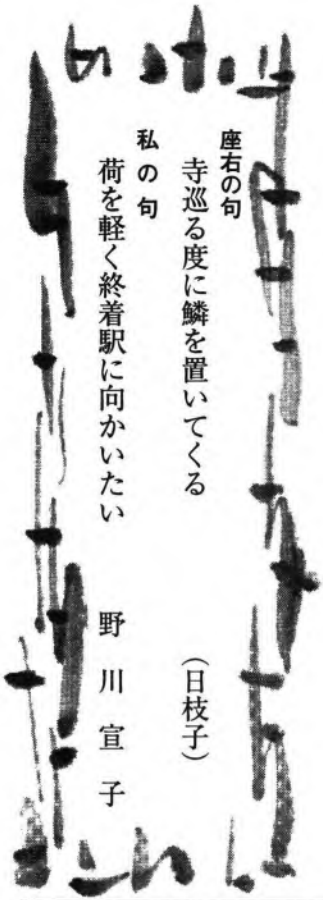
誰しも元気溌剌なときもあれば落ち込むこともある。その原因も体調や金銭、そして失敗など、明確なものは対処の方法もあるが「漠然とした不安感や焦燥感」となれば難儀で、いつまでも心の奥に淀んで晴れやかな気分になれない。

その不安感や焦燥感の根っ子にあるのは、「自分自身や他人に対するハードルが高すぎる」ことが考えられる。

若い頃は簡単に出来ていたことが高齢になると難儀になってくる。それは心身の衰えの所為なのだが、自分のこととなるとなかなか納得できない。そのようなときは自分へのハードルを下げる。植木の手入れの出来がこれまでは70点であったなら50点で我慢する。句会の成績が振るわなくても選者の所為にしない。店員の対応が悪くても石に躓いても腹を立てない等々、家族を含めた他人に対するハードルも下げる。

しばしば言われている「自分に厳しく

一路集（「自　信」……藤井宏造選……(74)
「べ　ル」……森　茜選……(75)
初歩教室「　星　」……高瀬霜石……(76)
■追悼文（ありがとう章峰さん！）……竹治ちかし……(78)
せんりゅう飛行船⑫……新家完司……(79)
同人特集　私の一句……(80)
インスピレーション・ナビ　印象吟……大西泰世……(88)
川柳塔鑑賞……山本希久子……(90)
水煙抄鑑賞……山野寿之……(92)
■エッセー（八木千代句集『椿守』を読む）……月波与生……(93)
十一月本社誌上句会……(94)
各地柳壇（佳句地十選／水野黒兎・谷口　義）……(103)
一月各地句会案内……(116)
柳界展望……(118)
■編集後記（ひとこと／敏森廣光）……朱夏・眞澄……(150)



座右の句

寺巡る度に鱗を置いてくる　（日枝子）

私の句

荷を軽く終着駅に向かいたい　野川宣子

他人に優しい」のは理想であろうが、コロナ以後の新しい生活様式はもっと大らかにしたい。自分を律することも他人に期待することも緩やかにして「自分に優しく他人にも優しい」でありたい。

さて、ハードルを下げて心を広げてもあと何年生きることができるのか？これまでは「平均寿命」を基準に考えることが多かった。すなわち、日本人男性の平均寿命は81歳余り、女性は87歳余り。だがこれは「ゼロ歳児の平均余命」であり、自分の余命計算に用いるのは間違い！

各年齢に達した人の平均余命は厚労省の統計によると次の通り（一年未満は四捨五入）。即ち80歳男性の平均余命は9年、女性は12年もある。心強く過ごしてゆこう。

男性	女性	年齢
81年	87年	0歳
42年	48年	40歳
38年	43年	45歳
33年	38年	50歳
28年	34年	55歳
24年	29年	60歳
20年	25年	65歳
16年	20年	70歳
12年	16年	75歳
9年	12年	80歳
6年	9年	85歳
4年	6年	90歳
3年	4年	95歳
2年	3年	100歳

川柳塔

鳥取県　斉尾　くにこ

好きなもの似ていてきみが好きになる
金木犀の薫りマスクの隙間から
森からの手紙小鳥が庭に置く
掃除機はノンストップで上機嫌
手で洗うマスクの裏の紅のあと
いい人と言うきみがいい人だよね

尼崎市　山田　耕治

檻があるから動物園は嫌い
くもの巣に掛かり朝刊とってくる
紳士服売場で亡妻の声がした
妹よ法事のたびに亡母に似る
待つ覚悟句帳を持って病院へ
娘もやはり大豆に昆布入れて炊く

男鹿市　伊藤　のぶよし

海鳴りが心に沁みてやっと冬
荒れたなら鰤来ると告げる海
待つしかないな年金も鰤も

小島蘭幸選

取り敢えず笑う準備と泣く準備
如何しよう十年日記あと僅か
あと十年買ってみようかナアお前

米子市　竹村　紀の治

ただ酒のときは家来になっている
肝臓も黙って許すただの酒
ハイピッチ飲み放題のゴール前
鍵開けてありますどうぞ女神さま
ほころびを繕う針と糸と酒
引き籠りテレビと喧嘩ばかりする

桜井市　安土　理恵

夫の頑固オトコらしいと思います
ほどほどに酔うて夫と腕組んで
言い訳はしないお互い様だから
こんなことぐらいで泣かぬオンナやし
ここで泣けたら可愛いい妻になれるのに
嘘も方便わたしいっぱいだまされた

大阪市　谷口　義

コロナ熱中症くぐり抜けお正月
心配せんでももう充分惚けてます
カマラハリス氏颯爽と登場
友からの便り住所が書いてない
見た目には何もしていないようだが
初心に戻ろうおでんにしておこう

大阪市　平井美智子

愛された記憶をさがす秋の指
昨日来た道を覚えている踵
オチのないダラダラ坂を降りてゆく
雨が降るも少し待てと言うように
強いねと言われ今夜も泣けぬまま
コスモスで隠すわたしのいくさ跡

松江市　石橋芳山

放心の中で時間を食べている
ふしだらな白をピンクに塗り潰す
抱き締めていたいさざ波になるまで
伸び切ったリード　メル友でしかない
挨拶にでぼちん2、3発たたく
ナポリタン風味の細長い話

堺市　奥時雄

魂を残して妻は救急車
ピンコロリ願い通りの鮮やかさ
コロナの世コロナでないと言わされる
葬儀場人より花で埋め尽くし
金木犀妻と一緒に散っていた
「ありがとう」いまわの言葉消え残り

藤井寺市　鈴木いさお

性懲りもなく迫り来る二波三波
辛かった介護を終えた日の空虚
弔いの一句を添えて柳友送る
すらすらと鬱・薔薇・檸檬・魑魅魍魎
道草も出来ない人で可哀相
こみ上げるものあり彬　多喜二の死

倉吉市　牧野芳光

人間の底が問われるコロナ禍に
引き出しがいっぱいあって片付かぬ
真実は人の数だけありそうだ
アルバムは捨てぬ「昔」は宝物
幸せな日は満月がよく見える
亡くなった友達に会うレム睡眠

土佐清水市　辻内次根

意地悪が出てくる嫌な物語
自問自答何時も心は揺れている
何処までも晴れて静かな村祭り
薄寒いコロナの席巻した世界
熱くなる地球に冷えてくる心
気が付くとみな引き算になる此の世

米子市　吉田陽子

助かってからの命は重いもの
断捨離の心の穴に座り込む
シーズンが巡り忘れず菊なます
二足歩行のつけ腰痛も膝痛も
丁度いい散歩の距離に美容室
立てているつもり夫へ依存症

熊本市　杉野羅天

阿蘇開通なんと清清しい秋だ
とぐろ巻く金の大蛇が夢にいる
豪華列車ゆるりと秋を刈って行き
時代劇ラテンのリズム小気味よし
院外に遊ぶ初心を忘れずに
温暖化プラスコロナという世界

西宮市　亀岡哲子

幸せの種をゆっくり育てている
夢の中父がだんだんイケメンに
句会再開三つの密を守りつつ
あっけらかんの自慢話がおもしろい
週四日きっちりゴミを出す長寿
市長から祝辞の届くほど生きた

三田市　堀正和

クーポンでの土産探しが忙しない
酔ったまま過ごした雲の上のホテル
番頭がトップへ何も変わらない
日本一目指すと啖呵切ったトラ
新しい事はするなと子が諭す
末吉の末がなかなかやって来ぬ

藤井寺市　鴨谷瑠美子

妻は他人でそして一番親切で
はんなりとこだわり湯どうふは食べごろ
八十歳の涙八十歳の指で拭く
無愛想に遠慮勝ちに老いがくる
間違って押したボタンで点く明かり
プライドの重みで飛べぬ身となった

岡山市　丹下凱夫

秋麗のベンチで昼寝して帰る
朝焼けのパワースポットまで百歩
パワースポットでスクワット日が昇る
勲章に縁はないけど文化の日
荘厳な朝焼け ともだちの訃報
人生の午後です珈琲にしませんか

高槻市　片山かずお

午後の診察午前中より空いている
レントゲン撮る日はボタンなしのシャツ
医者の前に出ると痛みが消えている
かかりつけ医一番近い医者にする
ハグも握手も駄目とコロナに睨まれる
密になれるほど友だちが欲しいもの

今治市　永井松柏

怖いのは姿の見えぬ敵だろう
それなりに浮かれオンライン飲み会
主なき空き家そのままの表札
旧道の歩き遍路が風になる
追い風に乗ると着地が決まらない
追いついてみたら百寿の鬼だった

羽曳野市　徳山みつこ

受賞して初心に戻り一歩ずつ
石蕗のパッと黄色に湧く元気
年賀状声の便りに切り替える
カラフルなマスクが咲いておめでとう
庭先の野菜毎朝の贅沢
どう悔やんでも時はとり戻せない

松山市　宮尾みのり

新春へ何はともあれおめでとう
何もかもスマホに頼るひとり旅
五七五未だ洗えぬものがあり
まだ死ねぬ責任という枷を持ち
トラベルもイートも無縁高齢者
通販の蟹長旅で身も細り

高槻市　初代正彦

黄昏れて　も少し走るもうちょっと
ほどほどで折り合いつけるとこ　憎い
自粛馴れしたのか緩むゴムの紐
メイドインジャパン心地よいマスク
自転車もわたしの節もよう軋む
メモだけの五年日記も三冊目

鳥取市　倉益一瑤

雪崩音友の遺影の美しき（一京さん逝去）
忘れたい事が渦巻く秋の暮れ
芸術にふれて時々目を洗う
いい言葉耳のうしろに溜めておく
メルヘンの道父の芝居は終わらない
またしても自然発火をするわたし

藤井寺市　太田扶美代

わたくしの秋限定の好奇心
最下位のチームに力入れている
うつらうつら五十二歳の掛け時計
お洒落して老いの惑いを吹っ飛ばす
追伸のあたりが哀しそうである
我が家には笑い上戸の鍋がある

豊中市　水野黒兎

アルバムにしばし時計は逆回り
すずめにはお寺の屋根が大宇宙
たこ焼きのタコの出身モーリタニア
ぽろぽろと路地に更地がまた増える
百越えてゆらゆら母は夢うつつ
里の名をテレビが伝えまた事件

初日の出マスク外して深呼吸　　堺市　澤井敏治
丑年七巡感謝のスクワット
生きざまの価値問うている林住期
鎮魂の祈りなおみの黒マスク
子供には見える明日という未来
雪月花ドラマ背負っている御神酒

河内長野市　村上直樹

眠る間も惜しい傘寿のロスタイム
リモートで朝から孫と睨めっこ
キャッシュレスでも放せない小銭入れ
宝石のように秋刀魚と松茸と
ダイヤよりキャッシュと嫁の変化球
ニイハオハロー溢れた夢を見るグリコ

三田市　福田好文

キャッシュレス馴染めぬままに八十迎え
長生きも惜しんでくれる内が良い
前歩く妻の姿に老いを見る
お隣も年金なのに新車くる
坊さんに趣味はと聞けば魚釣り
良い日でしたか微笑みながら日が沈む

大阪市　内田志津子

第二章鎧兜を脱ぎ捨てて
海洋汚染もうおしまいにしませんか
秋涼に形見の単衣折り畳む
千年の巨木いとしい里の寺
想う人逝ってコトコト豆を煮る
孫の宴見るまで生きる今日の汗

犬山市　金子美千代

田の神様無事に新米ありがとう
家具一つ減らした巣ごもりの成果
GoToも浮かれる気分にはなれず
健診はクリアそれでも風邪は引く
無理したらアカン身体は壊れもの
別腹も満足させて天高し

鳥取市　田賀八千代

お洒落して待っているのに鳴らぬベル
立ち止まり自分の影を確かめる
繋いだ手離そかポツリ独り言
掃除機を買い換え掃除役にする
自家製の野菜が会話弾ませる
手を合わす事が増えたな母卒寿

三田市　村田博

省略をしてはならないプロローグ
気楽に行くか余白ばかりの予定表
なにげなく喋れば木霊する噂
足して2で割っても残る不平等
履歴書のどこを見たってない深手
二十年経っても徐行事故現場

西宮市　緒方　美津子

常連の投句の消えてうそ寒い
殊に重い令和二年のカレンダー
文句言わずに並ぶ国ですジャパン
元気やと祖母のスマホに柿のれん
横綱の有給休暇長すぎる
お疲れさん案山子ごろんと豊の秋

大阪市　田中　ゆみ子

仏間にも立冬の陽を入れてやる
友達になれそう窓に来る雀
ありのままの君が好きです枯木山
酔っていても運命線は変わらない
激怒した貴方に亡父の顔を見た
今日終わる今日のマスクを洗いつつ

大阪市　寺本　実

外出はするな消費はせよと言う
呼びかけるこの世の人じゃないけれど
フレンチと聞くとサイフが身構える
もじもじとのの字を書いた女が今
原点に戻れと人は軽く言う
詫び状は草書でうすく和紙に書く

大阪市　奥村　五月

衣更え何時が良いかと神に問う
天秤に安さと恐さ掛けてみる
跡継ぎは時代の流れ考える
避難地に心を癒す虫の声
神様も安い旅行で行く出雲
神社さえ天災避ける事できず

富山市　島　ひかる

太陽と共に躰が動き出す
日の入りの早さに合わす夕御飯
あの人もこの人もみな逝っちゃった
隠し持つ写真を妻は知っている
コロナには負けてはならぬ訳がある
新しい年だ二人でまた歩む

香芝市　山下　純子

元カレも招いて楽しバースデー
5年日記読み返すため書いている
GoToで乗り越えました倦怠期
嫁娘率いランチのおんな会
遺影から父の冗談聞こえそう
ふる里へ気を使いつつ墓参り

尼崎市　近兼　敦子

がんばって未来の私変えてみる
一言で天国地獄見るなんて
自粛するこの生活が日常に
三姉妹集まり父のはしゃぐ杖
帰省には神戸ナンバー気を使う
卒寿にもイケているねとのせる孫

和歌山市　上田紀子

秋刀魚の味忘れてしまう日も近い
一日一善今日の退屈吹っ飛んだ
迷いから覚めた小猫が寅になる
やっと今亡母の伏せ字が読めてくる
人生の付録のような妻がいる

和歌山市　柏原夕胡

コロナ禍を知らずに姉は逝きました（64歳にて）
食べられぬ人知ってるか食べ残し
正月を祝うお金も底をつき
途上国の民にも想い馳せましょう
コロナ禍の中こそ笑顔咲かせたい

和歌山市　土屋起世子

お砂場で遊ぶ幼児からエール
じわじわと喜び湧いて目が冴える
遣り操りの生き甲斐くれた子が巣立つ
年重ねやっと苦労の花が咲く
だんだんと絆が細る喪の葉書

和歌山市　古久保和子

鍵の鈴淋しがりやで口下手で
メンバーの足りないときに浮かぶ顔
ママチャリで噂の種を拾う午後
一日を診察券が振り回す
横文字が溢れ近ごろ生き辛い

和歌山市　松原寿子

本心を素直に畳む日記帳
パンダ列車に閉じた心を癒される
身を切るほど悩み解決など出来ず
味噌汁がぬくい独りの火を守る
思い出のドラマ文箱からあふれ

岩出市　藤原ほのか

頑固ゆえ譲れないことたんとある
遣り遂げて今は前だけ向いている
グーチョキパ今日どうしても負けられず
子育ても終えて今日から趣味に生き
マスクする笑顔の君が見えづらい

海南市　小谷小雪

兄がいて姉がいて甘えてしまう
いつまでも応用問題に弱い
努力なしではおばあさんになれない
だらだらとできる一日はありがたい
ゴミ出しも当番制にする夫婦

紀の川市　山東日出男

迂回路がやたらと増える年度末
駅弁の味に染みこむ国訛り
鈍行にゆられてディスカバージャパン
審判も迷う菅野のスライダー
遠浅の海で月面宙返り

橋本市　石田隆彦

虎の威を借りて官僚嘘を言う
食欲旺盛まだまだ若い胃に感謝
あちこちのネジもゆるゆる後期です
一輪の花の出迎え登山道
凸凹の道こそ夢が湧いてくる

京都市　清水英旺

立つ位置を少しずらせば楽になる
寄付一口最低限のおつき合い
結局は笑い飛ばして生きるしか
折り合いをつけて毎日生きている
卒業写真みんなのその後気になって

長岡京市　山田葉子

顔ぶれ見て財布の中味たしかめる
欲しいもの無くなりコロナ後遺症
八十路すぎ立ち位置少し変えてみる
歳月に思いが深くなる絆
少年と少女に返り続く夢

八幡市　今井万紗子

白寿祝乾杯音頭手短に
雨戸閉じる昨日と同じ日が暮れる
空元気出してこの世を闊歩する
外せないマスクの外にいるコロナ
写メールで集う孫らの運動会

大阪市　磯島福貴子

巣ごもりも川柳あればこその日日
蟠り一つ抱えて年を越す
厳守厳守消毒マスク　ディスタンス
ワクチンの完成間近心急く
年末年始寺と神社を使い分け

大阪市　井丸昌紀

怠け者上司の前は走る振り
ひらがなではなしてほしいあれやこれ
音楽室の肖像画みな悩んでる
たわむれが本気になった時の鬱
秘密です私の好きな流行り歌

大阪市　岩崎公誠

万年青置くベランダ小鳥来て遊び
浮き浮きと気を許したらまた転び
スマホぐらいいつでもやれるまだ持たず
寄り道を選んだ僕は最後尾
七十七凄い気迫の米トップ

大阪市　岩崎玲子

賀状にはコロナの事は書きとない
久し振り遠出したけどくたびれた
インフルの予防注射をして安堵
空白が多い今年の手帳泣く
正月も例年どおり無理だろう

大阪市　宇都　満知子

ウイルスは手強いままに冬に入る
たっぷりと心の保湿手の保湿
ビリビリと雲をめくれば青い空
みたらしだんご買ってきたから許します
躓いたおかげで少し振り返る

大阪市　江島谷　勝弘

幸せやいっぱいいてる好きな人
GoToGoToみんな豊かですね
首長くしてワクチンお待ちしています
大昔ボクも白球追ってたな
代わり映えまったくしない総理かな

大阪市　榎本　日の出

ばあちゃんと威張ってみても知れたもの
白い毛が湧いて来てます長生きよ
泣けるだけ泣いて女は覚悟した
一言が足りなかったね眠れない
ずるいこと出来る人でも出世する

大阪市　榎本　舞夢

六賞発表身近な人だおめでとう
元気なら来年応募挑みます
引き際の美学大事と知りました
バスツアー三密避けて秋楽し
コロナウイルス師走の街はどうなるの

大阪市　大川　桃花

診察券並べて今日のスケジュール
ペットボトルの栓が開かぬと五十路の娘
密着取材キャメラも酔って鰹漁
そんなもんかと思えば腹も立ちにくい
山の道あと十分に騙される

大阪市　大治　重信

蟋蟀が谺のように鳴き交わす
蝶妙齢日影をさけて高く消え
唐辛子まっ赤なずぼん天に向け
冬瓜が畑真中に腰おろし
しかしなと儲け話が崩れゆき

大阪市　小野　雅美

ワクワクをもらう小さな百均で
簡単に言うのねあなたならできる
来賓の一名様に張るテント
散るさだめ知りつつ薔薇が凛と咲く
家計簿の余白が母の日記帳

大阪市　笠嶋　恵美

おしゃれして久方振りの宝塚
背筋寒むコロナ疑い別室に
ほっとしてもらって帰る風邪薬
整理してすべて感謝にたどりつく
大阪市存続ですねありがとう

大阪市　金川宣子

ミニパトの可愛さ孫が乗りたがり
ブラックで飲めば格好良いらしい
手品して騙せる孫が今日も来た
違反後も議員バッジつけたまま
相席の人を一瞬値踏みする

大阪市　川端一歩

晩年のしあわせ友に恵まれる
親おもうこころ両親には勝てぬ
幸田文の童話を読んであたたまる
夢の中で泣いた名言出て来ない
妻入院ぶっかけ飯の淋しさよ

大阪市　古今堂蕉子

音無しの構えで忍び寄るコロナ
体調不良五キロ痩せるというおまけ
あでやかさ競えば桜より紅葉
ああ着物寝ている君に罪はない
ボタンよりファスナーが好き一発屋

大阪市　近藤正

僅差でも野望を砕く大勝利
核の傘未練がましくしがみつき
フクシマをまだいたぶるか汚染水
コロナ禍に政府恨んで店たたむ
産直で有機農業こころざす

大阪市　坂裕之

結論が出ないまんまでまた次に
後ろから見られていたの嫌ですね
カタカナ語意味が解らんまま話す
幸せな二人を見てる方も吉
若者に負けるものかと喜寿過ぎて

大阪市　高杉力

アメリカの州に詳しくなる選挙
終章を描くに足りぬ色はなし
掃除機が迫る昼寝の枕元
やさしいのレッテル剥がさないでおく
やさしいの向こうに弱さ透けて見え

大阪市　高杉千歩

注連飾り車椅子にも春巡る
美しい老人目指し祝い箸
ライバルがいない齢になるお正月
ホームにて田辺聖子を読み耽る
順風満帆上げ膳据え膳昼寝つき

大阪市　田中廣子

離れるとすぐに忘れる年のせい
年重ね治りが遅いひざ痛い
八十路来てよくぞここまで生きられた
球児さん火の玉ストレートすばらしい
トランプは負けを認めぬ哀れなり

大阪市　津村志華子

今年こそ佳い年であれ初ひかり
息災にともあれでんと丑の年
自画自賛九十五の祝箸
形振りも構わぬ老いの暮しむき
噛まなくてよい湯豆腐ですむ夕餉

大阪市　中井　萠

眠れぬ夜喪失感が襲い来る
亡き友を想い秋刀魚のほろ苦く
うさぎ小屋ふたりになれば持て余す
おにぎりもお茶も買うかと亡母憂う
秋服の出番ないまま着ぶくれる

大阪市　原田すみ子

色違う孫の個性で夢描く
孫が来て音が溢れて家笑う
素直でも負けん気はある長女次女
図書館の一区画にも好き嫌い
金木犀マンション目立つ町も秋

大阪市　平賀国和

トランプを退場させた新コロナ
ワクチンはできるか五輪霧の中
大阪へは帰省できぬと子供たち
自粛に飽き香久山登山足伸ばす
アメリカに新しい風ハリスさん

大阪市　宮﨑シマ子

電灯ついた広い廊下は沙漠のよう
かゆいとこへ手は届くけど別料金
不平不満言っても改善してくれぬ
七十五年主婦にはまずいホーム食
あれもこれも駄目ホームの住人自由なし

大阪市　山本加お里

信号の青を信用して渡る
第三波いつまで続く今日も晴れ
介護終えやっと老いにも向き合える
起きてすぐ花壇の成長見て回る
冬なのに蛍袋が咲いている

大阪市　横山里子

黄落が包むよに降る彬の碑
古家には換気はいらぬ隙間風
旅に出てわかる三婆ボケ加減
落ちつかぬ熊が出そうな露天風呂
することがないから歩いてますねん

大阪市　若本安代

トンボ群れしみじみ平和かみしめる
コスモスがやわらぐ時をくれました
介護日記つらい記憶はかすれ出す
コロナ禍に森林浴の活性化
今日の運そんな後押しだってある

池田市　太田省三

クリスマス街の人らよ御勝手に
元妻は独身謳歌肌に艶
首筋の冷気が好きなバリカン派
女子たちに見向きもされぬクラス会
新郎よ妻は絶対怒らすな

貝塚市　石田ひろ子

焙じ茶の一服やわらかな時間
まだやれる無理をするなと影が言う
泡立草休耕田を黄の海に
ああついに二人っきりのクラス会
鏡からわたしの顔を消すマスク

河内長野市　大島ともこ

オリンピックの灯がゆらゆらと見え隠れ
収束へ一歩ずつまた一歩ずつ
一つ一つの窓に灯った泣き笑い
映画みたいな愛に溺れてみたかった
触れずともあなたの心お見通し

河内長野市　梶原弘光

ニンゲンは死ぬまで生きているんだよ
耕せばあとはお天道様次第
ハロウィンの意味も分からず三密へ
米選挙ののしり合いに耳塞ぐ
百均の二百円なら手が届く

河内長野市　木見谷孝代

魔の十一月を何とかクリアす
悪魔がどこに潜んでいるかわからない
痒いとこまで手が届く友に甘える
いざの時飛んで来るこのありがたみ
五分粥がじんわり腹にしみわたる

河内長野市　黒岩靖博

去年と同じ画像に医師が首かしげ
やっかいな人だと言われ首すくめ
祖母のこと話し目頭熱くなる
一人っ子両親介護する悲劇
人参を咥えた孫は有頂天

河内長野市　辻村ヒロ

あくせくと働けた頃懐かしむ
ぴったりの呼吸もたまにそっぽ向く
何げなく敬語の返事妻の乱
老いてなお張り合える友いる至福
久し振り老けたと言われあなたもね

河内長野市　中島一彌

新米の香りと艶の湯気も食う
白髪増え齢を重ねても子は子
皺くちゃな手に人生が詰まってる
老いふたり保つほどよいディスタンス
人里へ熊も覚悟のエサ不足

河内長野市　藤塚克三

雑草の強い根っこで世を渡る
老い仕度浮世の未練投げ出して
ポケットの小銭で癒やす没投句
悪い酒矛盾だらけの法螺を吹く
孫帰り夫婦はポチに愚痴こぼす

河内長野市　森田旅人

君がいて幸せでしたと逝く美学
喪の知らせあの世で会っている安堵
うつくしい香りで秋がやってきた
コンサート一緒に行こうペンダント
GoToに札所巡りが出てこない

河内長野市　山岡冨美子

診察券ばかりが増えて冬の陣
我慢することを知ってる冬の薔薇
コロナ禍に羽根が沈殿したまんま
登山家を畏敬の念で仰ぎ見る
恥ずかしいどこかの国のごねる方

岸和田市　岩佐ダン吉

損な役今日も笑って受けてはる
自動ドア警戒心はないらしい
君らしくやればと言われ空拝む
滔滔と勝者が語る平和論
行列のパンやさんまで消えている

岸和田市　雪本珠子

流れゆく雲にこころを遊ばせる
追憶にひたり亡き娘と小半日
川柳で人間性を垣間見る
川柳が今はわたしのオアシスに
もう二度と会えぬ人待つ花の下

四條畷市　吉岡修

念の為の署名捺印効いている
人肌のぬるめが通の燗ぐあい
高齢化に僕も一枚噛んでいる
汗出した数本番に付きを呼ぶ
お互いに傷のなめ合いして同志

吹田市　太田昭

鷹を生む鳶に悔しい過去がある
寂しさをこの川柳に癒される
窓際に本音語れる椅子がある
俎板の上で情けが刻まれる
八十七なんと重たい歳を負い

高槻市　島田千鶴子

仮眠する秋の陽ざしに包まれて
おでこに手大丈夫だよ母の笑み
思案するばかりで手足動かさぬ
大根干し山の向こうは冬時雨
今はもう弾まぬピアノ磨く母

高槻市　杉本義昭

ナイスショットのフォームは軸が崩れない
雨の日はひねもす自粛自粛なり
通勤靴耐えた形のままでいる
気配りのいらぬ同士でうまい酒
人柄はよいが飲んだらだらしない

高槻市　富田保子

顔よりも元気で決める老いの恋
食べ歩き本にはないが旨い店
傷に塗る酒が今夜も絡みつく
元気だと笑顔を一つ持ち歩く
家中のゴミ箱洗い天高し

高槻市　原洋志

もてなしの上手い自家製ミニトマト
筋トレでシニア長生き予約する
非常時の訓練だから笑えるが
水割りの底で揺れてるコロナうつ
冬支度熊もＧｏＴｏ商店街

高槻市　松岡篤

怖がりでうがい手洗い過剰気味
終活をやろうやろうで手が付かず
着る物が年取るごとにダブダブに
合服は出して着ぬままたタンス
眠ってる着物マスクに作り替え

高槻市　安田忠子

旨い物食べて料理の腕上げる
ぼうっとして時々脳を入れかえる
十二月枯れ葉も風情京の庭
これ以上便利も核も要りません
バーゲンで何も買えずにふらふらに

豊中市　上出修

日記には見栄を張ってる僕が居る
冗談と言い訳したがもう遅い
言うことを聞かぬ学者は外します
コロナ禍でバタバタ店が閉じていく
トランプに分断された世界地図

豊中市　きとうこみつ

紀伊國屋に置いてはくれぬマイ句集
私のルーツに会いに墓参り
ゴキブリが私みつけて逃げていく
免許ないのでドライブスルーとは無縁
ＧｏＴｏで温泉の旅コンティニュー

豊中市　藤井則彦

コンビニのビニール越しに禅問答
行儀よく食べると味は陰り出す
負けるもんか追う身でいたいまだ傘寿
昼休みもなくて疲れるテレワーク
黒か白かで決める暮らしも味気ない

豊中市　松尾　美智代

逢いたいと無性に思う遠い人
ポケットにいつもの愚痴をしまっとく
足早に過ぎてゆく日々柿実る
心落ち着くヨガのポーズに塡まってる
疲れたらレモン多目にダージリン

富田林市　片岡　智恵子

ビデオ見る過去がそこまで戻りくる
住所録見つめて逝った人偲ぶ
耐えられぬ試練を神は与えない
九ヶ月ぶり文楽劇場再開す
黙っていても許される嘘もあり

富田林市　中村　恵

宇宙では僕も地球もまだ青い
丹念に結んだ縁が揉めている
ほどほどの隙間通ってくる噂
捨て去ったまさかが不意に顔を出す
後悔を拾い集めて焚き火する

富田林市　山野　寿之

黙黙と親爺夜なべの町工場
雨風も炎天も耐え黄金波
陣痛を耐えた子どもを虐待死
発奮が幕内になり狙う綱
月光を独り楽しむノクターン

寝屋川市　伊達　郁夫

鍵かける寂しい人になる私
挨拶もお礼もバイトから習う
ひと欠片なくてジグゾー捨てられる
無視せずに叱ってくれる友がいる
輝いた昔をそっと撫でてやる

寝屋川市　冨山　ルイ子

父も兄も歯科医近くに歯科医あり
しまった！入れ歯落として真っ二つ
あーあ十三年使っていた入れ歯
修理するまだ使えると言われてる
やっと卒寿母の年101歳

寝屋川市　平松　かすみ

赤ちゃんの瞳マスクの顔ばかり
歩数計足りず一筆ポストまで
返信はいらぬと孫に出してます
孫の手がほしい背中の張りぐすり
三姉妹宿題してた掘炬燵

寝屋川市　森　茜

菊愛でて日がな一日やまとびと
いつまでもみよちゃんでいるお節介
価値観の違い目くじら立てずとも
背な押してくれるコスモスの小波
十三夜銘菓のカタログ繰ってます

墓参り久し振りだね場所さがし
万歳で予算貰える永田町
妻旅行酒と干物で相手猫
雪便り聞けど我が里芋掘り中
過疎の村緑と星が出迎える

羽曳野市　磯本洋一

出掛けない日々で家計簿黒字なり
入院中見舞えずバラを退院後
振込みをＡＴＭが拒否をする
黙々と食べて終わらす忘年会
新車買う十三歳が後継者

羽曳野市　宇都宮ちづる

御ほとけもマスクをくれと駄々をこね
ディスタンス知らぬ仔猫が膝にくる
稲刈りを終えて男は風になる
癖を捨てイロハにもどるむずかしさ
裏木戸の恋しか知らぬペルシャ猫

羽曳野市　三好専平

幕引きは花あるうちにするつもり
ソバすする音で老父の元気知る
置き傘が僕を待ってる里の駅
過去捨ててなんの支障もありません
順不同だからのんびり最後尾

羽曳野市　吉村久仁雄

心配も鬱も吸いこむ青い天
一日に何回額手をあてる
戸外出て命時時リフレッシュ
有り余る時間へやる気おこらない
今年こそきっと世界に福は来る

東大阪市　北村賢子

赤トンボ追って花野に迷い込む
お互いに良いとこ褒めてカバーする
自販機のうどん温くてこしがない
したたかに迎えたアクティブな傘寿
運命に抗うこともなき傘寿

東大阪市　佐々木満作

迎春を濁す去年の居候
境遇をしばし忘れてお正月
新年の穏やかなのは酒の所為
心配を止めた途端の寝息なり
朝までの懺悔御恩が深くなる

東大阪市　西村哲夫

虫食わぬきれいな野菜大丈夫
密はダメ妄想ばかり駆け巡る
芋粥の戦後は肥満いなかった
吾の部屋整理整頓もの足らぬ
スイスイとスマホ操るお婆ちゃん

枚方市　谷英也

枚方市　丹後屋　肇

二波三波只物でない新コロナ
ワクチンに期待を籠める聖火台
期待した我が子他国に嫁ぐ　黙
大好きと涙を零す羽田発
下がり眉毛画面はみ出る爺の顔

枚方市　藤田武人

恋文の絵文字にルビを打っておく
信念を曲げて一度のカニ歩き
下積みの社長拘るパイプ椅子
初電車座る席まで決まってる
大根もやがてオーラの新喜劇

枚方市　藤村亜成

思い出に耽り写真に座りこむ
記憶喰べる虫棲みついている認知
体内時計近ごろ遅れがちになる
さまにならず紫煙くゆらせないタバコ
無言の写真閉じ込められている真意

枚方市　山口弘委智

言の葉が磨かれている投句集
まだ登るまだまだ挑む米寿坂
黙禱の背筋の汗に悔いを見る
投函を迷う一通締切日
白という贅を尽くして誤魔化せず

藤井寺市　髙田美代子

名工の鑿は木肌を読んでいる
嫌なこと聞く為にある耳でない
年下が言いたい事を言うている
馬鹿野郎はキミの方だと言うてやる
ローソクタワー友達と京に居る

藤井寺市　吉田喜代子

夏―冬しんどくなった衣替え
回覧板六軒になり風が吹く
出来不出来こりずに今日も種は蒔く
秋なのに秋刀魚松茸膳に出ず
あと十年希望を託し買う日記

箕面市　大浦初音

穏やかでなければ良い句作れない
預金帳残り時間とにらめっこ
顔を上げようきっと何かが見えるはず
記念日は新しいこと始めた日
終活期後ろ向いてる暇はない

箕面市　酒井紀華

しあわせがおいでおいでと呼んでいる
ときめきは生きる力の調味料
枯れ葉舞う女は過去をすてられぬ
女舞うぬぼれ鏡拭きながら
回覧板生きているかと手渡しす

箕面市　出口セツ子

一つ覚え三つ忘れる老齢(とし)悔し
常識の枠から半歩さえも出ず
思いのまま好きに生きよと余命表
何か良いことは無いかと来る電話
コロナには飽いてＧｏＴｏ遍路旅

箕面市　中山春代

夕焼けへ飛びこんで行くモノレール
新しい譜面コーラス動きだす
洋画づけになってコロナを自粛する
お悔みをマスクのままに立ち話
社会的実験ですかハロウィン

箕面市　広島巴子

メルヘンの世界に浸る花の丘
間あけランチおばちゃまかしましい
第三波コロナに疲弊アマビエよ
ほろ酔いに五輪の夢が見え隠れ
マスクしてとんちんかんなご挨拶

八尾市　寺川はじむ

とんとん拍子に減らぬコロナのしつっこさ
諦めが早過ぎ未練渦を巻く
諦めたと言うが本音は霧の中
猛トレも明日への糧とアスリート
極暑に耐えた稲穂実りの秋謳歌

八尾市　村上ミツ子

令和二年コロナなしでは語れない
冷え込みへ急いでセーターを着込む
風のたよりにあのひとの訃報きく
やわらかい陽射しうとうとしてしまう
覚悟して踏みだしたのにすぐ転ぶ

八尾市　山根妙子

先生もダンスの稽古体育日
輪を繋ぐフォークダンスの懐かしさ
足跡に添ってレジ待つ長い列
おもてなし遠くになった流行語
脳検査絵本で予習見栄を張る

堺市　柿花和夫

坪農園の土に優しい蚯蚓たち
糠床に母の温もり遺ってる
妻はまた十年日記買いました
自国主義大戦前も流行ってた
喜寿八十路会話は粥の湯気の中

堺市　源田八千代

干支七巡り現状維持で頑張ろう
コロナ禍に年末年始様変わり
恒例のお節取り止め一人膳
掛けた電話に待ってましたと憂さ晴らし
すがすがしい新政権と思いきや

堺市　齋藤　さくら

その内にコロナ収まる気配無い
久し振り友の電話で元気沸く
あちこちの御無沙汰コロナ言い訳に
クーポン券給付金の付けその内に
見かけでは女性の年は分からない

堺市　坂上　淳司

感染が怖くＧｏＴｏには行けぬ
暇有れど金無い老いは閉じこもり
ＧｏＴｏも所詮富裕者向け施策
金の有る老いはＧｏＴｏ行き捲り
第三波でもＧｏＴｏをやりますか

堺市　遠山　唯教

青年よ挫折に負けず胸を張れ
無我夢中歯をくいしばり生きてきた
ピンチには隣にいつも君がいた
秋の味覚ありがたくいただきましょう
朱に染まる北アルプスのナナカマド

堺市　内藤　憲彦

海老蔵に睨んでもらい払う邪気
呆けぬよう口数増やすことにする
太陽の塔日本励まし五十年
要らんことポンポン言える歳になる
レシピなど要らぬバアバの節料理

堺市　矢倉　五月

揉み心地良い按摩器が恋人めいて
男同士の話だちょっと縄のれん
亡母の残した梅干し出して三回忌
あっち向きこっちも向いて金木犀の香る道
あの人に会える逢えると行く句会

神戸市　上田　和宏

コロナにていっぱい増えた新知識
単純作業コロナの鬱を眠らせる
眼鏡どこ二階一階二往復
断捨離ともったいないが睨み合う
口喧嘩落としどころを眼で探る

神戸市　奥澤　洋次郎

どの句にも思いがこもる入院句
つくづくと不満の種を蒔いて来し
一本の電話ドラマを生む予感
一葉のハガキで消えていった友
海に入る夕日二人の熊野灘

神戸市　敏森　廣光

山紅葉君も恋しているのかい
コスモスはつつましやかで清清し
秋になっても聞こえて来ない祭りの音
僕の余生もっと旅するはずだった
会心の句には盃あげてます

神戸市　冨永恭子

追いかけて追いかけてまだ序章です
分断が進んで闇を深くする
ムコ殿に満面の笑み絞り出す
センターラインたびたび越えるおせっかい
限りなく優しいうちの男たち

神戸市　能勢利子

来年の約束コロナに聞いてから
五輪まだ信じてますかやれますか
交際費交通費浮き孫に寄付
家電話使わぬ友が増えてきた
第三波投句句会が続きそう

神戸市　松倉正美

秋刀魚様ご出世なさって高級魚
ただの風邪と診断下り先ず安堵
久々の句会はマスク品評会
生有る事に感謝しながら賀状書く
鬼滅観て年甲斐もなく涙する

神戸市　山口光久

表札へ行ってきますと声かける
あなたが居るだけで元気が湧いてくる
むきになり引っ込みつかず孤独感
青筋を立てるほどでもあるまいに
よく飲んでよく喋ってる寂しがり

神戸市　山口美穂

令和二年コロナに振りまわされました
新記録喜ぶ勿れコロナです
わたしファーストそんな自信は持ってない
口のリハビリお喋り出来ず今日終える
新年のお願いアマビエ様へ先ず

神戸市　山崎武彦

淡色が冴えて夢二の吐息聴く
何ごとも無く過ぎた日の温め酒
身の丈のしあわせみそ汁ほっかほか
冬枯れの詩嚢へびっくり水注ぐ
葬列へ別れの笛が透き通る

明石市　糀谷和郎

できそうな事だけ悩むことにする
門を外す自由の鐘が鳴る
ジ・エンドと一度は告げられるこの世
妻の手の届く範囲で生きてます
涙腺をたどれば涸れた海にでる

芦屋市　竹山千賀子

初めての街で枯葉が迷ってる
雪の中駆ける小犬はコート着て
写経する心の棘がポロリ抜け
受診歴ない百歳の保険証
余生の色まだパレットで迷ってる

尼崎市　永田紀惠

止められぬひとり歩きをする噂
悲しみも笑いに変える四コマ目
とことんは追求しない人情家
賭け事はプラマイゼロで良しとせよ
きりとり線ずれてしまって共白髪

尼崎市　藤井宏造

夢のない話ばかりのクラス会
誇らしげな漬物石になった石
指に唾つけて新札数えます
閉店へとどめを刺しに来たコロナ
口臭い孫に言われた日のショック

尼崎市　藤岡りこ

ライバルという仲の良い二人です
初めてだ息子にほめられた胸さわぎ
お節は昔家庭料理の味でした
カフェの窓際スマホ夢中の若者ら
妻が絡むと逃げ腰になるお歴歴

尼崎市　藤田雪菜

忘れ物取りに戻って何だっけ
体調の悪い時には目もかすむ
旅すれば異様な力涌いてくる
秋夜長軽い文庫と更けて行く
風邪ワクチン優先順位一で打つ

加西市　山端なつみ

猛暑急転ダウンを探す朝の冷え
横になる診察台で増す不安
何故だろう妻がモナリザ顔で居る
旧家跡金木犀の風渡る
ハロウィンはバーチャルやめて行く渋谷

川西市　山口不動

香り満つ金木犀はお金持
カツカツと胸を揺らせてハイヒール
大声のダンナと別に相撲見る
半世紀連れ添った味栗ごはん
時刻表秋号持って北陸へ

三田市　足立つな子

父母と兄であえましたか黄泉の国
計画も願いもやぶれ悶悶と
腑に落ちぬコロナ共存ビクビクと
靴下を脱いで疲れもやっとこさ
秋冷の花色冴えて凜と咲く

三田市　上田ひとみ

いくつかの道あったかも知れないが
簡単に気持がわかるなんて言う
ボールだけ投げてあなたは居なくなる
幸せと言えばなんだかあったかい
窓ガラスきれいに拭いてみましょうか

三田市　大西重男

GoToに浮かれて福祉置き去りに
今日もまた手抜き料理をひとり食べ
お賽銭上げた分だけ頼んどこ
湯が冷めてはっと目覚める風呂の中
夕飯のメニュースマホに教えられ

三田市　尾﨑一子

アメリカの巨大大陸選挙戦
人間の本性あらわああ刹那
コロナ菌たっぷり蒔いた選挙戦
秋色に染まる街路樹展示会
スーパーの買い物ですよ予定表

三田市　九村義徳

高齢化介護保険が音を上げる
古稀の坂ヨイショと越えて次は喜寿
引き返す勇気が次の力溜め
聞き上手次の話を待っている
ルミナリエ灯す平和の鎮魂歌

三田市　多田雅尚

終息を密かに願うオリオン座
マスク顔だけを見て来た乳幼児
フィナーレも逃げず球児のストレート
二次三次来ても対処の術も無く
一年もかけた選挙の民主主義

三田市　谷口修平

どん底と言うが冗談出る余裕
天国に行ける切符を持っている
冗談の中に仕込んでいる皮肉
冗談で修羅場になったコップ酒
ネクタイを解けば気さくなお人柄

三田市　野口真桜子

当直医窓からのぞく烏賊釣り灯
内定は補欠が三つ浅き縁
中仙道座敷童に出あう宿
天国満員輪廻転生早くなる
吠えながら命ぬくめるコップ酒

三田市　松本ゆかり

秋冷や佛壇の鈴よく響く
乗り捨ての自転車露の玉を置く
ありがたや夫の遺金母娘旅
わが町は古さを捨てて立往生
粟餅はこんなちっちゃかったかなあ

高砂市　松尾柳右子

帰省子の集う正月待ちわびる
それなりに都合あわせた墓まいり
手を繋ぐ息子を頼る坂の墓
外食の家族マナーを身につける
カラオケの解禁待ちのデイケアー

宝塚市　丸山孔一

自粛とて野草自由に陽と遊ぶ
コロナ禍も地球履歴の一コマか
オシャレ着の娘足許スニーカー
切り張りの身体で何と傘寿とは
飲むことに理屈は要らんグッと飲め

丹波篠山市　北澤稠民

玉の汗惜しまなかった半生記
老いてなお明日の人生見通せず
憧れて買ったスマホの持ち腐れ
生きるため薬並べて飲んでいる
一杯と言うが行ったら帰らない

丹波篠山市　酒井健二

嘘自慢混ざった話聞いてやる
顔認証便利だろうか怖い世か
GoToに乗らな損やと煽られる
体力が無くてはなれぬ渡り鳥
生き延びてこの名月を只で観る

丹波篠山市　長谷川善輔

ファッションはマスクの柄の競う街
マスクを忘れこそこそ歩く秋日和
痛いとこ突いたか会話とぎれたり
スピード化ふるさとだんだん近くなる
何でだろ集合写真はピースだらけ

西宮市　福島弘子

鯖を読む見栄もなくなり八十路坂
お婆ちゃんの出番お節に腕ふるう
堂堂の行進小一運動会
間引き菜のみそ汁今朝も元気出る
延命はしないと子等に言うておく

西宮市　福田正彦

今一度自分の脳を耕そう
自我を捨て客観論で生きてみる
明日はまた違う世界が待っている
人間は休むとテンポ狂いだす
マイファースト疲れが内に溜り出す

南あわじ市　萩原狸月

大国のボスの選挙の体(てい)たらく
罵詈雑言もあるアメリカの自由
十二月八日は記事にせぬメディア
後悔は浪費して来た若い日日
アケオメで明ける若者たちの春

奈良市　宇賀史郎

四季毎の味覚誘う里の酒
弾んでる心の奥にある重し
受付に時代遅れの人間味
枯れ枝に花を咲かせた日を思う
この鼓動明日もと信じ手術台

奈良市　大久保　眞　澄

パスワードもメモした場所もわからない
ちょっとうるさいねん家事をする夫
会釈して三日あの人やったんや
コロナとやらはやく仮面を脱ぎなさい
不要不急はずして残る通院日

奈良市　加　藤　江里子

来る年こそ寄りかからずをモットーに
ご縁という見えぬ絆に支えられ
痛み知るバイデンさんに期待する
トランプ氏風穴開けた筈だった
健康であればと願う去年今年

奈良市　髙　橋　敬　子

家の事やり始めると止まらない
冬着もこもこ達磨に倣う転び方
アメリカの選挙の熱気わが家まで
大統領選爺のパワーに負けられぬ
齢どおりもたもた歩きしています

奈良市　辻　内　げんえい

もぐもぐを隠すマスクの使い良さ
喜寿金婚重なり子等に期待する
「やあ」で会い「また」で別れて逝った友
一年の進化見たくて孫に会う
なぜなぜと言ってた頃の孫が好き

奈良市　米　田　恭　昌

コロナ禍の世にもほのぼの初日の出
ひ孫二人増えて寿ぐ初春の膳
断捨離を僕の昭和が梃摺らす
一人抜け二人抜けして同期会
大統領選見苦しく地に堕ちた米

生駒市　飛　永　ふりこ

栗ごはんやっぱり母に敵わない
宴から斜め振り向きゃがらんどう
邪を払う七福神の掛け軸を
ほんのりと温もり通うココアの香
子から丑コロナ封じの瑞雲が

香芝市　大　内　朝　子

朝日浴び今日のドラマの幕が開く
断捨離ができぬ思い出付き纏う
レッテルの笑顔剝ぎ取る新コロナ
嵐寛の映画へ偲ぶ父の膝
独り寝を癒してくれる深夜便

奈良県　安　福　和　夫

自粛下で自然に触れる日日楽し
花の名を聞くが覚える自信なし
郁子（ひべ）の実にご利益ありと由来メモ
図鑑手に樹木や鳥をウォッチング
イソヒヨドリ囀りしばし聞き惚れる

埴輪の顔みんな素朴で美しい
新米で旬の魚介を食べる幸
予定表医院の名だけ埋まってる
コロナ禍で友との電話長くなり
散歩道しばらくぶりの人に笑み

奈良県　谷川　憲

紫陽花は作った人の色に咲く
大切にしよう小さな幸福度
巣ごもりが少子化防ぐ策なるか
注意点復唱しあう親子鹿
同期会みんなペチャクチャ大さわぎ

奈良県　中堀　優

鋭さが薄れ今では好好爺
十指みな動くよろこびみかんむく
膳二つ並べＧｏＴｏ旅の宿
出世にはみな縁遠く縄のれん
コロナの世マスクとマスク話す齟齬

奈良県　長谷川　崇明

戦列を離れた夫の丸い背な
名月へゆらりとドラマ乗せてみる
中ぐらいの幸と満月仰ぎ見る
したたかなネットの闇で迷う老い
泡立つもの流せぬままに日が暮れる

奈良県　渡辺　富子

老体を苛む気圧差寒暖差
コロナ禍は心の換気も忘れない
今が旬使い古した綿パンツ
貧困の暮らしにはない食べ残し
血が通う政治どころか切り捨てる

広島市　岸本　清

コロナ退散丑の粘りよ世界の和
もみじ狩りふる里想う父母思う
経済活動コロナの猛威治まらず
泣き喊る孫の背撫でるインコの死
コロナ禍暫し　リヒテンシュタイン展

竹原市　石原　淑子

友達の友達が来て日曜日
病は病　薬はいろいろありますが
病院のはしご毎日歩く足
人生の数字重ねて生きている
今日を生き明日も生きるコスモスよ

竹原市　岩本　笑子

それぞれの枝にそれぞれの蕾
怒ったり許したり男と女
若き日に漂い老いても漂う
定年を迎えゆっくり灰汁を抜く
藁葺きの屋根と遊んだシャボン玉

三原市　鴨田　昭紀

岩国市　上村夢香

酔うほどに心の声が目を覚ます
背負うものまたまた増える下り坂
心地よいことばをそっとくれる人
時刻表真っ只中にいる旅の
再就職大ベテランは年下で

宇部市　平田実男

生きて行く知恵に学歴などいらぬ
ライバルが逝って老化が急ピッチ
犬掻きで１００を目指している米寿
菅さんの胸に当てたい聴診器
実印のいる相談はおことわり

鳥取市　池澤大鯰

地金すらぼちぼち錆びてきはじめた
不合格これで三度目最終便
落日に例えるほどの大物でなし
峠まで送って別れてべつべつの道
リーダーは気づいているが何も言わぬ

鳥取市　奥田由美

沢の水が生命をつなぐ過疎暮らし
過疎地から今年も二軒人が去る
嘘ですと念を押しても付く尾ヒレ
ＧｏＴｏと煽られ妻と湯治泊
インプラントから嫁が倹約する食費

鳥取市　加藤茶人

謙虚だが敗けず嫌いが眼の底に
浜ちゃんが我が社にも居る釣り上手
濃厚な蟹味噌酒で割る珍味
注意せよ注意してます尚コロナ
空想の世界に魅入る児の絵本

鳥取市　岸本宏章

強権の姿勢が怖い菅総理
増税に第三ビール立ち向かう
紙風船昭和が遠くなってきた
もやもやを沈めて水が澄んでくる
コロナ去るまではやれやれとは言えぬ

鳥取市　岸本孝子

置いた筈言いつつ探すのが日課
ばっさりと切った髪には訳がある
諭吉さん崩し逃げ足早くする
ご機嫌斜めあれこれ愚痴の聞き役に
煮魚を崩して食べる現代っ子

鳥取市　棚田大

わめく子も名月見惚れおさまった
紅葉見る元気をもらいありがたや
人生の工面説く人声弱い
やれやれも気分良い時いやな時
口癖にやれやれと言い歳感ず

美肌への欲と未練は不滅です
人の縁生きる力の座標軸
また一つ苦言呈して嵐呼ぶ
過疎の村横断歩道ありました
箸にも棒にもかからぬ記憶力

鳥取市　谷口　回春子

久しぶりハグも握手も出来ません
孫のいる遠くの街が案じられ
コロナ禍の中でも律義冬は来た
幸いな事にコロナにまだ会わぬ
寝ころんでやれやれ電話ベルが鳴る

鳥取市　永原　昌鼓

新年へ笑顔いっぱい撒き散らす
したたかな孫が年金問うてくる
熱下がりやれやれ医者に診てもらい
工面した学費が泣いたオンライン
ふっくらの親父が辛いことを言う

鳥取市　中村　金祥

門限を咎められない侘しさよ
正しさを少しほぐして世を渡る
千羽鶴千のいのちが風になる
人間にもどる紅葉の潔さ
緊張という怪物が自滅さす

鳥取市　夏目　一粋

個人情報すぐに伝わる田舎町
巣ごもりの男料理に腕撓る
句作りの軽いノルマは良い心地
ウオッカのグラス片手にトルストイ
金婚を集いて祝う子や孫や

鳥取市　副井　ゆたか

前略とかしこで今日も恙無く
頑丈な五体に自信持ちすぎた
カマキリの三角顔が愛せない
日替りで海山川の散歩道
方向音痴娘がしっかりと継いでいる

鳥取市　福西　茶子

太陽の下は秘密が似合わない
ムクッと空から挑戦状がきた
別々の探し物して鬼ごっこ
惹かれます同じにおいのする人に
指先の温もり贈る和紙の花

鳥取市　前田　楓花

新コロナ一掃願う初詣
三密を避けて今年の初詣
マスク越し拝む初日も味気なし
紆余曲折歩む人生最終章
今日信じ明日を信じて生きる日々

鳥取市　山下　凱柳

鳥取市　吉田孔美子

猫のせい破れ障子は恥でなし
大鈴も揺らして山の咳払い
あと二年白寿の姑が看てと言う
終活にふさわしくないお買物
アウトには成らぬ中国という大地

鳥取市　吉田弘子

再検査覚悟が揺れる前日夜
早期発見だぶらせ乍ら草むしり
お悔みの挨拶声が尻すぼみ
田舎さえ井戸端会議死語になる
欲張らず三年日記今年また

倉吉市　猪川由美子

コロナという未曽有な事で年暮れる
GoToキャンペーンコロナ禍の中ピンと来ぬ
どんどんと世知辛い世へ要るパワー
大阪都構想仕掛けまた負けまた辞める
米大統領選混迷深めヒマかかる

倉吉市　岡﨑美知江

人間のにおいがにじむ窓際だ
誉め言葉大袈裟すぎて大笑い
腕白の日に戻ってるラムネ色
いいじゃない傘を忘れた事ぐらい
嘘一つに振りまわされて泡となる

倉吉市　田中紀美恵

大都会地図にない道迷いこむ
迷い子は母さんでした認知かな
手術の日医者に身託し夢の中
未来図を何度も書いて子に託す
湯煙で貴方の顔が美男子に

米子市　池田美穂

地味すぎて首相が誰か忘れそう
着る服はあるがお出かけ用はない
新しいスマホにいじめられている
県外車コロナ禍の今許されぬ
腹すかせ眠れぬ熊がかわいそう

米子市　伊塚美枝子

大山に昇る朝日を待って写メ
ピッチャーの手の中の球一人旅
いも掘りにはしゃぐ子供がもういない
イケメンのかかしに嫁と子を迎え
意地悪な心の声は聞かぬふり

米子市　後藤宏之

短所長所全部コミコミ私です
さびしさを見せたらあの時と同じ
もめごとをうまく処理する顔の皺
わぁはぁはぁと笑ったら癌が逃げていく
死ぬ迄は勉強あの世でのんびり

米子市　後藤美恵子

褒め上手師の赤丸に趣味続く
落書きは駄目だが見たいバンクシー
にきび面他人顔して擦れちがう
廃屋にバブルを語る床柱
安上がり玄関飾る身内の絵

米子市　中原章子

川柳へ集中をするエネルギー
日向ぼこ残るいのちを温める
居心地のよい椅子がありしがみつく
したたかと脆さを備え生きている
子は親を選べぬ悲劇繰り返す

米子市　成田雨奇

詳しくはホームページと言われても
とんでもないやつが貰えるのが天賞
すぐに熱冷めてテキストみんな捨て
まっ黒に塗り潰されて謎になる
もしかしてまさかいやいや呼名せず

米子市　野川宣子

体温計日課になった朝昼晩
知事さんの熱い思いはマスク越し
いつの間に地図から消えた裏長屋
胃袋も萎縮してます自しゅく中
どきどきもわくわくも無かった子どし

鳥取県　門村幸子

気の巡りよくなる風呂で五七五
トマト作りの自称名人からトマト
朝採れの野菜ですよと念押され
薄い紙うまく捲れぬようになる
地球上どこにも逃げ場ないコロナ

鳥取県　竹信照彦

炬燵出し丸くなるのも冬の陣
ＧｏＴｏでもコロナ禍隣県会えぬ友
米選挙景気無視して株上がる
年を経て赤チューリップばかり咲く
行く年に球根の意志継いで春

鳥取県　山下節子

家族です宝石よりも大切だ
泣けるだけ泣いて悲しみ流すのも
留守電がやっと通じた安堵する
もう少し追うものがあり頑張れる
目覚めれば昨日の罪は消えていた

松江市　藤井寿代

精一杯つぶあんとして生きていく
したたかに生きて白いメシが旨い
風の色変えたのはあなたの言葉
古希過ぎて蛍の乱舞まだつづく
持ってますまさかの時の２０００万

松江市　松本知恵子

山羊がいるうどん屋がある丘の上
宍道湖を遠く眺めてうどん食う
父が飼う山羊小屋に雪あった日よ
冬は密ダンボール箱猫眠る
安さより安全ゴーツーヘソッポ

出雲市　伊藤玲峰

水もよし空気もよくて息災に
手洗いに嗽にマスク婆元気
老いたとて百％動きよく眠る
生かされて友の難儀も庇い合い
そろそろに別れも多くなる歳だ

出雲市　岸桂子

生涯を無題と書いて生きようか
手の甲に浮く血管にある歴史
エレベーターブザーにわたし降りる破目
忘れ傘わたしを待っているだろう
好きだった人の名今日の死亡欄

雲南市　菅田かつ子

元気かえ風が便りをもって来る
コロナ禍へマスク姿の案山子君
あれこれと忘れ上手で生きている
側に来た蜻蛉と話す墓参り
ショーウインドー背なを伸ばせと励まされ

島根県　伊藤寿美

NOVEMBERまだ居坐っているコロナ
カサブランカ匂う施設もマスク義務
ストレスが斑模様にする甲羅
空港ピアノ　コロナ鎖国を和ませる
遺言は楽しかった日を書こう

岡山市　大石洋子

黄ばむ嘘まだ抱いている芒原
お母様私も義母になったんだ
鉢割って盆栽の松生きのびる
鬱の字の密を避けたい秋桜畑
乾燥肌こなふくころは冬となる

岡山市　工藤千代子

秋さなかやっと見つけた出入口
ああ言えばこういう事も言わぬ夫
パジャマ姿でパン噛りつつ返事
意味もなく頷く鳩の妥協癖
箸先に今朝は風が吹いてくる

岡山市　前田恵美子

夫とは酸素と水のような人
夫だけ鼾かいても許す人
娘には幸せな顔して欲しい
孫たちよ元気で好きな場所で咲け
家族って体に馴染む服の様

永遠に枯れない愛を咲かせたい
前向きな心と結ばれるご縁
スモークチーズになるまで燻す愛
上昇気流にふわりと恋は乗る
ギャラリーの居ないところで咲かす花

笠岡市　藤井智史

勝負の日母の形見のペンダント
どの孫に母の形見をゆずろうか
30年も大事に仕舞う勝負服
気の合った友とのランチ至福時
朝シャンで昨日の失語流してる

岡山県　高岡茂子

避けられぬ老々介護忍び寄る
駄駄こねる老馬大地に解き放す
行先を忘れたらしい秋の蝶
したたかに生きております割烹着
改めて自然に感謝する命

岡山県　田中恵

母の癖真似るつもりはないが似る
本心はまだ伏せているレモンティー
私より信頼される免許証
ちちろ虫血縁のないひとと聴く
翔ぶチャンス狙う女の羽繕い

岡山県　藤澤照代

純白のマスクを行き来さすコロナ
柿たわわ幼に戻る里の秋
のんびりや亡夫の芯に励まされ
薔薇いっぱい生けて部屋中美しい
窓開けて紅葉の風と青空と

岡山県　山縣のぶ子

孫二十才倖せ光る薬指
薬包紙鶴折る祖母が居た昭和
百薬は孫の元気なあの笑顔
何時止める時期を模索の白髪染め
余生とや牛の歩みで楽しまん

東かがわ市　川﨑ひかり

純白になるってこうも難しい
想定外もうまく宥めて生き延びる
細首に恋したんだねモジリアニ
紙風船ふわり昭和を連れてくる
男も女もみんな許して黄昏れる

松山市　栗田忠士

段畑も棚田も消えていく故郷
「故郷」を唱うと景色目に浮かぶ
旧家だなあ瓦一枚にも威厳
猛暑猛暑の反動恐い猛寒波
ノーベル賞をコロナ治療特効薬

松山市　古手川光

松山市　柳田かおる

追いかけるスリル未だまだ好奇心
えんぴつの本音いつでも消せますの
鏡にもわたしの素顔みせてない
ささやかなプライドコーヒーをたてる
鍬キズのお芋ばかりの夕ご飯

西予市　黒田茂代

よう咲いた今年挿木の百日紅
二十年大事無かった歯の治療
駅ピアノ気軽に聞けるから楽し
早寝早起きわが家の消灯は十時
他愛ない日々を重ねて黄昏れる

西予市　西田美恵子

振り出しに戻る時間をくれた人
少し尖って生きるか丸く生きてくか
これからは二人で開ける扉です
綺麗事書いて空しくなってくる
有頂天心は時速二百キロ

北九州市　小松紀子

就職が決まった孫の菓子とどく
ちょっとうれしいちょっと幸せ誕生日
眠れない時は眠らず五七五
息子が出かけ音量あげて見るテレビ
三密回避紅葉探して散策

唐津市　坂本蜂朗

人の前しゃんと背筋の伸びる老い
コロナ禍に紛れて止める年賀状
新しい年に希望を託す老い
片仮名語今日も一日落ち付かず
生きる喜びを支える老いの脚

唐津市　山口高明

神苑は女人禁制沖ノ島
対策へ空気重たい会議室
霊峰に初冠雪の寒い朝
寿命とは諦め切れぬ子の事故死
他人さまの事も気にする苦労性

札幌市　小沢淳

８６　８６kgもて余し
腰痛む四足歩行が懐かしい
花のない雑草で生き悔いはない
意地張った付けが時時疼きだす
合理化の果ての結晶五七五

弘前市　稲見則彦

月は綺麗なのに心晴れぬまま
鳥居にはちょこんと鬼がいる津軽
一面の白津軽は眠りの中にある
夜の星最近増えたような気が
共白髪付き合わないと言う妻と

巣籠りで読書三昧羨まし
女一人土地を貰って苦労をす
ひとりして彷徨い訪うた彬の碑
季節感無くなるコロナ早う去れ
初雪に今年も冬が来るんだね

弘前市　今　愁女

意気込みは健在一月のこよみ
三が日矢っ張り美味い酒になる
お正月少し横向く検診値
終章に晩成の二字引っかかり
簡単にウィズコロナと言われても

塩竈市　木田　比呂朗

虫の音にモーツァルトを添えてみる
胸底を覗きに来てはいけません
また痛み増えた私の部分品
冬時間ドラマがすんでから散歩
雨上りベンチ休憩あきらめる

上尾市　中村　伸子

麻酔銃で帰されるクマほっとする
夫の命日満月の代弁
亡き夫の好物柿をはんぶんこ
初雪のニュースとコロナ拡大と
ひらがなの手紙がすっと腑に落ちる

朝霞市　前田　洋子

長生きをしようとあやふやな約束
喜寿迎えなお解らないことばかり
断捨離の捨てる袋をまたのぞく
いつからか優先席へためらわず
無理にでも笑いなさいと主治医から

越谷市　久保田　千代

夢の亡父ゴジラの後に登場す
只中の老母に聞きたいこと多く
及第点低く設定するのも手
万全を期すとへっぴり腰になる
冬の句を読んで始める冬支度

東京都　川本　真理子

少年ジャンプもと少年は今もなお
伯父にさそわれ友を誘って歌留多会
百人一首ねむくなったら替えうたを
替えうたに二階がゆれるほど笑い
むかいあう紅組のひと好きになり

東京都　まえで　とよこ

秋晴れにコロナ疲れを天日干し
悲しみは友と笑って消していく
日向ぼこ犬もアンテナしまい込む
十三夜恋話など聞いている
カップルに囲まれスマホ手に独り

八王子市　川名　洋子

横浜市　川島良子

GoToにはしゃぎコロナに油断する
それぞれの選んだ道で掴む夢
支持率に響きませんか拒否説明
連続休場横綱特権への疑問
バイデンに変わり世界はどう変わる

横浜市　菊地政勝

半年のマスクに呼吸弱くなる
触診の医者を信じて通ってる
甘くみたコロナに暮らし変えられる
普段着の会話でこころ許し合う
目礼をされて戸惑うマスク越し

可児市　板山まみ子

人として幅を広げた辛い過去
品位なく節操ないが支持多数
筋肉が減らないように昼も肉
運命と生きるしかないコロナの世
知り合いに次々出会う好きな道

犬山市　関本かつ子

百均の開店気前良い財布
亡き友も私も若い華のパリ
お見送りさせてもらった家族葬
覚悟などしない余生は自然体
軽トラも案山子も消えて空っ風

愛知県　早川遡行

まだ杖を頼るほどではない歩幅
埋もれた才能が弾く駅ピアノ
戦争でしか戻らない島がある
暖かい日差しを追って生きて行く
台風に負けぬコロナの二波三波

（前月分）河内長野市　森田旅人

食道楽最後の晩餐はおもゆ
仏飯をさげて茶づけと冷の酒
稲穂みるただそれだけで誇らしい
よく食べてくれて嬉しい子は五十路
飢え知らず母の苦労も知らぬまま

（前月分）大阪市　田中廣子

目覚しが鳴らず昼寝の時間過ぎ
痛いのでつい甘えてる座ってる
旅プラン良くても足が動かない
地図を見てお出かけプラン思案中
トランプの無謀な仕方何と出る

新家完司川柳集（七）
『令和元年』
定価　1000円＋税＋送料
お申込み先　新家完司
TEL　0858-52-2414
FAX　0858-52-2449

川柳塔の川柳讃歌 ⑲

上方芸能評論家　木津川　計

編集長が5Bで書けという殺気

内藤　憲彦

笑いました。朱夏編集長が「5Bで書け」と迫ったのですか。しかも「殺気」立ったのですから彼女は怒っていたのです。年を取るほどに弱くなる筆圧です。HBの鉛筆なら薄くて読みにくいのです。何しろ朱夏さんも寄る年波です。視力も衰えつつあるのです。殺気立つほどの命令口調になるのは彼女も老化に抗っているからです。僕は怒鳴られないよう4Bで書き続けてきましたが5Bに変えます。憲彦さん、編集長には逆らわない事です。

三食は残らず食べて骨粗しょう

関　本　かつ子

達者でありたいと三食をもりもり食べてきたのです。まさか骨粗しょう症になろうとは、思いもよらなかったのです。「足腰を鍛えに鍛えて癌で死に」と詠んだ川柳家がいました。引き合わんではありませんか。因果応報は嘘偽りです。国語辞典には「人の行ないや考えの善悪に対して必ずそれに応じた結果がある」とは坊さんたちの働かせた悪知恵です。三食と骨粗しょう症は無関係です。かつ子さん、食べながらも医師の指示には従うことですよ。

何やってたんだか二千二十年

永見　心　咲

年を取るほどに一年が早く過ぎるのは年齢分の一だからです。十歳の少年は十分の一ですから一年は長いのですが、私は八十五分の一です。あっという間です。その短い一年をどう過ごしたのかが思い出せない。だから私は手許に今年と去年の手帳を置いてあるのです。いったい去年は何をしたのか、いつも確かめるのですが、それなりのことはやっているのです。人間、無為には過ごしていないのです。心咲さん、値打ちのある一年でしたよ。

私をニートなのかと孫が聞く

川　本　真理子

「ニート」ということばを知っていても老境の無聊がお孫さんにはわからない。引きこもりと見られては立つ瀬がない。無聊のよろこびを楽しみ味わっているのです。男と女には大きな違いがある。女性はいくつになっても達者なら、することがいっぱいある。だが、おじんはただボーッとへたりこむばっかりでなんにもすることがない。ある日、初めて区民図書館へいくと、おじんばっかりだった。真理子さん、無聊を楽しむのもいいことです。

一日も無駄に出来ない余命です

大西　重男

年寄りの一年は短いのです。まして平均寿命を超えると一日一日は貴重です。もし癌と診断され、余命を宣告されると命へのいとおしさがつのります。「タイム・イズ・マネー」は刻苦勉励の勧めにとどまらず、命の大切さの賞揚でもあったのです。宣告の有無にかかわらず、だれしもが持つ平均寿命です。年ごとに減っていけばこそ「一日も無駄に出来まい」のです。老いて知る命の有り難さです。重雄さん、一生懸命に生き長らえましょう。

趣味をもつ心豊かに生きる術

大浦　初音

確かに、趣味は心を豊かにします。それだけでなく、趣味には力があるのです。それを私は〈趣味力〉と呼んできたのです。以下に列記します。①向上心を与える。②夢をふくらませる。③達成感のよろこびを味わわせる。④遊びのよろこびを知る。⑤人生を楽しみながら生きる。以上の5点です。なんと心豊かになることでしょう。初音さん、幸せですね。

西尾栞句集『水鶏笛』

夫婦は二世おたやんなれど辛抱する
時雨よし河内のはての灯を守る
紅葉寺明治の夫婦手をつなぎ
燃えもせずさめもやらずに珊瑚婚
夫婦喧嘩長男にフフンと笑われる
迎え傘の妻に教える水溜り
悟れる如く諦める如く老夫婦

「家族風呂」

トマトからして嫁と気が合わず
遠い耳へきかす根気を嫁はもち
姑のたまに笑えばサタンめき
皿割った音を奥さん寝間できき
意見する儂がまだまだ遊びたし
効きすぎたかと両親の瞳が出合い
姑とは半分きこえる耳をもち
掃苔の一人は義理の仲の人
プラモデルませた言葉で手伝わし
孫が来て碁石がたりぬ駒がない
苔はやす石を孫等のすべりんこ
巻ずしの中だけ食べるお祖母育ち
水引に鏝あてている十二月
おむつまで提げてと姑眉をよせ
染め直し昔の生地をほめられる
ゆきとどいた言葉で姑おくり出し
鼻がようきいて姑の因果なり
五人目の孫抱く力余りけり
孫が来て儂のペースをくずすなり
孫達のとりあう膝を広く組む
おんなじ話きくも孝行の一つなり
アルバムのここから軍服姿増え
結局は我が家をほめて帯を解き
せやさかいにとゆるう叱られる
宿題へ時々夜なべロをきき
みんな帰してホンにおなかすきました
それぞれにスポンサーがあり孫達者
俺は独酌妻は家計簿差し向かい

自選集

前へ前へ前へ闘牛の眼が好きだ
涼しい眼をしたマタドールのムレタ
肩車ひょいと遠い日の父よ
鏡文字否定をしてはいけません
鏡文字パパへのラブレターでした

小島蘭幸

健康は金では買えぬけどオカネ
血圧は高め元気なお父さん
目指すのはポテトサラダほどの人気
絞っても絞っても出てこない知恵
掃除機がガルルとぼくを追いつめる

高瀬霜石

旧暦の中に日本の美しさ
ドキドキもワクワクもある余生の日
ギア一つ上げて自分を確かめる
眼覚めれば今日が終っている予定
聞けぬまま生き証人がまた消える

竹治ちかし

高齢者増えワクチンも底をつく
紅葉の威力へふらりひとり旅
迷惑をかけない様に医者梯子
満天の星電飾と競いあう
怯えてはおれぬマスクと年を越す

津守柳伸

せめてもの夕焼け見てる窓の下
雑草だけれどまだ枯れません秋の花
生きている証拠痒いとこがある
レストランも居酒屋も遠い世界です
本年の計報第一号は同窓生

都倉求芽

せいてせかん言うてヤボ用せかされる
アナログ庁お願いします総理殿
神様を罰したいこと数多あり
自分への褒美ボーッと小半日
松茸さんま　あきらめせめて栗ごはん

西出楓楽

しきたりの意味を考え祝う屠蘇
昨年は米寿だったと偲ぶ屠蘇
政治家と世間を叱ると不味い屠蘇
選挙には必ず行くと誓う屠蘇
要するに戦なき世を祈る屠蘇

仁部四郎

あと少し生きてポックリ逝くつもり
生かされて朝の目覚めの嬉しい日
お勤めの指先ネギの匂いする
コロナ禍の真っ只中で生きている
霹靂を食べて傘寿の旅つづく

福士慕情

辛かった過去それなりに　それ以後も
断捨離をした筈なのに溺れそう
向こう岸見えているのにまだ生きて
私からそっと零れていったもの
秋の夜は花と夕日とお月さま

松本文子

明けましてバッカス君と屠蘇を酌む
晩酌で体内消毒怠らず
通帳に見る幻の二千萬
余命表踏ん張っている土俵際
老いて待つ天国からの蜘蛛の糸

三浦強一

昔はね正月に歳とったもの
出さなかった人からやって来る賀状
何はともあれおめでとうおめでとう
パソコンに遊んでもらう定年後
一足す一が二とは限らない世間

三宅保州

生きるとは厄介好きと嫌いとか
母の背で見た真白な月きれい
雪空になってコトコト鍋にする
サラサラと一筆書きで愛を描く
木の葉舞う詩人の顔になるベンチ

宮西弥生

それなりの暮らしコロナに教えられ
断捨離を蹴躓かせる貧乏性
消毒液待ち構えてるレストラン
マスク越しの言葉籠って聞きとれず
GoToに乗ってコロナが飛び回る

村上玄也

渋皮の下には大いなる勇気
オムニバスなのに全てがよまい言
来し方を語り尽くした枯葉たち
コスモスは俗受けなどは狙わない
除雪機の雪ほど迷惑は掛けぬ

森山盛桜

父の弓

オアシスはあった　枯野の突き当り
決められた日には必ず湧く泉
金太郎さんは年金貰えます
ウラシマタロウニハ年金ハアリマセン
枯野まで守ってくれる　父の弓

八木千代

こだまするおめでとう三年初春
過去はきらきら栄光は瞬時
コロナ退散へ神様ほとけさま
仏壇を守るかたちに背が曲る
三歳のつぶやき光る五七五

山本　希久子

荒れ地にもいっぱい咲いている明日
腸の中は即席麺ばかり
景色まで変わった座り直したら
約束はまだ果たせない砂時計
時どきは確かめておくヘソの位置

川上　大輪

卒寿迄ちょろちょろ生きて行く
ゴキブリよ　ちょろちょろするな　おめでとう
新春の風おだやかに舟を漕ぐ
新春の雪云訳はするなかれ
新春の雨にも負けず餅を焼く

板尾　岳人

マスクして痩せたサンマを買ってくる
苛立ちのしょっぱい菜が出来上がる
新米を炊く日に開ける吟醸酒
ドングリが足りずに熊が殺された
文字食べて紙魚と似た者同士なり

居谷　真理子

卒寿から白寿へ一歩祝箸
丑の年まだ手付かずのお元日
尊敬も軽視もされて老い自覚
古木でも花も実もつく春を待つ
椅子に掛け心は正座して写経

北野　哲男

コロナ禍の街を影絵のごとく行く
コロナ禍の街庇いあう肩もなく
淡き夢を分かち合うには遠きひと
巣ごもりも良し本があるペンがある
肩の力抜いてしばらく死んだふり

木本　朱夏

あたたかい「おんぼら」という出雲弁
ヘモグロビンAlcが攻めて来る
減ってゆくイノチ片付かぬ仕事
疫病退散願掛けをして冬籠もり
株で儲けた法螺吹いて高鼾

新家　完司

小島蘭幸川柳句集
『再　会Ⅱ』　領価　千円（送料共）
ご希望の方は川柳塔事務局まで
TEL 06-6779-3490

句集の森

『夫婦傘』

高須賀（たかすが） 金太（きんた）

銀婚の旅へ潮風暖かい
ほころびを繕い合うて夫婦傘
運命の糸でつながれてた夫婦
母さんが噴火している夏休み
貧乏な父の遺品が僕でした
少しずつ夫婦で埋める白い地図
中心がずれて回らぬ夫婦独楽
人という形になっている夫婦
夜勤明け腑抜けのような昼の月
目に青葉とてもじゃないが地下勤務
改札をシャネル五番が駆け抜ける
職を退く帽子をかぶり直さねば
殺生な定年おれはまだ若い
ふとん干す竿の先まで秋である
骨箱の中から洩れる反戦歌

（平成3年3月3日　発行）

温故知新

小出智子川柳集『蕗の薹』から

諦めた筈の命が餅を焼く
二で割った数で夫婦はことが足り
布団引っ被って傷口に蓋をする
莫迦な女が一人ぐらい居てもいい
草臥れて浦島太郎の夢をみる
包んでみると意外に軽い私の荷
名曲をゆっくり聞いている仏
三日四日静かに雛を眠らせる
ここまで来たからには生きてゆく手立て
去年のことは忘れて菫咲いている
許されて亡母とおんなじ眉をもつ
灯を消して故里の山濃くうすく
長いことかかって橋を架けている
空っぽになって山から降りてくる
スリッパにわたしの癖を覚えられ
けったいなとこに忘れてあった傘

西出楓楽選

コロナでも川は流れる花が咲く
テレワーク怪我の功名かも知れぬ
コロナでも三度三度は食べている
老人ホームお隣ですの天国は
悲しいが自分のことでいっぱいだ
感謝で目覚め感謝で眠るありがたさ

宝塚市　太田　としお

口角をちょっと上げれば生きやすい
カラオケで表情筋も鍛えてる
幸あれと心耕し種を蒔く
老化した頭耕す五七五
ご用心角を曲れば下り坂
老いの敵知らん分からんじゃまくさい

河内長野市　穂口　正子

間が悪くいつも歯痛は休診日
エコバッグ忘れて担ぐ米5キロ
カップルも席を離され見る映画

豊中市　齋藤　奈津子

人違いマスクの顔にごあいさつ
亡き母に褒めて欲しくて墓参り
曲がるまで手を振る姿目に残る

大阪市　降幡　弘美

犬たちよ服を着せられ嬉しいか
電球が切れかかり濃くなる化粧
彼女でき少しやわらぐ反抗期
シーズンオフ気持ちはすでに来年へ
高級品買って仕事をやめられず
もらうよりあげるのが好きプレゼント

高槻市　鳥居　宏

コロナには同窓会も終に負け
川柳で付ける元気と空元気
大統領選挙は狂気銃が売れ
この男歴史を逆に回しそう
朝笑顔夜は満足の顔で床
死ぬなよと電話切るのが友の癖

若干の嫉妬を添えて出す祝儀
進化論鼻であしらう兜蟹
私には無いかも知れぬ頭脳線
付け届け効くのだろうか閻魔様
コロナなど我関せずと炬燵猫
仏滅に立った茶柱いとおしい

和歌山市　西川千鶴

寄せて上げイミテーションのAカップ
昭和には意外と夢が溢れてた
無理をしてないか汚れた作業服
黄金色稲穂が癒す遠廻り
立ち呑みの暖簾の下にハイヒール
ややややを並べ横綱生き延びる

泉大津市　助川和美

仕事より飲み会の世話熱心に
やさしい目口を開けば様変わり
根が生えたように動かぬ無精者
よしいけるこつが分かればすいすいと
ステイホームずる休みとは違うんだ
五十余年起伏に富んだ夫婦道

堺市　羽田野洋介

コロナ禍で世界の歴史塗り変わる
GoToは止めて近場の菊花展
ちらちらと見える下着がお洒落なの
不死身のボンドも歳にはかなわない
非常ベルいたずらしてはいけません
失敗は覚悟の上で挑戦す

西宮市　高橋千賀子

安倍さんのレガシーそれはあのマスク
防護服持参で五輪やりますか
おばちゃんの軽いジョークに棘がある
後僅か昨日も聞いたテレショップ
シワよりも悩みを隠す化粧する
私でも若い頃には光ってた

泉佐野市　樫葉良子

朝とれの野菜娘へ文添えて
赤い糸今はスマホで繋がれる
終電車朝の意欲の残りカス
産見舞欠伸とくしゃみ誉める客
晩秋の虫のつぶやき聞いてやる
蓑虫のごとく朝冷え子の寝相

小野市　田中辰夫

頑張れとエールをくれる孫がいる
私の行く先スッキリ見通せる
コロナ禍に知らない事を知らされた
遠廻りしても古里なれた道
折合いがなかなかつかぬ老夫婦
今一度見直すチャンス家族愛

鳥取県　橋谷静江

妻入院昼食飛ばすことにする
妻入院風呂では寝ないことにする
妻入院言うことときかぬ洗濯機
妻入院忙しいです忙しい
妻入院花瓶の花が枯れたまま

松江市　中筋弘充

玉砂利を踏む音邪鬼をつぶす音
欄外に押印廃止というハン
一杯の酒で気づかぬ王手飛車
少しだけ呑むならやめてお茶にする
悪い事ばかりがよぎる雨の夜

安来市　原徳利

予定表真っ白にして妻に添う
復興の汗を見てきた天守閣
オレオレに試されている電話口
横断歩道杖には青が短すぎ
煩悩が消えて男が痩せてくる

広島市　常國喜好

にんげんの優しさ怖さ紙一重
言の葉を紡いで命あたためる
ハッピーなドラマにしたいペンの軸
先人の教えに添ってきた旅路
綺麗事だけで通れぬ道がある

尾道市　小川道子

喜びも悲しみも知るわが名刺
金婚の旅は九州城めぐり
政治家は図星指されて早口に
八十路坂名刺は住所氏名のみ
白黒の写真記憶が色をつけ

尾道市　小畑宣之

体力測定十歳若いと檄貰う
気温差へ昨日冷麺今日おでん
釣果待ちまずは庖丁研いでおく
あこがれは美しくはらり散る紅葉
お向いも空き家となって沁みる秋

竹原市　若年幸子

コーヒーとビデオでわたくしの自粛
ハロウィンもジングルベルも外来種
忘れられそうなので大きな声を出す
プライドを時に忘れている齢
官僚的総合的俯瞰的

三原市　笹重耕三

樹木葬いのちが土に還るなら
やり直すチャンスを呉れたロスタイム
喜寿からは台本なしの一人旅
老い耄れでないぞと被る冬帽子
手を置けば妻の墓にも秋の冷え

阿南市　小畑定弘

ピンクから赤へ大人になる少女
かすみ草バラの刺さえガードする
弱点も味方にすると面白い
極限を味わう力サバイバル
ふる里の水は心まで洗う

大洲市　花岡順子

たくさんの猫がいる島いつか行く
血圧計わたしの心浮き沈み
菊香る去年の思い出連れて咲く
被爆国日本が批准しないとは
起きようとすれば布団がまだ居ろと

福岡県　本田さくら

人の噂今や十日もあれば消え
金縛り遇うたが如く冬布団
人の世がコロナ仕様となる因果
定年が増やす水道電気代
ゴミの日と烏ガアガア広報部

唐津市　前田廣幸

敗北という棘だけが抜けません
栓抜きの錆の匂いと夕焼けと
初歩的なミス繰り返すだけの恋
さらさらがすぐカサカサになる女
振られたのだろう競歩で帰る兄

佐賀県　真島久美子

根拠無き噂ひらりと風に乗る
鴛鴦と思ったはずの離婚劇
後後を案じ家計を引き締める
ひょっこりと昭和顔出す路地の裏
鏡拭くたましい磨くように拭く

宮崎県　黒木栄子

木枯しに取り残された葉の震え
お返事を急かして雨が加勢する
落葉踏むうわさ話を消すように
雨音はやがて静かに雪となる
ああついにお出ましになる白い使者

黒石市　北山まみどり

お隣とおんなじ草が生えてきた
種が飛ぶ雑草安堵して枯れる
級友の名簿へ没と書く辛さ
五目にはしないぞ新米のご飯
出番ないスーツやっぱり捨てられぬ

白河市　鈴木たけし

熊達の山に果樹園作りたい
潔く負けを認める人が好き
大相撲つい懸賞を数えてる
草むしり終えて湿布をベタベタと
元気なら子供食堂やりたいな

横浜市　巌田かず枝

各務原市　喜多村　正　儀

本当のことには勝てぬにらめっこ
出まかせの嘘が西日に乾涸びる
残菊に縁の人の香のかすか
まだ泳ぐ貌して並ぶ冷凍魚
ははの日は母の顔して浮かぶ雲

名古屋市　山　本　三樹夫

ハンドルを持つと紳士が狂暴化
あおり行為厳罰化でも効き目薄
服の色若く見せます少しだけ
ちびり酒峠の紅葉ひとり占め
それぞれの想いが違う散歩道

京都府　北　野　クニオ

ベッドから空を眺めて日を暮らす
コロナ禍で人との絆うすくなり
何事も甘く見ている悪いクセ
三度目の命をもらい感謝する
古里の小学校は今は無い

大阪市　今　村　和　男

木枯らしは便座の温度一つ上げ
冬眠の亀を起こしに鶴が来る
一日中寝ている猫に起こされる
寒いのを肴にしては酒二合
コロナ消え乾杯したら目が覚めた

大阪市　岡　田　恵　子

若いねと言って欲しくてイチゴパフェ
遅くまで愛を語った青かった
シナリオの通り泣けない意地っ張り
傷口を舐めて魔法をかけた人
ステイホーム酸素不足の熱帯魚

大阪市　阪　本　秀　子

コロナ禍で寄れぬ正月ものたりず
コロナ禍をけじめてほしい今年こそ
新年にこころに届く年賀状
賽銭に国の温和な日をねがう
父母の仏前おせち挨拶も

大阪市　柴　本　ばっは

大家族だった昔のお正月
元旦もやっぱり母は割烹着
お重箱自己満足のお節詰め
ぶどう豆時間惜しまぬ祖母の味
独りでも旭日静波軸も掛け

大阪市　中　村　峰　子

意味求め悩んだ昔懐かしい
五七五気持ちを埋める溶けていく
生き直ししているつもり日々楽し
一円を拾うかどうか立ち止まる
ありがたいいい按配に年とった

天高く元気真夏の倍ほども
歳重ね取り越し苦労徐々に増え
朗らかな孫幸せな日々らしい
ここもまた昭和の家を壊してる
百坪に三階建てが五棟建ち

大阪市　樋口　眞

十万円をそろそろ使い冬支度
無色透明敵は匂いもさせず来る
淋しい人が集まって来る喫茶店
コロナ禍に支配されつつ行く月日
落葉を拾う綺麗な色を選りながら

大阪市　森　廣子

熱い風呂世渡り鎧溶けてゆく
妻は実家二合ですまぬ秋の夜
飄々と嫌味に皮肉受け流す
美味いチャーハンご飯が踊るパラパラと
父が逝き兄逝き今は追う背なく

池田市　倉本一弥

追憶の沖合遥か昭和丸
去年二人今年は一人菊花展
ハナミズキ実も葉も染めて冬至待つ
重心をどこに置いても我非力
三日月が寂しい心について来る

交野市　山野双葉

秋風へ真夏の傷が疼きだす
忘れていた傷が勝手に喋りだす
たらればを思うと早い夕間暮れ
明日という未来へ五感研ぎ澄ます
風になり落ち葉と遊ぶ秋一日

門真市　坂本星雨

コロナ禍でおうちごはんが待ち遠し
愚痴小言妻は構えて聞いている
人の来ぬジムで淋しく汗流す
ステイホーム夫婦諍い増えて来る
お別れの挨拶もなく友が逝く

堺市　古川光雄

年末の墓の掃除で事納め
掃除して客を待ってる春の窓
今年までも命に感謝屠蘇をのむ
試着室私はモデルポーズする
儲け話半分嘘と思い聞く

豊中市　貝塚正子

散歩後にコーヒー飲んでスイッチオン
全山油絵錦の嵐山
民主主義色あり過ぎて纏まらぬ
令和の惨禍戦時中よりましか
明日の絵を描いてコロナ禍を生きる

寝屋川市　川本信子

寝屋川市　廣田和織

来秋もやる気案山子の冬ごもり
多面体今日はどの顔使おうか
人間を矯めて好みの型にする
八起き目で立ち上がること上手くなる
自信家が躓きやすい下り坂

八尾市　田邊浩三

今更に妻の料理に感謝する
我が家ではファーストレディー曾孫です
年寄りはついて行けないカード社会
遠足だテルテル坊主マスクして
イヤリング彼女見分ける印です

大阪府　奥野健一郎

形だけ真似てもばれる付焼刃
のほほんの彼にもあった修羅の過去
冬木立しじまのなかに自己主張
異議ありと挙手してからの風当り
褒め合えるところをさがす老いの日々

神戸市　近藤勝正

コロナで明けコロナで暮れる令和2年
渋柿もステイホームか渋抜けず
アメリカの恥部を曝した選挙戦
デモクラシー標榜したよねアメリカは
あの国で信じられない泥試合

神戸市　斎藤隆浩

効き目には個人差あるという薬
アッシーくん免許返納チャリを漕ぐ
スマホなしパソコンもなし不便なし
給付金一夜で稼ぐ新生児
宣言が解除されても自粛中

神戸市　米田利惠子

心配をさせた息子の軽い足
転け方も上手くなったと七転び
捨てられた顔にマスクが丁度よい
足を投げ出す坊さんも帰ったし
老化現象だと念を押す心電図

芦屋市　新阜義明

冬近い自販機表示あたたかい
テレワーク妻のストレス半端ない
息掛けてハンコ押す癖直らない
GoToで終のすみかを探す旅
ミシュランへ我が家の味も召し上がれ

尼崎市　清水久美子

遣り直し利かぬ齢が恨めしい
姪の子を連れて鬼滅の刃観る
エンジンがかかるゴッホの複製画
巨人のV決めた戦犯タイガース
ほったらかしで生る里の柿や栗

アフリカのカバはきれいな肌の艶
実家の廊下鶯張りになっている
画像見る医者の気配を察知する
里芋が大きな顔でムックリと
送られた新米そろり噛み締める

尼崎市　山田厚江

明日生きる希望のページめくる風
どの道に逃げても影は付いて来る
怒濤の波テトラポッドは受けて立つ
辛酸を嘗めて不屈の夢を追う
見上げればこんなに広い空がある

伊丹市　延寿庵　野鶴

さりげない笑みに溶け行く弥勒像
指揮棒の先でバッハが呼吸する
喝采を浴びてピエロは夢繋ぐ
いいわけは決していわぬ冬木立
ボルダリング世間の壁にしがみつき

伊丹市　岡村風琴

寒暖差鼻がムズムズ騒ぎ出す
思い出と秋を探しに二人旅
断捨離も思い出の服捨てられぬ
いくつかの鞄にマスク入れておく
洗濯もこだわりあって私流

三田市　森　玲子

サンマなど贅沢だから鯛を食う
ロボットに負けて声量うんと下げ
酒飲めば与太川柳がドッと出来
いそいそと不要不急に取っかかる
日本語ペラペラ腹の立つガイジン

宝塚市　岸田万彩

したたかさ少し残して八十路生く
今日の無事あしたの糧へプレゼント
腹八分どんな事にも当てはめる
判断が遅くてチャンスまた逃がし
ふるさとの美味しい秋が巡り来る

丹波篠山市　藤井美智子

シールド越しステーキ食べる昼無口
晴天へふわりわが家の木守柿
レシピ増え少し太った夕餉の灯
くったくもなくてにこにこ日向ぼこ
ことしまた五感を磨く一行詩

三木市　山口ヨシヱ

ジグザグの一本道がマイウェイ
このからだ野ざらし覚悟道半ば
よし決めた一行詩人わが道は
この道はどこに続いているんだろ
こんなにも潮の香りが胸にしむ

生駒市　饗庭風鈴

和歌山市　倉橋悦子

一年の計成りゆきに任せよう
着飾って人生最後年おんな
新年が京の料理で明けまして
逝った児が一番いとおしいと母
定位置にある物がない慌てだす

和歌山市　定松宏枝

ばあさんも三人寄ると姦しい
ばあちゃんの会話はいつも主語がない
悩み受け同じ悩みでほっとする
今妻は三歩夫の前歩く
デザートもすとんと入るフルコース

和歌山市　佐藤まき

竹細工に茶碗織物みな文化
宇治田原明恵発のお茶の里
見はるかす緑目に染むお茶畑
無形文化和紙の紙漉きしのばれる
二条城にも黒谷和紙が美を添える

和歌山市　まつもと　もとこ

ガラガラの店を選んで飲みたい夜
松茸で他国の秋も確かめる
釜の飯白く光った夜勤明け
過去帳に君の名前を忍ばせる
色褪せた写真の母の美しさ

和歌山県　森下よりこ

ゆったりと秋雨を聞く朝寝
九人家族だった昔が嘘のよう
八十歳の祖母思い出す八十歳
ポジティブな人にも結構疲れます
気のゆるみ一人ぐらしの忘れもの

境港市　藤原久直

赤提灯見ると心は阿波踊り
焼き肉の匂い家まで持ち帰り
普段着で暮らせる余生暖かい
コロナ禍でハグも握手もままならぬ
偶にだが人の名前が出てこない

鳥取県　田中重忠

文才は無いけどまんだ口は立つ
呆けるなと妻の遺影に睨まれる
小姑が三角波をつれてくる
ガラス戸に頭突している鬼ヤンマ
九十四もくもくと湧く好奇心

鳥取県　本庄汪

またぞろに関与は無いと言う政治
晴れません疑惑招いた朝帰り
ぼんのうが消えただろうか除夜の鐘
十八番歌うつもりが先越され
コンビニのついて行けない新機能

足跡の残す砂丘の長い夏　鳥取市　上山一平

思いっきり咳一つして憂さ晴らす
全没の句会に疲れ寝付けない
かさかさと雑木林も冬仕度　鳥取市　大前安子

わかり合うことなきことをわかり合う
昨日より今日のロマンへ朝迎え
親子ですコピーのようによく笑う
回り道いろんな友に巡り合う　鳥取市　山野すみれ

思い出の半分いつも君がいる
欲深く掴んでみても手は二つ
傷口を広げぬように貝になる
空き家増えやがては死んだ町になる　倉吉市　伊藤嘉昭

色紙映ゆ川柳載せたこの一句
妻に言う「年をとったね」「あなたもね」
いつか見るコロナの終り早くきて
可愛いと抱いてた娘も早や五十路　倉吉市　堀かずこ

骨折を甘く見てたか二ケ月を
痛さより入院で知るやさしさを
身をもって知るあたたかさ情け知る
退院の目処がたったよ頑張るぞ

寒暖差強くて老いの戸惑う日
よっこらしょよっこらしょっと冬仕度
布団から夢の続きを置いて出る
旅のあと自粛してます七日間　倉吉市　宮田風露

年金で表も裏もない暮し
内輪もめ他人が入り更にもめ
飲み込んだ言葉が胸で渦を巻く
身の丈に合った暮しで日々楽し　倉吉市　若松由紀子

気がつこう日本国家の平和ボケ
上に雪下に紅葉は季のバトン
雨降ればトタン喜び大はしゃぎ
政治家にむかぬ真面目な平議員　境港市　中井虎尾

スパイスの効いた言葉は胸を刺す
コロナ対策井戸端会議中止する
来年は増えて欲しいな笑い皺
猫2匹老人2人同居する　米子市　川本美津子

馬鹿なことしても叱ってくれぬ亡夫
誤解した濃厚接触という語
謎解きに似て若者のメール来る
とっときの笑顔の裏に謀りごと　米子市　妹能令位子

青い空風船飛んで平和です
思い出は浮き浮き生きた若い頃
満月や生命躍動まだ続く
耕せばエールをくれる鍬の音

鳥取県　飯野菖子

奥さんと呼ばれ恥らう歳となり
良いことか悪いことかな蛇に遇う
駅弁を食べた頃には若かった
長命は望んでいないでも長命

鳥取県　下田茂登子

お馴染みの薬剤師さん今日キレイ
愛情を天使は努力して運ぶ
信仰が傷の予防になるはずだ
愛という花をこころに咲かせます

松江市　相見柳歩

新ミサイルパレードで誇示北の国
老いひとり出雲の風が身にしみる
趣味生かし十年生きて変えたい世
バイデンで変わる世の中期待する

出雲市　黒目ひでお

想い出す田舎言葉のなつかしさ
故里を遠くにしてる老いの足
ふるさとの季節味わうマスクする
ススキの穂風と遊んだ心地良さ

松江市　山根邦代

気まずさは最初のボタンの掛けちがい
米洗う放棄した田に詫びながら
ゲンコツでボタン押すのが習慣に
寂しさを失わぬよう今日もペン

瀬戸内市　宮宅比佐恵

真夜中の足音急かす回診車
真実を言ったら回る夫婦独楽
誤作動のリモコン分からないボタン
これでもう亡父も許してくれるだろう

津山市　髙橋由紀女

弁解をした日の夜は寝つかれぬ
損はないようやく解り見栄棄てる
控え目に暮らし心にでた余裕
年一度敬老といういい加減

美作市　岡本余光

ありがたや友の助言で起きあがる
もったいない里の案山子が貰い受け
辞書捲るこれも海馬の活性化
見つけては妻の白髪に今日も詫び

広島市　松尾信彦

愚痴みんな持ち寄り歌う人生歌
コロナ禍で墓は造花でがまんする
B面を表に出して八十路生き
ロバの耳ばれた王様トランプよ

竹原市　土井輝恵

開票の乱を肴に飲んでいる
アメリカの熱気が見えた選挙戦
新米を土産に孫を抱きに行く
妻の客勝手口から上り込む

府中市　岸田　武

ポジティブに生きてみせると賀状書く
闘病記笑える日日がきっと来る
コロナなんてやっぱり恐いなマスクする
リハビリの患者同士で飛ばす活

三次市　伊藤寿子

夕暮れのおでんが匂う道急ぐ
ゆらゆらと金魚の思案秋深む
寒い朝チラリと時計もう少し
甘いマスク歳を取っても引かれます

広島県　田桑恵子

不死鳥が棲むまぼろしの森深く
飛び越えた溝が拍手をしています
期待はずれの反応だった無関心
赤い実たわわ絵本からはみ出した

山口市　中前幸子

にらめっこ最後わらってあげるから
フラスコの底に包容力がある
チャイム聞こえぬ今日は土曜日
ものたりないなあ あなたいつもの決め台詞

松山市　大内せつ子

部屋の隅ドングリひとつ拾う朝
諦めるつもりを揺らす秋の風
自慢かな耳は半分閉じておく
黒鍵に初めて触れた小さな手

松山市　郷田みや

望郷もカサブランカもまた新た
不揃いの蝶番だがまだいける
きょう限りまたきょう限りどんどんと
サルスベリ長く咲くねと吾亦紅

高知市　三谷松太郎

困っても為さざることが多くなり
わが体眺め驚くやせ細り
束の間の夢にも同じわが人生
念ずるはお加護お守りやすらかに

唐津市　岩崎實

探せない日課となった探し物
何事もスローモーション老いを知る
雑念を払いのけたら花咲いた
行く末をじっと見つめる母がいた

沖縄県　あらさくら

足指でグーチョキパーとストレッチ
日び増えるコロナと命紙一重
冬迎えマスク一枚防寒具
探し物確かここでしょ思い込み

沖縄県　禱モモト

沖縄県　宮　すみれ

ローションが底無し肌に入りこむ
秋風にシルクの肌着マッチング
秋思には胸の振り子も三拍子
手作業の指の小わざに目を見張る

黒石市　石澤　はる子

存在感確かめている横車
4Bが僕の精神安定剤
心配の種に肥料も水もやる
サービスも禍も呼ぶ舌の先

五所川原市　むらの　ひとり

頭下げ腹の底では火が熾る
脳天の矢をやんわりと抜く湯船
原石を見落としていた同窓会
爛熟の桃が寂しく落ちて秋

弘前市　高森　一呑

スーパーでマスク無しでは睨まれた
朝寝坊マスクで隠す無精髭
冬の使者落穂啄む田に群れる
居心地がいいか離れる貧乏神

宇都宮市　廣瀬　良磨

満月の裏には僕の秘密基地
丸まった背骨を伸ばしもち三つ
ボーリング転がす玉に遊ばれる
ものもらいマスクだらけの顔になる

富士見市　中島　通則

前も後ろもまっさらさらの予定表
外出の予定はないが空模様
振り向けば幾つもあった分かれ道
七〇年使った足が弱音吐く

東京都　高岡　弥生

久しぶり海を眺めてリセットし
育休のパパに喝采世は変わる
心配を見せずに笑顔送り出す
子の心配ずっとしながら親になる

横浜市　加藤　佳子

サウナ風呂の効用を知るジム通い
サウナ道極めメンタルまで強化
白内障手術がくれた1・5
最後まで自分の足で歩きたい

横浜市　長島　亜希子

ほめ上手その気になって通うジム
使えないわけじゃないので捨てられぬ
最短でなくても楽な道を選る
Web予約のみに変わって四苦八苦

神奈川県　小田　幸子

仲間です上司の言葉に胸はずむ
月に居るウサギをだれが追い出した
僅勝にアメリカ産のワイン買う
クークーポッポー山鳩鳴いて俯瞰する

南アルプス市　小林金剛

それなりの顔つきになる妻に愛
いつになく気は悶えます平和な日
案ずるな乗った舟です自由の身
こんどこそ愛の花咲く余裕あり

石川県　堀本のりひろ

やめてよね思わせぶりのその吐息
拭い拭えどあなたの影が消えなくて
黄色い財布すっからかんの素寒貧
ここ何処やワープしたのか呆けたのか

浜松市　中田尚

アニメとは言っておれない大ブーム
電卓のようにはいかぬお付き合い
先生も校門出ると人だった
何年もプラス思考になれぬまま

名古屋市　冨田末男

諭す時親の教えを活かしたい
出す時はタイミング待つ底力
反対を考えるのも策の内
裏切った答はきっと錆びてくる

江南市　脇田雅美

意見あれば投書箱より責任者
リバーシブル着こなし上手よく似合う
一波乱あって人情押し切られ
老々にどちらが先に介護する

豊橋市　小松くみ子

引っ越した荷物整理にまた苦労
軽トラで積んだ歴史を捨てにゆく
アルバムの青春までも燃えるゴミ
忙しさが思考をさらにマヒさせる

豊橋市　西郷紀美代

家事をするとなりの亭主羨まし
早起きし朝食後にひと眠り
怒ったら負けになるので庭に出る
くつ下の穴が証明歩き方

八幡市　武田悦寛

AI時代そろばん塾に急ぐ子ら
脳指令老いの細胞反抗期
吊るし柿下を拝借干す布団
枯葉舞う赤や黄色の水彩画

大阪市　石田孝純

夕焼けと分かち合う鴇色の夢
願い事月の既読が消えている
朝焼けに今日のシナリオ書き換える
理想論天気次第で浮気する

大阪市　近藤風羅

休肝日なんでこんなに長いのか
マスク越し話すことにも慣れて冬
令和でも俺は昭和の歌がいい
川面にもみごとなまでの鱗雲

妻だけが頼りで老いの下り坂
日日感謝心は丸く老いてゆく
コスモスは空の青さがよく似合う
静まり返る秋の夜長は物思い

大阪市　中村民子

一粒の米でも無駄に出来ぬ世に
川柳も心の見えぬ物は駄目
災害は起きる前兆備えする
年末は今年の暗さ忘れさす

大阪市　前川善之

満月が二度ある月に得した気
なくならず残ってくれた大阪市
菅さんの時折見せる冷淡さ
無表情で淡々と言う菅総理

大阪市　松田聡

よろしくとありがとうとで生きている
朝ごはんだけはまともに食べている
コロナ禍の国債背負う子ども達
浅い瀬で楽しんでいる老いの恋

池田市　上山堅坊

熱燗をペロリとなめて一人鍋
熟年の古墳めぐりは墓談義
北新地熱燗たのんでお大尽
密着を避けたらこども減りました

茨木市　細田マキコ

コロナより人と疎遠が怖くなる
食卓で変えて楽しむ調味料
消毒が効くのはコロナのみならず
クリスマス忘年会も自粛です

吹田市　岩口のぞみ

やるよりも出来ない理由捜します
十万円貯金のままで年末に
稲刈ると寂しく見える田舎です
妻だけが頼れる人になりました

高槻市　三谷白黒

待ち侘びる故郷からの新米を
コロナ禍で足が遠退く映画館
懐かしい再放送の名場面
近況を報告がてら年賀状

豊中市　荒木郁子

孫自慢ホウ凄いねと受け流す
アメンボウ雨風辛かろ水の上
蹴躓きカラスが笑うジョグの道
蓮の葉で一息付けよ赤蜻蛉

豊中市　松田蟻日路

早紅葉腰まげ祖父母旅に出た
恋猫の庭で二匹で楽しんで
日の短く余生慌てる百が見え
木の葉散るふまれて道路掃いている

寝屋川市　坂本ミヨノ

柿畑紅葉あざやか秋日和
屋台なく神社の祭り物静か
朝市に秋の味覚が品揃い
歩こう会小春日和を楽しんで

羽曳野市　黒木ひとみ

この国は個性を出すと潰される
トランプよぼくらに学べ潔さ
再雇用終って趣味の放浪記
友情は終った友のおべんちゃら

東大阪市　秀爷

会釈から始まる縁もまた楽し
だまされた振りしてあげる好きだから
物忘れスピードアップとほほほほ
黄泉の国落ちあう場所を決めてある

大阪府　大浦福子

観音像少し猫背のシルエット
聞く耳と聞かない耳を持つ媼
コロナ禍で思い出消えそなクラス会
笑顔には何故か笑顔を返してる

大阪府　高木道子

ポケットの底にうず巻く恋の束
毒を盛るきれいな皿をひとつ買う
握ったらはなせぬ深い理由ありき
十年目の吉報今日の掌のぬくみ

神戸市　青木公輔

コロナなど関係ないわとバラの花
冷蔵庫なぜかお塩が鎮座する
政治家にせめて人格求めたい
敗北を認められないあさましさ

神戸市　石川克美

すねた笑み空気に合わせ笑い寄る
偏屈だけど涙もろさに友がいる
二日目の沁みた大根のど唸る
年の暮れ老い身の変化総ざらい

神戸市　興水弘

望むところ忙し過ぎず暇過ぎず
今日だけはあと一杯を我慢する
長風呂でストレスふっと溶けていく
コロナ禍もやがて太字で年表に

神戸市　櫻井崇史

パソコンもスマホも持たぬ漂流者
常夜灯あなたの愛を想い出す
咲かせても花は散るもの枯れるもの
着実に時を刻めばシワになる

神戸市　田本古鈴

残り火に恋の未練が捨てきれず
平凡な生き方かえたペンとメモ
裏表ない人だけどかしましい
全没に一歩ふみだす秋夜なが

神戸市　山根弘華

靴合わぬ足まで肥えたシンデレラ
あぜ道に季節外れのたんぽぽが
それなりに時折佳作五七五
テレワーク駅前呑み屋閑古鳥

伊丹市　平井富夫

豊作に嵐は要らぬ神頼み
噛み合わぬ話うなずく母の客
愚痴言えば遺影の母がそっぽ向く
老ふたり猫をとり合う日向ぼこ

三田市　生田えい子

隠しごとしずかに仕舞うおとし蓋
粉雪で終る日記に絵を添える
風花にあせる心をのせて恋う
傘たたみしばしの余韻雪がまう

三田市　稲角優子

念入りにマスク二重で医者通い
した心下戸のわたしを惑わせる
卒婚と認めあっても意味不明
敬老の祝いが届く鏡見る

三田市　木村マユミ

枝豆の収穫総出夕映える
平凡な去年の暮らし出来ぬ今
下車一人銀杏三枚乗車する
風向きで人間模様知る世間

三田市　幸田厚子

物悲し釣瓶落としの夕間暮れ
脳みそが横文字社会に拒否反応
父母の居ないふる里遠くなり
足下の名も無き草も秋の色

三田市　住吉美和子

将棋とは無縁の私聡太ファン
渋柿の暖簾夢見て頑張った
草を引く次次の蚊にまいります
高齢が娘の愚痴聞いて時感じ

三田市　辻開子

松茸も永谷園が口に合う
こたつ出しますます密な四畳半
ゴーツーに素直になれぬ私です
何気ない一日終る月のぼる

三田市　中山昭美

十三夜すすき団子に月見酒
秋まつり中止ストレスまた溜まる
受け取った喪中はがきは神無月
さわやかに満面笑顔孫ゴール

三田市　馬場貴美江

起きなさいベルが鳴るでもうわの空
自惚れを散々聴いて空返事
平和へと願い自ら鶴を折る
人生の秘密はここに隠し置く

丹波篠山市　澤良子

丹波篠山市　横溝安子

あれこれで事がすんでる老夫婦
米寿坂動作にぶくて口達者
亡き友の植えたさざん花風情あり
ぼけたかなメモした紙を置き忘れ

西宮市　高瀬照枝

難しい老いの付き合いずっしりと
空見るとグレーな気分恥ずかしい
今日一日転ばず生きる覚悟です
有馬の湯マスク売ってるみやげ店

奈良市　尾畑なを江

スーパーも電子マネーときたもんだ
家の中走り廻るは子猫だけ
咲く姿浮かべて植えたチューリップ
十三夜月と話すは内緒言

奈良市　仲西賛郎

多種類の薬飲んでる酒のため
トランプさん頑固爺いも程程に
昼間の電車きっちり離れ向かい合い
断捨離をしたいがどうも捨て切れぬ

奈良市　室田行久

退院が見えて左脳も嬉しそう
手術費に十万円が役に立つ
忘れまい全スタッフにありがとう
待たせたな六腑と祝う退院日

生駒市　児玉規雄

アマエビも乗せた令和の宝船
ステイホームゴキブリ一匹御用御用
都民にはなりたくないと浪速っ子
チコちゃんに叱られながら生きている

和歌山市　北原昭枝

夢のせて憧れのせて未知の駅
羽搏きの若い力にある希望
新しい時を刻んでいる振り子
正月にガメ煮を食べておもう里

和歌山市　鍋嶋澄子

炬燵恋しそこまで来てる冬の音
バースデー律儀に来たよ七十七
青空に生きゆく術を尋ねてる
やさしさに乗って押されて場外へ

和歌山市　福島一雄

一杯のコップで薬飲み切れず
添い遂げる添い遂げないは紙一重
文化祭作品見ずに食べ歩く
お騒がせトランプ嵐消えてゆく

岩出市　村中悦男

この人と思える人のいい話
ＭＲＩ生きているんだ　かまの中
気掛りがおきては消えて又おきる
今日の無理明日の体に教えられ

初恋の思い出胸に鍵を掛け
不器用が人の心を和ませる
俎の鯉となっては逃げ切れぬ
すくすくと育つ雑草見て育つ

（前月分）松山市　郷田みや

コスモスは私あなたはダリヤです
非常口こっそり開けた跡がある
手抜きする前にきっちり設計図
単身赴任はじめて帰る夜行バス
納得はしたのに止まらない涙

和歌山県　三枝眞智子

21京都みんなの川柳誌上大会

宿　題　各題　2句

「看　板」　大村　松石　選
「広　い」　福井　民雄　選
「うっすら」　宮井いずみ　選
「きっかけ」　川畑まゆみ　選
「素　直」　安土　理恵　選
「こだわる」　こうだひでお　選

投句締切　令和3年3月31日（水）当日消印有効

投句要領　コピー用紙　原稿用紙など一枚の紙に題と作品を列記。郵便番号・住所・氏名（ふりがな）・電話番号を明記。

投句料　1000円
（定額小為替または現金、切手は不可）

発　表　6月（予定）

投句先　〒606－8306
京都市左京区吉田中阿達町18　シオン6
中野　六助宛
京都みんなの川柳誌上大会事務局
TEL　075－752－8030

名句選・この一句

こう〳〵のしたいじふんにおやハなし

天四（一七八四）桜1　二二23

この言葉を多くの方々は諺だと思っているかもしれないが、天明四年（一七八四）十月に発表された、れっきとした江戸川柳である。

人生五十年の時代、子供が三十歳前後になって、漸く生活が安定してきた。さて、今迄迷惑を掛けて来た両親に、孝行をして恩返しをしなければと思ったときには、もう両親はこの世に居ないというのである。子供は申し訳ないことをしたと思うだろうが、後の祭りである。

現代は、どうやら人生百年の時代が近づいているようだ。既に、百歳の親を七十・八十歳代の子供が面倒を見ているというのも珍しくなくなっている。長寿・長寿と喜んでばかりも居られない。親孝行をするのが大変の時代が来ているのである。（清）

英語 de Senryu⑨

麻生路郎句集『旅　人』

英 訳　吉村　侑久代　Kim Horne

道ばかり今日は聞かれる　焼芋屋

today, a shop owner
with baked sweet potatoes
is asked the way so often

みのむしの何代目かがぶらさがり

bagworm
the youngest generation
hanging

---

shop owner 店主　*baked sweet potatoes* 焼芋屋　*is asked* 聞かれる　*the way* 道
bagworm みのむし　*the youngest* 一番若い　*generation* 世代　*hanging* ぶらさがる

～リバーウィローのため息～世界の川柳・俳句㊾ 郡山（こうりやま） 直（なおし）の詩歌活動

1990年、韓国のソウルで開催された世界詩人会議でわたしは郡山直先生（東洋大学名誉教授）に出会いました。日本英詩協会、東京英詩朗読会や、日本人詩人による英詩集，*Poems of War and Peace (2007), For a Beautiful Planet (2009)* の共著者としてご一緒させて頂きました。先生は1926年鹿児島県奄美の喜界島に生れ。ニューヨーク州立大学卒業。先生の英詩は米国、カナダ、オーストラリア、南アフリカの学校の教科書に掲載されています。率直な表現で戦争の *reality* を描写し、反戦短歌や反戦詩詩人として著名で、今回『川柳塔』のために短歌を依頼したところ以下のような作品が送られてきました。1997年には、日本人が書き続けた英詩の集大成として *Collected Poems (Hokuseido)* を出版。2010年には英語詩篇を日本語訳した日本語詩集『詩人の引力』コールサック）が出版され、バイリンガル詩人としての先生の世界観が展開されました。

戦争はしないと決めた我が国の憲法は人類の最高の理想
(The pacifist Constitution of our country that has renounced war
is the noblest ideal of humankind.)
偏狭な軍国主義者が無理やりに戦争への道進んだ時代
(In that period of history, narrow-minded militarists
made their way toward the war.)
島の周り三十キロの小島からも若者駆り出し戦地へ送った
(On the small island whose size is 30 kilometers around,
they rounded up young men and sent them to the battlefields.)

誹風柳多留一三篇研究 5

伊吹和男・高野範雄
山田昭夫・小栗清吾
細井龍夫
清　博美

34　**夜るの道具とおもハれぬ石どうろ**

伊吹　その目的の照明用だったら、もっと簡単な造りでいい。重くて大きくて、とても夜の道具と思われない石灯篭である。

夜よりハ昼見るための石とうろ　拾九22

高野　昼間の庭。神社になくてはならないもの。

山田　夜は明かりの周辺しか見えない石灯篭も、昼見ればドッシリと立派な造りで、礎引「夜よりハ昼見るための石とうろ」（拾九22）と思いたくなる。

細井　立ちの高い「春日灯篭」だろうか。

清　夜の道具だというのですから、灯を灯す灯篭でしょう。礎賛。

35　**しきみをばいゝ直に買てはかま着る**

伊吹　墓前に供える榊を値切ったりすれば、故人に対して申し訳ない。そのため言い値で榊を買い、袴をはいて墓参りに出かけるのだろうか。

能く売れは売ほと淋し切榊　武一八15

山田　雨譚註「辻番」。故人に対して申し訳ない。そのため言い値で榊を買い、袴をはいて墓参りに出かけるのだろうか。

能く売れは売ほと淋し切榊　武一八15

小栗　雨譚先生が「辻番」とおっしゃるならば、山田兄のような解釈になるだろう。家から正装で出るのが面倒くさいということ?

細井「値切らない」と「袴をつける」ことを切り離してかんがえれば、先祖に対する礼、辻番への祝儀、そして正装で墓参。

清　山田説賛。

36　**門番が能過て敷居高くなり**

伊吹　仙台藩主伊達陸奥守綱宗の放埒を諫めるため、国元から駈けつけた伊達安芸と片倉小十郎が、江戸屋敷の門番に成りすまし綱宗の入門を拒んだ、という俗伝から。国家老の門番では、敷居が高い。

門番に過ぎた男はむつかしい　明六義3

山田　賛。雨譚註「陸奥様」。

清　賛。

37　**おしい事ゑめばはぐきの出るがきず**

伊吹　美人なのに、ニッと笑うと歯茎の見えるのが、玉に疵である。

はぐきを出シて笑ふ程嫁なじみ　天八12 25

清　賛。

38　**花火見るたび御妾ハ笑ふ也**

伊吹『武王軍談』〈巻七・幽王挙レ火戯二褒姒一〉などから。誤って挙げた烽火に慌てふた

めいた兵士たちを見て、それまで笑わなかった周朝幽王の寵妃褒姒が笑顔を見せた故事で、それを花火を見てお妾が笑ったと表現している。

花火を上ゲると御めかけ笑ふなり　天七8 15

小栗　賛。細かいことだが、「誤って」ではないと思う。

清　賛。礎稿、少々筆が足りなかったか。

39　**大師河原へ行ッた跡女房にげ**

伊吹　この場合の大師川原は、川崎大師の平間寺のこと。厄除け祈願で有名である。四十二歳の厄除けのため川崎大師へお参りしたが、そのかいもなく女房に逃げられた。例句は厄年の女。

心中ハ大師川原て見た女　五六5

清　三十五歳の女房と連れだって大師川原へ。女房はそこから逃げ出して鎌倉へ、という説は成り立たないでしょうネ。

40　**長州でだいりくつれをあきなわせ**

伊吹　壇の浦で平家一門は滅亡し、寄る辺を失った女官たちは、身を売って生活して行かねばならない。その様子を内裏崩れを商わせ、と表現している。

一門ハ蟹と遊女に名を残し　四三7

清　賛。上品な女郎が大勢出来たことになる。

41　**黒ク白クに二度よごれると春になり**

伊吹　十二月十三日の煤払いに煤で黒く汚れ、年末の餅つきで片栗粉や上新粉で白く汚れると、初春の元日となる。

まつくろと白くよごれて春を待　五七4

清　賛。

42　**高まんさこじりをさすり〳〵行**

伊吹　鐺は、刀の鞘尻の部分の飾り金具。「嘘は鐺から剥げる」という諺があり、この諺の援用だと思う。鈴木棠三編『俳説ことわざ辞典』に、

うそはすぐあとからばれるも。刀の鞘で最初にはげてくるのは、こじりの部分であるからいう。

とある。自分のついた嘘が絶対にバレないと思っている高慢さを、剥げやすい鐺をさすりさすり行き、と表現したのではないか。

ぬしや見たやうてさんすとはけた啌　一二一丙5

高野　大久保彦左衛門、鐺咎めを詠んだ句ではないでしょうか。

清　不明。

43　**娘もふ筆をかくしてつかふ也**

伊吹　子どもだとばかり思っていた娘が、もう色気づいて、恋文を人に隠れて書いている。例句の「うとたか」は、「鵜の目鷹の目」。

うとたかにかくして娘ふてをもち　天二85

清　賛。

44　**ゆふだちのもりかへをくふ長ッちり**

伊吹「しり」を「ちり」に訂正。盛替えは、『日本国語大辞典』に、

一度器に盛ったものがなくなり二度目を盛ること。また、その盛った物。

とある。夕立に遭ったので知人宅に寄り、雨宿りをかねて世間話をしていたら話が長くなり、せっかく止んだ雨がまた降り出した。

山田　賛。「夕立の盛替」とはうまい表現。

清　賛。

愛染帖

新家 完司 選

（投句278名）

更衣室パンツを穿けばほっとする

（評）誰かに覗かれているわけでもないのに、スッポンポンでは落ち着かない。ポチもミケも平気なのに、複雑で面倒な人間たち。

府中市　岸田　武

伸びている影ほどの背があったなら

（評）お日さまの位置が良かったのか、自分とは思えないほどスマートな影。単なる影からでも一句生まれる。川柳って面白い。

上尾市　中村　伸子

どの星が昴か知らぬけど歌う

（評）谷村新司のヒット曲「昴」。カラオケで熱唱する御仁も多いが「一つの星ではなく牡牛座にある星団」って、知らなかったなあ！

豊中市　水野　黒兎

不機嫌なオトコにさっとエサをやる

（評）腹減り男は腹立ち男。不機嫌な男には何か食わせること。酒飲みなら飲ませること。それで万事オッケー。単純な男たち。

桜井市　安土　理恵

一日中豆電球をつけたまま

（評）暗闇では不安なので豆電球を点けて寝る人は多い。しかし昼間は？　消してしまうと寂しい「心の灯」になっているのかも。

大阪市　高杉　千歩

一服の時間が一日中続く

（評）新聞を広げて、テレビを観て、お茶など飲んでひと休み。くつろぐひとときだが、考えてみると、朝からずっと同じ姿勢。

京都市　都倉　求芽

数独で消しゴムがすぐ減っていく

（評）楽しくボケ防止ができるナンバープレイス（数独）。「間違えた！」と消しゴムを使うたび「アハ体験」で脳が生き生き。

鳥取市　池澤　大鯰

障子張り十一月にやっておく

（評）十二月に入ると何かと気忙しく、障子の破れもついつい後回し。何事も先手を打っておけば、こころに余裕が生まれる。

西宮市　髙橋千賀子

コロナ禍でも男はつらい飲み会へ

（評）夜の街はヤバイが悪友からの「久しぶりにチョイと？」は断れない。「3割はツライ、7割は嬉しい」が、嬉しい顔は出来ない。

大阪市　江島谷勝弘

お天気の他に話題のない夫婦

（評）朝起きて「今日はいい天気だね」「ええ、でもちょっと寒いわよ」から後が続かない。だがそれで充分。ベテランの阿吽の呼吸。

箕面市　中山　春代

メダカさえ飼わぬと決めたペットロス　小野市　田中　辰夫

西日さす五本の指が日除け傘　沖縄県　宮　すみれ

咳すれば前のスマホが席を立つ　富田林市　山野　寿之

一歩退いて鮮明になる敵味方　黒石市　石澤はる子

スーパーと医者にだけ行くわが愛車　堺市　村上　玄也

憧れた彼氏が今や越後屋似　尼崎市　清水久美子

カラスと猫に見張られているゴミ出し日　高槻市　片山かずお

ホールインは成らず屑籠へ歩く　朝霞市　前田　洋子

暴飲と暴食ぼくの健康法　羽曳野市　吉村久仁雄

常備薬ビオフェルミンと正露丸　大阪市　宇都満知子

ペコポコと油を差して夕暮れる　弘前市　稲見　則彦

日暮れまで百均バスの市中旅　鳥取市　奥田　由美

欲張って百三十まで生きてやる　岡山市　丹下　凱夫

大阪市　内田志津子
アンパンマン即座に泣く子黙らせる

大阪市　石田　孝純
躓いた右足ですが陽気です

黒石市　北山まみどり
風通し良すぎて困る物忘れ

唐津市　仁部　四郎
天性の笑顔を配る人がいる

岡山市　永見　心咲
さみしさがムクムクふたりいてヒトリ

河内長野市　梶原　弘光
大統領選挙で知った州の位置

神戸市　冨永　恭子
主治医から日にち薬というエール

弘前市　髙瀬　霜石
ニンゲンに生かされニンゲンに転ぶ

岡山市　大石　洋子
カリカリと豆菓子無限ループです

堺　市　澤井　敏治
友垣よコロナを越えてまた会わん

尼崎市　近兼　敦子
コンニャクのようだは褒めているのです

三田市　村田　博
仮縫いのままの結婚補正中

今治市　永井　松柏
特別が好きで煽ての詐欺にあう

佐賀県　真島久美子
素通りに引かれる思い飲み屋街

長野県　丸山　健三
ウイルスに比べかわいいピロリ菌

箕面市　広島　巴子
言えぬほど小さな悩み持ち歩く

尼崎市　山田　耕治
しみじみとケンカ相手もいない夜

大阪市　平井美智子
年金が毎月あればいいのだが

鳥取県　斉尾くにこ
家中の賞味期限が押し寄せる

堺　市　坂上　淳司
ハズキルーペかけてもトリセツが読めぬ

奈良市　大久保眞澄
とりあえず並ぶ鬼滅の映画館

三田市　堀　正和
寄せ鍋の貝がパカンと自白した

大阪市　谷口　義
久々の化粧なんだかお多福に

米子市　竹村紀の治
湿布薬貼ってフラフラフラダンス

大阪市　柴本ばっは
薬だと聞いたら嫌いでも食べる

池田市　太田　省三
おじいさんにも土曜日の夜がある

香芝市　大内　朝子
大金を背負って走る三歳馬

川西市　大坪　一德
生涯を美空ひばりであった人

鳥取市　倉益　一瑤
腹の中どろどろ頭すっからかん

堺　市　奥　時雄
日常の窪みに生ぬるいモラル

豊中市　きとうこみつ
どうせ落とすメイクにかける暇はない

土佐清水市　辻内　次根
60歳おばんかマダム別れ道

豊中市　松尾美智代
夫婦お互い見送ると言い譲らない

大阪市　岩崎　公誠
いい女いい婆さんになれるかな

堺　市　坂上　淳司
散歩道民家とぎれてスキップす

奈良市　大久保眞澄
かさこそと落ち葉踏み踏みウォーキング

三田市　堀　正和
脳の隙間たまにトントンして詰める

大阪市　谷口　義
点滴のように年金隔月に

米子市　竹村紀の治
ご主人がデイサービスだから電話

大阪市　柴本ばっは
備蓄する中性脂肪皮下脂肪

池田市　太田　省三
亡父に似た牛と出会ったふる里で

香芝市　大内　朝子
アイドルのサンタの衣装薄すぎる

川西市　大坪　一德
学術会議今頃知った無知でした

鳥取市　倉益　一瑤
先着順張り切る妻の後を追う

堺　市　奥　時雄
せめてもの反抗赤い靴を買う

堺　市　奥　時雄
料理の楽しみを奪った妻の死

神戸市　敏森　廣光
句会ぼちぼち始まる気配スクワット

和歌山市　上田　紀子
省略の極みで生まれ出る川柳

神戸市　奥澤洋次郎
選者次第それがうらめし勉強会

枚方市　谷　英也
川柳の日向ぼっこで筆ポロリ

沖縄県　あらさくら
締切りにあせる句作り的を得ず

池田市　上山　堅坊
全没へしっかりせよと亡妻の檄

尼崎市　永田　紀恵
確かここ居酒屋だったコロナ前

鳥取県　門村　幸子
コロナ下に友の足音あたたかい

伊丹市　延寿庵野鶴
犇めくと感染します新コロナ

宝塚市　丸山　孔一
閉め切って狭い窓から空を見る

松山市　栗田　忠士
延々とマスク不要の長電話

丹波篠山市　長谷川善輔
フェンスを飾る蔦美しくコロナ禍の秋

大阪市　大川　桃花
コロナピンチ年金あって助かった

犬山市　金子美千代
水銀の体温計で今日も良し

熊本市　杉野　羅天
リモートで抜歯入れ歯が出来まいか

松山市　柳田かおる
GoToを使わぬうちに第三波

大阪市　岩崎　玲子
久々に県をまたいだ空気うま

倉吉市　岡崎美知江
コロナ禍で愚痴っぽくなる子への文

唐津市　坂本　蜂朗
コロナ禍が片仮名言葉連れてくる

横浜市　川島　良子
コロナ禍が笑い話になる日まで

豊中市　上出　修
体温も書くコロナ禍の日記帳

横浜市　菊地　政勝
コロナ禍を乗り越えたならすぐ平和

宇都宮市　廣瀬　良磨
秋雨に部屋干しをしてテレワーク

香南市　桑名　孝雄
この一年損をしました無為の日々

三田市　辻　開子
遅い足友も高齢分かりあう

米子市　後藤　宏之
きゅうり茄子漬物樽の同期生

東大阪市　北村　賢子
したたかに生きる傘寿の春だから

枚方市　丹後屋　肇
百歳の欠伸を撮っているスマホ

三田市　野口真桜子
たわむれてあなたにせがむ腕枕

大阪市　平賀　国和
繕いつつ金婚目指す赤い糸

松江市　中筋　弘充
妻入院一人でできぬ口喧嘩

藤井寺市　太田扶美代
くどい程言うてもええよ好きだよは

三原市　鴨田　昭紀
ぐうたらに妻の程よい塩加減

三田市　上田ひとみ
待つことも私の役目だと思う

奈良県　長谷川崇明
さあどうぞサンマですよと缶を開け

加西市　山端なつみ
二個入りのケーキで済ます誕生日

松江市　栂瀬みちを
倦怠期喧嘩もないしのどかな日

高槻市　松岡　篤
夫婦とはフリーランスということか

美作市　岡本　余光
北極星動くと困る地球人

岡山県　田中　恵
雲掴むような話に夢がある

河内長野市　中島　一彌
立ち読みは漫画寝て読む哲学書

豊橋市　西郷紀美代
横になりテレビの音は子守歌

河内長野市　村上　直樹
休肝の覚悟はかなく散った秋

弘前市　福士　慕情
後期高齢ガス抜きはネオン街

和歌山市　まつもともとこ
かりそめの恋に染まったギムレット

寝屋川市　伊達　郁夫
酒の恩知っているから止められぬ

芦屋市　竹山千賀子
友達はお酒の好きな人ばかり

藤井寺市　鈴木いさお
酒や良し酔うて唄うは更に良し

札幌市　三浦　強一
マイク持つ東海林太郎になっている

三原市　笹重　耕三
さざんかの宿で中締めする宴

大阪市　小野　雅美
値段よりカロリーで買う発泡酒

八幡市　今井万紗子
残り物でも夫の好物酒添えて

米子市　成田　雨奇
佃煮を副えて酒屋が持ってくる

三田市　多田　雅尚
家飲みもすっかり板に付いてきた

福井市　伊藤　良一
体調を酒量で試し続けてる

三田市　北野　哲男
般若湯そろり左脳が動き出す

羽曳野市　黒木ひとみ
温もりを求め今季の初おでん

和歌山市　北原　昭枝
しんしんと底冷えがして玉子酒

鳥取市　谷口回春子
満たす腹味は二の次飲み放題

西宮市　緒方美津子
下戸ですが仲間が好きで三次会

八王子市　川名　洋子
反省をしながら帰る千鳥足

紀の川市　山東日出男
先生が口で教える逆あがり

米子市　吉田　陽子
秋らしく心変わりをして女

長岡京市　山田　葉子
髪カットしたら行くとこ思い付く

池田市　奥園　敏昭
腹立てる度に一本白髪ふえ

大阪市　田中ゆみ子
老いるのも素敵みんな許して軽い背

鳥取市　夏目　一粋
老いてなお作り笑いで生き延びる

岡山県　髙岡　茂子
ヘソクリないが内臓脂肪ためている

高槻市　初代　正彦
都構想オバちゃん達のクールな目

河内長野市　山岡冨美子
大型の書店で森に迷い込む

奈良市　辻内げんえい
原点は小学校の師の教え

羽曳野市　宇都宮ちづる
耳奥の河内音頭に手が動く

豊中市　松田蟻日路
石仏の笑みに押されて歩む道

大洲市　花岡　順子
どんな暮らししてたのだろう犬洗う

八幡市　武田　悦寛
老いの愚痴3つ4つは流れ星

鳥取市　山野すみれ
褒め言葉半分聞いてあと流す

宇部市　平田　実男
もう少ししゃんと歩けと万歩計

三田市　足立つな子
友からのお手間のかかる渋皮煮

大阪市　宮崎シマ子
季節物柿もミカンも食べている

三田市　福田　好文
妻の留守三日が限度何食べる

川西市　山口　不動
老人もついにシリアル朝食に

豊橋市　小松くみ子
気が重い日はデェッディン・デデンからエール

生駒市　饗庭　風鈴
さあ船出目指していくは無人島

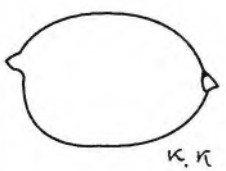
神戸市　上田　和宏
天国へ羽ばたく顔を練習中

共選欄

檸檬抄

（薫風書、カットとも）

（投句354名）



「覚　悟」　石橋芳山選

やり残した事もないけどまだ死なん　丹波篠山市　長谷川善輔
南無三と覚悟で座る歯科の椅子　豊中市　水野　黒兎
泡立草此処で私は生きてゆく　大阪市　田中ゆみ子
返り血を浴びる覚悟で言う嫌味　大阪市　小野　雅美
内部告発左遷覚悟のペンを執る　堺　市　澤井　敏治
それなりの覚悟を持ってパチンコへ　広島市　岸本　清
朝夕の鏡覚悟がズレている　唐津市　仁部　四郎
深呼吸2回三ツ星レストラン　八幡市　武田　悦寛
親になるなんの覚悟もないままに　富田林市　中村　恵
いつまでも悟り覚えぬ天邪鬼　石川県　堀本のりひろ
いよいよという時しぼり出す覚悟　桜井市　安土　理恵
疑念の種蒔いて嵐を待っている　岡山市　工藤千代子
わたしから「らしさ」を消してゆく覚悟　松山市　大内せつ子
月旅行覚悟はあるが金がない　大阪市　川端　一歩

「覚　悟」　古今堂蕉子選

再会は約さぬ覚悟十三夜　大阪市　寺井　弘子
心機一転太いパイプを切る覚悟　鳥取市　倉益　一瑤
覚悟した日から笑いが消えてゆく　鳥取市　前田　楓花
覚悟して逝くには夢が多過ぎる　大阪市　森　廣子
自粛延び覚悟を決めたハリネズミ　島根県　伊藤　寿美
敗北の覚悟決まらぬトランプ氏　加西市　山端なつみ
叱られる覚悟の子供抱き締める　堺　市　齋藤さくら
いさぎよく負け覚悟してノーサイド　米子市　後藤　宏之
伸るか反るか試す度胸はまだあった　鳥取市　福西　茶子
ひと呼吸やっと想いが口に出る　尼崎市　近兼　敦子
のりこえるこのみじめさがバネになる　沖縄県　宮　すみれ
風水害年々恐い温暖化　鳥取県　門村　幸子
あなた色に染まる覚悟はしたけれど　大阪市　岡田　恵子
奥の手は千秋楽に出す覚悟　富田林市　片岡智恵子

年の差婚周りの批難覚悟済み　三田市　幸田　厚子
溺れる覚悟あるのか恋は試される　神戸市　奥澤洋次郎
向こうまで浮輪つけずに泳ぎ切る　三田市　上田ひとみ
この先はコロナ道連れ覚悟する　黒石市　石澤はる子
ゴキブリも妻の殺気に覚悟する　奈良市　米田　恭昌
どん底は覚悟の上でこの人と　大阪市　柴本ばっは
覚悟より何より先ずは葬儀代　米子市　竹村紀の治
「しゃあないな」母の覚悟の捨て台詞　寝屋川市　川本　信子
腹据えて氷柱一本ふところに　岡山市　永見　心咲
ピーマンを食べる覚悟ができたのか　岡山市　丹下　凱夫
撃沈を覚悟で古希のプロポーズ　大阪市　平井美智子
おでん屋で決意表明焼き豆腐　大阪市　今村　和男
ダビンチに任せた手術の同意書　安来市　原　徳利
覚悟して波紋広げる石になる　尼崎市　藤井　宏造
老いの覚悟たっぷり肉を食べておく　八幡市　今井万紗子
叫ぶ名へ覚悟の妻は透けていた　枚方市　丹後屋　肇
いざとなりゃ弓引く覚悟できている　箕面市　酒井　紀華
この先はどうあれしかと受け止める　鳥取市　前田　楓花
きっと来る酒が飲めなくなる時が　米子市　成田　雨奇
見晴らしはいいが覚悟のいる高さ　和歌山市　古久保和子
全世界敵に回した恋をする　和歌山市　西川　千鶴
死ぬ覚悟で頑張れなんて無理である　松江市　中筋　弘充

この先の長い覚悟の塾カバン　西宮市　亀岡　哲子
迫力に覚悟が滲む照ノ富士　大阪市　大川　桃花
天気次第老女の覚悟揺れ易い　鳥取市　吉田　弘子
まず有言せねば覚悟が萎えてくる　松山市　宮尾みのり
老いらくの恋は介護を覚悟する　香芝市　大内　朝子
「ご家族を呼んでください」医者の言　堺　市　村上　玄也
ＮＯという覚悟を背負い一呼吸　高槻市　富田　保子
運転をやめる覚悟は先延ばし　岡山県　岡本　余光
必殺の刃扇子であしらわれ　三田市　松本ゆかり
覚悟した家出本屋で三時間　米子市　池田　美穂
割り箸の音で男がする覚悟　寝屋川市　伊達　郁夫
台風にリセットされる死の覚悟　熊本市　杉野　羅天
コロナ禍の危険覚悟の五輪なり　堺　市　源田八千代
仕事する覚悟がゆれる秋日和　米子市　伊塚美枝子
大勢におもねることは無い覚悟　大阪市　近藤　正
二次会へ軽い財布が覚悟する　横浜市　菊地　政勝
女房にタグを付けられウォーキング　鳥取市　谷口回春子
我を捨ててパッチワークになる覚悟　広島市　松尾　信彦
御手討ちも覚悟の上の建白書　今治市　永井　松柏
再婚はしない覚悟に冬が来る　池田市　上山　堅坊
朝夕の鏡覚悟がズレている　唐津市　仁部　四郎
わたしから「らしさ」を消してゆく覚悟　松山市　大内せつ子

言いだしたわりに覚悟は不透明　尼崎市　近兼　敦子
事後承諾いつものことと覚悟する　鳥取市　池澤　大鯰
お暇の覚悟あるかと言う落ち葉　海南市　小谷　小雪
三日経ち覚悟は既に薄れ行く　大阪市　森　廣子
反撃を覚悟一言物申す　京都市　清水　英旺
時間ですよそろそろ覚悟決めなさい　藤井寺市　鈴木いさお
失笑は覚悟挑戦するパンツ　大阪市　津守　柳伸
死ぬ覚悟できて炎になる男　笠岡市　藤井　智史
くすぐって覚悟ときどき泡立てる　鳥取県　斉尾くにこ
覚悟半分未練半分枯葉舞う　大阪市　津村志華子
独り居の覚悟を煮込むおでん鍋　岡山市　大石　洋子
うち明ける覚悟で夜を待っている　西予市　黒田　茂代
決断をまた迫られる曲り角　三原市　鴨田　昭紀
覚悟ならドンキホーテに買いに行く　松江市　藤井　寿代
覚悟しているがカミナリまだ落ちぬ　高槻市　松岡　篤
目が合って闘争心を覚悟する　江南市　脇田　雅美
仇討ちのペンは海より深い青　佐賀県　真島久美子
覚悟なら妊娠をした寒い春　神戸市　米田利惠子
覚悟して一生ものの家を買う　豊橋市　小松くみ子
返らぬものと覚悟して貸すお金　越谷市　久保田千代
なんとなく覚悟もなくて生きている　大阪市　中村　峰子
言い切った後の波紋を覚悟する　岡山県　藤澤　照代
覚悟決めた後から揺れるまた揺れる　河内長野市　大島ともこ

うち明ける覚悟で夜を待っている　西予市　黒田　茂代
振り返ることはしませんシュレッダー　黒石市　北山まみどり
くすぐって覚悟ときどき泡立てる　鳥取県　斉尾くにこ
中止などさらさらオリパラの覚悟　三原市　笹重　耕三
戦争はしないさせない平和道　横浜市　加藤　佳子
お答えを差し控えるに見た覚悟　大阪市　井丸　昌紀
結界を張って自粛のお正月　箕面市　中山　春代
最期には介錯頼む友ひとり　三田市　村田　博
先頭を切って地雷は踏む覚悟　三田市　谷口　修平
母さんと泣いた知覧の若人よ　三田市　稲角　優子
コロナ後のくらしへ磨く心技体　羽曳野市　徳山みつこ
ご先祖に詫びて覚悟の墓仕舞　豊中市　齋藤奈津子
覚悟した検査日帰途はララララと　倉吉市　岡崎美知江
反撃を覚悟で妻に意見する　寝屋川市　廣田　和織
天敵に見つからぬよう死んだふり　三田市　野口真桜子
どうであれ自分が蒔いた種なんだ　芦屋市　竹山千賀子
太い眉引いて女の再生紙　河内長野市　坂野　澄子
君となら落ちる覚悟の橋渡る　大阪府　大浦　福子
覚悟してなどと言うからひょっとして　雲南市　菅田かつ子
なんとかなる覚悟を決めてから楽に　高槻市　島田千鶴子
どっこいしょ覚悟を決めて立ち上がる　池田市　奥園　敏昭
晩成をまだ諦めぬ広辞苑　札幌市　三浦　強一
遺書残しコロナウィルスに向かう医師　神戸市　能勢　利子

谷底へ落ちる覚悟で橋渡る　西宮市　髙橋千賀子
日本の覚悟が見えてこぬ批准　三原市　笹重　耕三
長生きの覚悟を神が笑いよる　香南市　桑名　孝雄
覚悟して受けたひと刺しまだ抜けぬ　三田市　松本ゆかり
花野行く踏まねばならぬもの踏んで　橿原市　居谷真理子
神の声ただひたすらに待っている　堺　市　遠山　唯敎
共犯者になる覚悟です梯子酒　堺　市　柿花　和夫
まかしなさい言うてにっこり笑ってる　宝塚市　太田としお
人間ドック気は進まぬが受けてみる　池田市　倉本　一弥
覚悟した小さな部屋が出発点　倉吉市　岡﨑美知江
ダダダダー覚悟を決めて叩く門　伊丹市　延寿庵野鶴
コロナには後出しジャンケンで臨む　弘前市　高瀬　霜石
男性の平均寿命を越えたのだ　土佐清水市　辻内　次根
覚悟したらしい無口になっている　松山市　宮尾みのり
百本のバラに覚悟を迫られる　八尾市　村上ミツ子
のっけからポイを覚悟の茄子の蔕　高槻市　初代　正彦
もう何が起きても誰も驚かん　奈良県　安福　和夫
会わせたい人をといわれする覚悟　豊中市　きとうこみつ

秀　句

雪道に逆ハンドルを切れますか　三田市　村田　博
覚悟しています鯛焼五個買うた　神戸市　冨永　恭子
シャボン玉屋根を越えたら諦める　高槻市　原　洋志

子には子の覚悟小鳥の小さい墓　西予市　西田美恵子
公園へ箒を持って再デビュー　池田市　太田　省三
自己責任覚悟持参しＧｏ Ｔｏへ　交野市　山野　双葉
抜き打ちに覚悟の程を試される　和歌山市　上田　紀子
この医師に残り火託す覚悟決め　河内長野市　黒岩　靖博
覚悟せいと啖呵を切って引き下がる　和歌山県　三枝眞智子
負け覚悟したら相手がつい転び　富山市　伴　よしお
同情はしてくれませんレントゲン　浜松市　中田　尚
事後承諾いつものことと覚悟する　鳥取市　池澤　大鯰
覚悟せよ黄泉の国への出初め式　鳥取県　竹信　照彦
なにごとも練習　今日は惚けたふり　弘前市　髙瀬　霜石
覚悟決めプライド捨てておむつ穿く　河内長野市　藤塚　克三
没も良し日の目みる日がきっと来る　宮崎県　黒木　栄子
喝采などもう無いことは知ってます　松山市　柳田かおる
川上る鮭は覚悟の面構え　神戸市　槇田　次郎
ゴキブリも妻の殺気に覚悟する　奈良市　米田　恭昌
ポケットから辞表なかなか出てこない　尼崎市　藤井　宏造
「しゃあないな」母の覚悟の捨て台詞　寝屋川市　川本　信子

秀　句

逆縁の覚悟はできていなかった　大阪市　宮﨑シマ子
覚悟して一気に階段駆け上がる　岩出市　藤原ほのか
終焉のベルが突然鳴り響く　河内長野市　木見谷孝代

「自　信」

（投句　237名）

藤井宏造選

自信ある男は前を隠さない　藤井寺市　鈴木いさお
棒読みの答弁　自信なさそうだ　橋本市　石田　隆彦
根拠などないがコロナはボクを避け　宝塚市　岸田　万彩
マドンナはいつも写真のど真ん中　奈良市　大久保眞澄
わたくしを好き好き好きとイチョウ散る　八王子市　川名　洋子
先頭に立てば自信もしゃきっとす　岡山県　藤澤　照代
ポジティブはどこでもこなすだが補欠　高槻市　原　洋志
自信家が自信を無くす針の穴　河内長野市　大島ともこ
耳掻きはプロ級ですと言われても　佐賀県　真島久美子
足腰にまだ自信あり岩魚釣り　弘前市　福士　慕情
私ならできると呪文かけておく　神戸市　冨永　恭子
爺ちゃんにだってメル友くらいいる　弘前市　髙瀬　霜石
禁煙に三度成功した自信　大阪市　髙杉　力
敵失を待ってるようにトンビの輪　土佐清水市　辻内　次根
自信家がはた迷惑に善を説く　丹波篠山市　酒井　健二
騙されぬ自信はあるが金はない　大阪市　平賀　国和
自信なら取り戻せると整形医　男鹿市　伊藤のぶよし
天守閣に立てば希望が湧いてくる　和歌山県　三枝眞智子
八十歳まだまだ御輿担ぎます　長野県　丸山　健三
失敗は山ほど積んだ腰である　鳥取市　福西　茶子

大海を知って自信がぺっちゃんこ　犬山市　金子美千代
たちまちに君を笑顔にしてしまう　三田市　上田ひとみ
自信などないから大き目のマスク　大阪市　宇都満知子
やっと自信出てきた術後七年目　豊中市　松尾美智代
遺伝子に自信過剰のあるわたし　富田林市　中村　惠
根拠なき自信　長生きする予感　大阪市　古今堂蕉子
カトレアの自信ティアラは渡さない　西予市　黒田　茂代
体重でわかるのかしら自信って　黒石市　北山まみどり
人前でガッツポーズは醜いよ　東大阪市　秀爷
まっ直ぐに進んできたという轍　岡山市　永見　心咲
美魔女とは私のためにある言葉　和歌山市　まつもともこ
ひまわりの自信に満ちた枯れ姿　池田市　上山　堅坊

佳　句

美人だと言われることはない自信　鳥取市　岸本　孝子
自信家も寝ている時は只の人　高槻市　松岡　篤
自信満満　鼻が膨らんでいる　羽曳野市　宇都宮ちづる
自信ある時の返事は威勢良い　越谷市　久保田千代
三分を待てば復活する自信　大阪市　平井美智子

人

諭吉一枚では動かない自信　笠岡市　藤井　智史

地

幸運の女神は俺に惚れている　橿原市　居谷真理子

天

頂点で躓くヒトラーの過信　堺市　内藤　憲彦

軸

こう見えて逃げ足だけは自信ある

「ベル」

（投句　234名）

森　茜　選

発車ベルあわてて蕎麦を飲み込んだ　倉吉市　宮田　風露
さよならが風に千切れる発車ベル　高槻市　原　洋志
発車ベル遠くに聴いて雲を追う　三木市　山口ヨシヱ
孫のためポイントよりもベルマーク　大阪市　石田　孝純
ベルマーク小学校で集めてた　香芝市　山下　純子
俺俺って　わたしに息子おりません　大阪市　津村志華子
ウェディングベルうれしく聞いたのは昔　寝屋川市　冨山ルイ子
懐かしい緑の丘のベルの音　鳥取県　竹信　照彦
古都の秋　寂寥募る寺の鐘　寝屋川市　川本　信子
合宿のベルは勝手を許さない　堺　市　村上　玄也
祈る気でベルを押してる宅急便　四條畷市　吉岡　修
カウベルをたまに外してあげたいな　海南市　小谷　小雪
熊避けのベル高らかに山歩き　尼崎市　清水久美子
自転車のベル人柄の音がする　奈良市　大久保眞澄
呼び鈴が人柄をのせ鳴っている　富山市　伴　よしお
デジタル化家のそこここベルが鳴る　松山市　宮尾みのり
平和へのベルよ万国旗に響け　弘前市　福士　慕情
地の底で警告音が鳴っている　倉吉市　牧野　芳光
子と親にジングルベルと除夜の鐘　三田市　北野　哲男
コロナ禍にジングルベルは思案する　神戸市　奥澤洋次郎
コロナの禍しばし忘れるハンドベル　西宮市　福島　弘子
コロナ禍が鳴らし続ける非常ベル　羽曳野市　徳山みつこ
老々介護合図にベルが欠かせない　神戸市　山口　光久
ハーモニー心ひとつにハンドベル　香芝市　大内　朝子
ハンドベル心の襞を震わせる　豊中市　松尾美智代
正解のベルは鳴らない恋でした　佐賀県　真島久美子
ベルさえも鳴らず一日（ひとひ）が暮れてゆく　大阪市　平井美智子
鈴の音聞こえたような冬の夜　東京都　川本真理子
正確な発車のベルに急かされる　岩国市　上村　夢香
今日というドラマを乗せた発車ベル　和歌山市　北原　昭枝
温暖化鳴りっ放しの非常ベル　大阪市　平賀　国和
病む母とつなぐ深夜の鈴響く　奈良県　渡辺　富子

佳　句

秋の陽を浴びてバッハのハンドベル　大阪市　古今堂蕉子
猫に鈴つけてあなたはもう居ない　大阪市　森　廣子
アドレナリン準備いいかと予鈴鳴る　明石市　糀谷　和郎
始業ベル鳴らず始まるテレワーク　富田林市　山野　寿之
少子化へベルがやまない未来地図　河内長野市　坂野　澄子

人

何時鳴るか鳴るか地球の非常ベル　土佐清水市　辻内　次根

地

カウベルのようにスマホを提げる首　堺　市　澤井　敏治

天

百の鈴鳴らして空が晴れ渡る　橿原市　居谷真理子

軸

ジングルベル集いが叶いますように

初しぐれ教室

題 ― 星

高瀬霜石

これを書いているのが、11月の上旬。
前回、コロナなんかで死んでいられないので、ひっそりワープロの前に座っておりますと書いたが、実はその後すぐ、ここ弘前でも、クラスターが発生したから、もう大変。
これが活字になるのは、２０２１年1月。弘前の、大阪の、日本の正月は、さて？

①いつものように、上と下を入れ替えてみる。
（▼は原句。▽は参考句）

▼消えちゃった願う間もなく流れ星　蟻日路
この句の肝は「願う間もなく消えちゃった」にあると僕は思うので、「流れ星」は上に。
▽流れ星願う間もなく消えちゃった
▼星三つの腕が泣いてるコロナ禍　眞智子
下四、読んでいて、オヨヨになってしまう。
▽コロナ禍で泣いてる腕の星三つ
▼また明日一番星が時告げる　行久
時を告げるのは、やっぱり鶏。ここは、あえて、上が重なっても、このリズム。
▽一番星がほほ笑みかけるまた明日
▼星占いオリオン座しか知らぬのに　恵子
反論大いにあるだろう。なにせ、わざと下六にしてしまうのだからさ。でも、僕は、どうしても「落ち」にこだわりたいのだ。
▽オリオン座しか知らぬのに星占い
▼北の天拉致の子ら星みてますか　弘
なんだかさあ、リズムがぎくしゃく。
▽拉致の子も同じ星見る北の空

②不要な言葉（ダブっている語も）カットして、シンプルに。さすれば、より伝達力が増す（と、僕は思う）。

▼流れ星お願い事を一つだけ　厚江
▽流れ星願いはたったひとつだけ
▼ナビがなきゃ亡夫の居る星辿られぬ　令位子
せっかく上五が軽妙なのに、中七、下五がなんとも堅苦しくて、バランスが悪い。
▽ナビがなきゃあなたの星が探せない
▼八百長がなくなり狂う星取表　秀爭
▽八百長はもうありません星取り表
▼大相撲白星八つで安堵する　睦子
「白星八つ」があれば、「大相撲」は不要。
▽白星が八つでまずは安堵する
▼星を見上げポツポツ本音吐きました　(澤)良子
この句、中七と下五が肝。上五は簡単に。
▽星空へポツポツ本音吐きました
▼冬の朝星見て出勤三十年　照枝
よーく分かります。僕も、都会でサラリーマン生活を送ったからさ。ただ、この句は詰め込み過ぎ。何かをカットしないとね。
▽星の下出勤したね冬の朝

③もっと適切な言葉がないか。あえて、ドラマチックに仕立て変えてみる。

▼アニメの少女瞳に光る星がある　(森)廣子
楽しい視点。ただ、もう一歩突っ込んで。「光る星」は、アタリマエ過ぎるでしょ。
▽アニメの少女瞳に赤い星がある
▼満天の降り注ぐ星手で掬う　三樹夫
この句も前の句同様、上五と中七は、アタリマエ過ぎ。そして、あまりにコッテリ。もっとシンプルに、スッキリさせたい。
▽降り注ぐ星の雫を手で掬う

▼チドリ足星の助けで家路つけ　開　子
▽オリオンの助けで帰る千鳥足
▼それぞれの幸せ抱きて星光る　双　葉
言いたいこと分かるが、なんかぎこちない。
▽それぞれの願いを抱いて星を見る
▼彦星に見えた運命間違いか　のぞみ
面白い。だからこそ、後半の固さが残念。
▽彦星に見えたわたしの勘違い
▼星くずをダイヤにかえて広げる手　さくら
きれいな句。どうせならもっとシンプルに。
▽星くずをダイヤに変えるわたしの手
▼立ち止まる空の高見にカシオペア　風　鈴
▽立ち止まる空の真上にカシオペア
▼母さんと呼んでどこかな星の数　紀美代
このまんまでOKなのだが、もっと、もう一歩と、ついたたみかけたくなるのだなあ。僕の悪い癖だと思っている。ご容赦。
▽母さんの星はどれだろ星の数
▼杖曳いて歩きたくなる星月夜　勝　正
たとえ、本当だったにせよ、「杖曳いて」はあんまり美しくない。ここは、きれいに。
▽一晩中歩きたくなる星月夜
▼星と月夜空のロマンわたしにも　千　代
▽星と月夜空のロマン君とぼく
▼老いてそれなり恋はウキウキ星の下　一　弥
▽老いてなお恋はウキウキ星の下
▼覚えたてキラキラ星を歌ってる　弥　生
ここは、あえて上が重くなっても……
▽覚えたてのキラキラ星を歌ってる

（○は佳句。◎は優秀句）

○ミシュランの三ツ星よりも母の味　通　則
ここは、競吟の場ではないので、これはこれでOKなのだが、同想句があまりに多いのも事実。できれば避けて通りたい。
○星明り頼りに歩く田舎道　ゆ　き
○金星を取れなくなった大相撲　(俳)良　子
○一番星出ても帰れぬ秋仕舞　え い 子
○探査機が星のロマンを消していく　信　子
○知らぬ間に郷土の星にされていた　くみ子
○彦星に会えると信じ待ちぼうけ　マユミ
○一等星見えない星もあるのです　マキコ
◎星三っつ一寸贅沢してみるか　風　露
◎ほうき星に掃除させたい宇宙ゴミ　風　羅
◎どの星が加藤鰹という星か　尚
ここは「初歩教室」。だから、新人も多いだろうから、この「加藤鰹」ってナンじゃいなと思われる人もいるだろうから、ちょっと説明させて戴く。尚さんは、浜松市の方。だから、鰹クン（静岡）のことを知っているんですね。かつて「川柳界の若大将」と呼ばれた鰹クンは、僕と兄弟分（東映の仁侠映画みたいだけど）だった。51歳の若さでこの世を去った。川柳界の大きな損失であったろう。ほんとにいい男じゃった。第2の鰹、出でよ。俺は待ってるぜ。

さて、気を取り直して。今回の卒業生は2人。まずは、横浜市の加藤佳子さん。◎がないけれども、3句ともに視点が面白い。これ、とっても大事。これから作れば作るほど、どんどん上手になること間違いなし。太鼓判。
○五つ星と思った人は一つ星　佳　子
○人生の星取り表は中の上　佳　子
○北極星抱く私の缶ビール　佳　子
もう1人は、鳥取県の本庄汪さん。最初の2句は平凡だが、安定した力量。そして、最後の句は、文句なしに面白い。拍手。
○今日の事内緒にしてよお星様　汪
○星影のワルツを歌う帰り道　汪
◎文化祭スター気分の僕がいた　汪

追悼

ありがとう章峰さん！

竹治　ちかし

また一人、歴史を語ることの出来る大切な人が亡くなられました。その人の名は、原章峰（はらしょうほう）さんです。

章峰さんの歴史は、いずも川柳会の創立と同じ大正十五年から始まりました。いずも川柳会の創始者・尼緑之助（あまりょくのすけ）師から才能を認められて、若いうちから事務局や編集を担ってこられ、今日のいずも川柳会の礎を築かれました。

そんな中何故か、ある頃から川柳を休止されたことがありました。その頃に私は入会しましたので、暫くは章峰さんを知りませんでしたが、その後出会ってからは、とても可愛がって頂き色々な事を教えて頂きました。ある時に川柳を休止されたことを聞いてみましたら、「それは勤めていた銀行の仕事が忙しくなったからだった」と、言っておられました。

今、安倍総理がたくさん良い仕事が出来たのは、番頭役の菅官房長官が居たからだ、とも言われていますが、出雲の地において出雲信用組合（現・島根中央信金）の理事長・遠藤嘉右衛門氏の下で長い間、大番頭役として原さんは素晴しいご活躍をされていました。出雲に住んでいる経済人ならもちろん、誰もそのことを知っています。

常務、専務と勤め上げられた後も、相談役として残って欲しいと言われ、長い間相談役を務められ、その頃から少し暇が出来たのでしょうか、休止されていた川柳をまた始められました。

ある時ある句会に突然現れて、天位句等、たくさんの素晴らしい佳句を出句され、「あれは誰だ！」「あいつは何者なのだ」と、皆を驚かされましたことは、今でも逸話として語り継がれています。

それから以降は、皆様もご存知のように、いずも川柳会の更なる発展に尽くされ、有形無実になっていた島根県の川柳協会を、新たな島根県川柳連盟として立ち上げ、一本化にご尽力されました。そして毎年、大阪の川柳塔本社開催の川柳塔まつりにも、バスを貸し切り多くの山陰勢を引き連れて参加するという、素晴しい恒例行事をも作って頂きました。そのほか数え上げれば枚挙にいとまがありません。

私の好きな章峰さんの句の中に、「次郎には鳴かない方の蝉をやる」いう句がありますが、私は章峰さんからたくさんの「鳴く蝉」を頂きました。本当にありがとうございます。

これらご指導頂きましたご恩を忘れずに、章峰さん亡き後の「いずも川柳会」を立派に守ってまいる所存です。どうか安らかにお休みください。　合掌

終わりに、章峰さんの句を鑑賞し、在りし日を偲びたいと思います。

人間魚雷　にんげんが蓋をする
半身はロボットのまま軍神に
海軍の歌をうたうと咳が出る
日の丸の白いところは民の声
薫風に漬かる　新子に浸る秋

121

お金さまざま（2）

勤め人の一か月のお小遣いは、男性で3～4万円。女性は2.5～3.5万円ぐらいのようですが、これは所帯持ちの場合で、独身男性で金遣いの荒い人は、給料を全部使ってしまって月末はスッカラカンという人も珍しくはありません。

花と散る覚悟小遣い使い切る　加島　由一
形から入るタイプで金が要る　前田　楓花
ダイヤ買うお金歯医者につぎこんだ　木見谷孝代
後悔のない無駄遣いしてみたい　緒方美津子
五千円超えるディナーは欠にする　堀　正和
金銭に執着のある黄の財布　渡邊伊津志
よれよれの札から順に旅に出す　片山かずお

そのお小遣いの使い道も人それぞれ。「一度切りの人生、楽しまないと損」とばかりに、酒とギャンブルに注ぎ込む人もいるでしょう。また、習い事の月謝という堅実な人は女性に多いようです。いずれにしても「後悔のない無駄遣い」をするには、それ相応の余裕がないとできません。

また、日頃からワンコインで昼食を済ませている人にとって「五千円のディナー」はちょっと勿体ない気がします。

通帳にホクロのようにつく利息　米澤　俶子
通帳の隅に隠れていた利息　三浦　強一
ちょっとした夢なら叶う貯金箱　籠島　恵子
石碑買うほどの貯え持っている　小塩智加恵
持って死ぬつもりはないが貯めている　板東　倫子
使うあて無くて貯まっていくお金　中村　恵
ホーム行くお金なかなか貯まらない　三宅　満子

日本人の貯金好きは世界的にも有名です。その特徴としては、「将来が不安だから」「特に目的もなく」で、投資を優先する欧米と違うのはリスクを嫌う堅実性の表れです。

また、最近では、金融庁の「老後資金には公的年金以外に二千万円必要」という発表も拍車をかけているのでしょう。

収入のない家計簿をつけている　高杉　千歩
家計簿の予算狂わす松葉蟹　斉尾くにこ
家計簿が我が家の愚痴を語り継ぐ　谷口　修平
家計簿の三日すくない二月好き　岩﨑　玲子
我が家には補正予算はありません　村上　玄也
使途不明金など我が家では当たり前　能勢　利子
月末のやりくりならば自信ある　徳山みつこ

収入が無くても家計簿をつけているのは身に付いた習慣でしょうか。堅実な奥様でもたまには奮発して松葉蟹を買うこともありますが、その後しばらくは家計調整の粗食です。

苦労して稼いだ人は老後安泰。医者は金持が多いようですが例外もあります。また、マッサージ師を雇うぐらいになりたいものですが、今からではちょっと無理のようです。

底辺で稼いだ金が光りだす　田中　重忠
医者と聞くだけで金持だと思う　片山　忠
金持ちそうな人に気配りかかさない　寺川　弘一
金持ちの苦労話に耳あくび　梶原　弘光
金持った人の集まる場所がある　喜田　准一
大金持ちになればマッサージ師雇う　岩見かずこ

同人特集　私の一句

（順不同）

句集『旅人』ひらく尾道海のカフェ　竹原市　小島蘭幸

にんげんていいなと思う駅ピアノ　鳥取県　新家完司

もう一度覗いてみたい穴がある　和歌山市　川上大輪

別人の顔で飲みます喋ります　桜井市　安土理恵

ありがとう言える人いて果報者　三田市　足立つな子

辞書内の散策無限飽き知らず　奈良県　安福和夫

ありがとう最短距離の感謝です　豊中市　池田純子

夫が居る空気みたいに横にいる　橋本市　石田隆彦

あっさりと逝く為体鍛えてる　貝塚市　石田ひろ子

老夫婦ボケとツッコミ日替わりに　大阪市　磯島福貴子

助詞一字大海原を扱き寄せる　橿原市　居谷真理子

目覚めたら近くにコロナいる恐怖　可児市　板山まみ子

道草の案内役を買って出る　弘前市　稲見則彦

スズメがチョンわたしの周り離れない　八幡市　今井万紗子

去年の常識今年の非常識　大阪市　井丸昌紀

祝靴ソフトなタッチ心地よい　熊本県　岩切康子

マイナスをプラスに変える知恵が枯れ　大阪市　岩﨑公誠

長文は苦手だからね五七五　大阪市　岩崎玲子

八十路坂霊峰天寿登山口　神戸市　上田和宏

ドローンに道を譲った赤とんぼ　豊中市　上出修

迷ったら仏間の笑みの母に聴く　岩国市　上村夢香

子が育つ親の財布の域を越え　奈良市　宇賀史郎

再会を果たした人は千の風　大阪市　内田志津子

血液がほこほこはしゃぐ一万歩　大阪市　宇都満知子

ああ僕にとうとう風が吹かなんだ　大阪市　江島谷勝弘

父の死に安堵したのか皆笑顔　大阪市　榎本舞夢

ときめきは心のまつりだと思う　香芝市　大内朝子

三度まで我慢のできる仏さま　箕面市　大浦初音

コロナショック人間だけが打ち萎れ　大阪市　大川桃花

お地蔵さんのモデルは赤ちゃんの笑顔　奈良市　大久保眞澄

泣き顔に見えない事もない夕陽　藤井寺市　太田扶美代

脱がせるに一苦労重ね着の栗　西宮市　緒方美津子

真実と引替えにした自死の闇　神戸市　奥澤洋次郎

孫の旅スマホで見せる春ゴタツ　三田市　尾崎一子

戒めの笛が忘れた頃に鳴る　大阪市　小野雅美

学術にレッドパージの影ちらり　堺市　柿花和夫

感謝感謝いいな心が素直なる　大阪市　笠嶋恵美

桜咲く地球は変わりなく在れと　奈良市　加藤江里子

手をつなぐことはしないがまだ夫婦　高槻市　片山かずお

歳なんか忘れてしまう楽しくて　大阪市　金川宣子

膝小僧弱音吐いてはいられない　犬山市　金子美千代

一月四日お隣さんもうどん屋で　西宮市　亀岡哲子

翔びそうで心に紐をかけておく　藤井寺市　鴨谷瑠美子

八十一歳さあこれからがババ盛り　東かがわ市　川﨑ひかり

大切な人のためにも手を洗う　大阪市　川端一歩

僕だけの傑作　僕だけの涙　東京都　川本真理子

美しい地球に戻すのもヒト科　鳥取市　岸本宏章

瑞風に乗る楽しみはとっておく　鳥取市　岸本孝子

角あった昔語らぬ丸い石　三田市　北野哲男

新春の希望の光いい予感　東大阪市　北村賢子

迷い箸美味しいものが多すぎる　豊中市　きとうこみつ

変わらない日常こそが宝物　河内長野市　木見谷孝代

コロナ終息ドアを開けば新世界　和歌山市　木本朱夏

流れつく土地で何とか咲いてみる　越谷市　久保田千代

夕焼けよ四番打者になれなんだ　鳥取市　倉益一瑤

ありふれた雑事の中で生きている　西予市　黒田茂代

小さな輪でいい始めはふたりから　明石市　糀谷和郎

不満ない日々を退屈という不遜　大阪市　古今堂　蕉子

八十歳　何と自由で面白い　北九州市　小松　紀子

未だ少し残る八十路の探求心　弘前市　今　愁女

核の傘未練がましくしがみつき　大阪市　近藤　正

どのように生きてもみんな私の子　鳥取県　斉尾　くにこ

残り福信じて竹を踏んでいる　堺市　齋藤　さくら

満月と話せば勇気湧いてくる　箕面市　酒井　紀華

いのち戴き命毎日新しい　堺市　坂上　淳司

難しい理屈は抜きでまず動く　大阪市　坂　裕之

プラス思考昨日のミスは忘れ去る　東大阪市　佐々木　満作

彬忌に想う衛戍の窓の月　堺市　澤井　敏治

集合写真いつも後方左寄り　高槻市　島田　千鶴子

ライバルが少し手加減したのかも　高槻市　初代　正彦

母の振る両手に涙止まらない　高槻市　杉本　義昭

小うるさい観音様と暮してる　藤井寺市　鈴木　いさお

困難な地球を月がそっと抱く　富田林市　関　よしみ

プロポーズ若い一途が粘らせる　奈良市　髙橋　敬子

仲良しごっこしてます小指寒いから　鳥取市　田賀　八千代

青春の彩で余生の夢描く　出雲市　竹治　ちかし

古日記揺すると愚知が落ちてくる　寝屋川市　伊達　郁夫

なおみさんマスクで抗議素晴らしい　大阪市　田中廣子

鎮魂か怒りか燃える彼岸花　三田市　谷口修平

恐れ入りますが八月十五日です　大阪市　谷口義

一年の計は「やる気」一箇条　岡山市　丹下凱夫

神様は少し私に手厳しい　西宮市　近兼敦子

生活を猫が心配そうに見る　土佐清水市　辻内次根

喜怒哀楽心の糧ぞ五七五　大阪市　津村志華子

旅ごころ誘う十五夜お月さま　大阪市　津守柳伸

咳三度まわりに人の影が消え　大阪市　寺本実

穏やかなひと日は神の贈り物　羽曳野市　徳山みつこ

小さな目大きな未来見つめてる　神戸市　敏森廣光

この声が君の翼になるように　大阪市　栃尾奏子

一言を思いとどまるのも修行　生駒市　飛永ふりこ

共生の森で生命が動き出す　神戸市　冨永恭子

年を重ねる毎に丸くならねば　寝屋川市　冨山ルイ子

改札をダッシュするにもディスタンス　堺市　内藤憲彦

人生の一段ごとのヒストリー　大阪市　中井萠

頑張りに拍車とかける神の鈴　尼崎市　長浜美籠

遠くなる恋しい人の居た昭和　米子市　中原章子

僕は地球父は太陽母は月　奈良県　中堀優

雪しんしん輪郭ばかり抱きしめて　岡山市　永見心咲

困ったら言ってねという空手形　上尾市　中村伸子

故郷の感染者数今日もマル　箕面市　中山春代

薫風師をうならせた人　海老池氏　西宮市　西口いわゑ

少したわんで降圧剤を飲んでいる　大阪市　西出楓楽

国の名が三字に八月十五日　唐津市　仁部四郎

ドラマ化で故郷湧く日待ち遠し　日高市　根岸方子

鎮魂歌ですか　童女の駅ピアノ　三田市　野口真桜子

ばあちゃんは家でもマスクつけたまま　神戸市　能勢利子

ランキング二位です二人家族です　奈良県　長谷川崇明

御先祖の一人になっている未来　大阪市　原田すみ子

ＡＩがやがて秀句を独り占め　高槻市　原洋志

風になる講座ただいま受講中　大阪市　平井美智子

散歩して宇宙のパワー浴びに行く　大阪市　平賀国和

どの児にも健康寿命お裾分け　寝屋川市　平松かすみ

自粛明け先ずはスカッと髪を切る　箕面市　広島巴子

新元号歩む昭和の力瘤　弘前市　福士慕情

スマホには何時も苛苛させている　西宮市　福田正彦

淋しいが再婚だけはやめておく　尼崎市　藤井宏造

子宝を願う四十路の崖っぷち　笠岡市　藤井智史

胸抉る鬼手仏心の温かみ　豊中市　藤井則彦

100歳の私へ残す今日あした　羽曳野市　藤原大子

何気ない日々を願って引く御籤　大阪市　藤田武人

目も耳も閉じて和ダンス処分する　尼崎市　藤田雪菜

いい知らせらしい宛名も踊ってる　三田市　堀正和

尽きるまで時間うばった新コロナ　東京都　まえでとよこ

断捨離も人情までは出来ぬもの　高槻市　松岡篤

泣かれるとつい甘くなる躾糸　豊中市　松尾美智代

水やりもせぬ坪庭に花が咲く　高砂市　松尾柳右子

ポパイの腕から飛び出して来た漫画　和歌山市　松原寿子

若いねへはい川柳のお陰です　札幌市　三浦強一

ほら虹だ　このピンチなど通り雨　豊中市　水野黒兎

思い出にパステルカラー足して老い　松山市　宮尾みのり

猫鳴いて正気に戻る十三夜　八尾市　宮﨑シマ子

損得を気にせぬ汗が美しい　堺市　村上玄也

また会おうまたはとてつもなく遠い　八尾市　村上ミツ子

まだ残る野心両手の範囲内　三田市　村田博

輪の外で爪噛んでいる子がひとり　尼崎市　森菊江

いたわりの言葉から逃げ守る堰　河内長野市　森田旅人

行きつけの店のオヤジの不愛想　松原市　森松まつお

ご神託項にズンと降りて来た　鳥取市　森山盛桜

椿は火　萩はわたしの中の水　米子市　八木千代

獣にはなれぬ四角い彼と酔う　堺市　矢倉五月

孫の未来確かめてから逝きたいな　高槻市　安田忠子

朧でも人は明日へノックする　河内長野市　山岡冨美子

浅学菲才どうもならない助詞一つ　枚方市　山口弘委智

黙読の漢詩李白とだけ解り　唐津市　山口高明

私も紅葉しつつ幕を引く　神戸市　山口光久

逃げ腰の男と知った非常口　神戸市　山﨑武彦

カミソリと言われた俺も好々爺　鳥取市　山下凱柳

子育ても家庭の味も母譲り　香芝市　山下純子

本日もよろしく机兼お膳　尼崎市　山田耕治

鉄道地図ひろげテレビの旅を行く　長岡京市　山田葉子

雫ほど愛を下さい生きるため　倉吉市　山中康子

山彦はちょっとおくれて好きという　八尾市　山根妙子

焼き鳥の串が論じている命　富田林市　山野寿之

足すものと引くもの余生あるがまま　吹田市　山本希久子

ひとり言テレビに意見しています　奈良市　山本昌代

声よりもあなたの笑顔見たくって　大阪市　横山里子

やがて逝く二人先陣は僕が切る　羽曳野市　吉村久仁雄

お経かて判らんとこがありがたい　四條畷市　吉岡修

無観客場所いつもの席に居ぬ女　奈良市　米田恭昌

トンネルを抜けるとそこは花浄土　奈良県　渡辺富子

（投句212名）

新しい年を迎えても、初詣さえ遠慮しなければならないなんて、エライことになっています。

神社の方も十二月からお札などを用意して、密にならないように気を使われたとか。神主さんがテレビで仰っていたのには「お札の効力はかわりません」。でも、やっぱり新しいお札はお正月の方がいいなぁ、などと融通の利かぬ私。今年もよろしくお願いします。

では、ナビです

米子市　八木　千代

恋人のチャイムだろうと思います

（評）恋人、なんてコトバ、長らく聞いていませんでした。胸の高鳴りにが聴こえそう、お若いです、ステキ！

藤井寺市　鴨谷瑠美子

犬も猫も飼わないけれど亀はいる

（評）亀は長寿の象徴ですから、家に居るのはお目出度いこと。手を叩けば傍に来てくれるってホントですかぁ。

三田市　尾﨑　一子

一一〇番熊が二階で寝ています

（評）くまモンなら可愛いけれど、本物の熊なら冗談じゃあ有りません。が、熊にも色々と事情がありそうです。

犬山市　金子美千代

メルカリに売ってさっぱり過去にする

（評）手元にあるから未練心もちょっぴり、今大流行りのメルカリとやらで売り飛ばせば、うん、さっぱり！

河内長野市　山岡冨美子

バイエルのままで終わったピアニスト

（評）バイエルから進歩しなかったってこと？でも、ピアニストになれたのなら夢は一応叶ったんですよね。

羽曳野市　徳山みつこ

巣ごもりにお電話疲れちゃいました

（評）外に出たくない、でも、仲間とは繋がっていたい、そんな思いからあちこちへお電話かけまくり、あーしんど。

豊中市　水野　黒兎

もーしもし金田一さん事件です

（評）金田一さん、懐かしいです。最近は何故かコナン君に偏ってしまっていますけど、活躍、期待しています。

弘前市　稲見　則彦

三分も待たせるなんて失礼よ

（評）この方、インスタントラーメンですら固いうちにお食べになるタイプかしらん。人間、気短になったかも。

岡山市　大石　洋子

受話器からあなた以外の声がする

（評）あらら、一緒に居るのはだあれ。なんて言えているうちはまだいいんだけど、ああ、コワーイ。

三田市　谷口　修平

餌もらう鳩からすればいいお方

（評）他の人が何と言おうと、自分に良くしてくれるのはいい人なんです。鳩も人間も一緒いっしょ。

大阪市　小野　雅美

顔上げています笑っているのです

鳥取県　斉尾くにこ

父からの電話か風の音でした

米子市　吉田　陽子

雑踏へ人待ち顔の駅ピアノ

岩国市　上村　夢香

彼方から叱ってくれる母の声

和歌山市　古久保和子

セールスをからかっている午後三時

大阪市　柴本ばっは

お懐しあなたにお逢いできるとは

松江市　石橋　芳山

意地張った仲間がここに居てくれた

尾道市　小川　道子

折に触れ必要だった尻尾です

弘前市　髙瀬　霜石

父さんに骨董品の価値はない

五所川原市　むらのひとり
一年をあっためている雪の中

神戸市　冨永　恭子
傷ひとつ笑い飛ばせとカラス鳴く

三田市　北野　哲男
お母さんお父さんから又電話

大阪市　岩﨑　玲子
誰でもいい喋らなあかんボケまっせ

土佐清水市　辻内　次根
毎夜毎夜泥棒猫から電話

岡山市　永見　心咲
テレサ・テンもっと愛してあげたのに

松山市　柳田かおる
忘れたのかしらテレビの音が聞こえます

枚方市　谷　英也
恋愛も卒業したよ卒寿です

香芝市　山下　純子
おもちゃ箱に隠れていたの黒電話

堺　市　矢倉　五月
着メロは愛の賛歌に換えました

加西市　山端なつみ
前掛けで拭かれ美人になる林檎

大阪市　江島谷勝弘
またかいな古い話が始まった

和歌山市　まつもともこ
モノクロの声が聴こえる午前二時

明石市　糀谷　和郎
てにをはがまだまだ言える母達者

佐賀県　真島久美子
振り向けばアルカイックなままの胸

大洲市　花岡　順子
のんびりと座ってわたし少し暇

三田市　堀　正和
呼出しの電話は碌な事がない

香芝市　大内　朝子
ダイヤルをまわした指のときめきよ

大阪市　坂　裕之
お婆ちゃんおいでよ今日はバーベキュー

箕面市　酒井　紀華
モーツァルト聞かせてくれた黒電話

西宮市　亀岡　哲子
大急ぎ母さん呼びに畑まで

唐津市　仁部　四郎
留守電にこれが最後の左様奈良

大阪市　岡田　恵子
ケンケンパーあの日の石はどこいった

松山市　栗田　忠士
マスクなし心おきなく話せます

箕面市　出口セツ子
医者で無理金欠病という病気

松山市　郷田　みや
待ち受けの音楽いつも子守歌

黒石市　北山まみどり
想像にお任せしますお返事は

沖縄県　あらさくら
声だけで七色変わるドレミファソ

鳥取県　竹信　照彦
石蕗の花が見ている冬の海

尼崎市　近兼　敦子
声だけでピンときました母の勘

西宮市　福島　弘子
「百歳です」保険勧誘すぐ切れる

池田市　太田　省三
新社員私用がばれた社のスマホ

河内長野市　穂口　正子
エマニエル貴女も遠く我も老い

三田市　福田　好文
案じてもしょうがないから飲んで寝る

堺　市　内藤　憲彦
アナログもガンバリまっせ負けまへん

寝屋川市　平松かすみ
窓口で付添いさんはどなたです

四條畷市　吉岡　修
スマホまだ持たない人にこれでもか

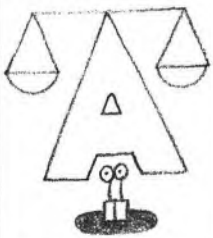
寝屋川市　森　茜
理路整然ドンガバチョ氏のひとくさり

鳥取市　夏目　一粋
満天の星のシャワーで呑んでいる

南あわじ市　萩原　狸月
思いでの埃拂ってフルムーン

富田林市　山野　寿之
長電話少し待たせてスクワット

3月号発表
(1月15日締切)



(平本　霧石人　画)
柳箋に2句

川柳塔鑑賞

同人吟　山本　希久子
―12月号から

あたたかくて脆い高齢者のハート
吉田　陽子

体力も気力も衰えた高齢者のハートは繊細で傷つきやすいもの、そしてその脆いハートは他人の痛みを思いやる温かいハートでもあるのです。自分が高齢になり初めて分る高齢者の心のうちです。

傘ぱっと開くと冬になっていた
谷口　義

日本の四季の穏やかな移り変わりを風雅に楽しんだのは、いつの頃だったのでしょうか、近年気候は急激に変化するようです。春と秋は極端に短かくなった気がします。傘ぱっと開くと冬という誇張した表現に何故か納得してしまいます。

バッチリと眉毛マスクにも慣れて
安土　理恵

令和2年の世界のニュースの映像はほとんどがマスク姿でした。顔の下半分は白または個性豊かな配色のマスクで被われていました。真夏も然り。マスク痕を残して日焼けという異常さでした。ファッション界はマスクをゴージャスにし、化粧は目元中心となりました。後世までの語り草、新型コロナウイルス蔓延の世の一風景です。

小銭がないので素通りする神社
大久保　眞澄

神様すみません。今日は小銭の持ち合わせがないのでスルーさせていただきます。この次は必ず小銭を用意してきます。神様とはこの程度のお付き合い。独特のユーモアにクスッとさせられます。

情念を秘め竜胆のこむらさき
石田　ひろ子

作者は情念を秘めた女の姿をこむらさきの竜胆に重ねました。見かけは楚々としているようで芯はしっかり、熱い心を持っています。情念と竜胆のこむらさきの取り合わせがぴったりと思います。

つるつるの脳とお肌は反比例
池田　美穂

晩年の悲哀を誰もが感じます。つるつるであってほしいお肌には無残な皺が増え、記憶力や思考力を司る脳みその皺は失せてのっぺらぼうとなりました。嗚呼

生涯を無題と書いて生きようか
岸　桂子

目立たずひっそりと生きたいという謙虚さがうかがえます。川柳という趣味の世界で名を成された作者です。ご本人が平凡な生涯と思われても川柳界が知っている出雲の輝く川柳作家のひとりです。

あんぱんの好きな男と五十年
工藤　千代子

平凡で穏やかな老夫婦の暮らしが目に浮かぶようです。社会での仕事を終えた男、今は妻の後ろに立ち、後方支援という立場です。あんぱんが好きという他愛ない存在ですが、居てくれるだけで心強い存在なのです。

お隣の人も気付かぬ家族葬
関本　かつ子

以前、お葬式は相互扶助の行事でした。近年多くが家族葬、近隣にも、友人達にも知らせず、事後報告の形をとるようで

す。病院から直接葬儀社へ送られて隣人も全く気が付かないのです。

栗割れてわれに淋しき秋となり
芒伸ぶコロナの秋も知らず伸ぶ

杉野羅天

詩情豊かにコロナの秋を詠まれました変わらぬ秋の風景の中でコロナ禍を憂い仲間ともすっかり疎遠になっている淋しい心情・・・。芒伸ぶというリフレインにも淋しさ、詠嘆がよく表れています。

忘れたこと自覚があれば脈がある

清水英旺

約束の日時、借りていた小銭、本等悪気はないのに忘れていることがあります。待ち合わせの相手から電話がある少し前に思い出したり、何度か会ってから、借りを思い出したりするのならまだ大丈夫、忘れたことも忘れているのでなければ笑い話で済ませます。

ほんの少しうまくいかない歳になる

川本真理子

これまで順調に来た人生だが、この歳になって世の中の変化についていけず不便を感じるようになりました。でもほんの少しなのです。スムーズに事が運ばなくなったのは年齢のせいだけではありません。知恵を絞り時代に適応した生き方をすれば、まだまだ運勢好転のチャンスはありそうです。

老いたれば老いを楽しむ外はない

笠嶋惠美

長寿時代となりました。誰もが必ず迎える老年期ですが老いは必ず寂しいものとは限らないのです。素晴らしいと言いたい老い方もきっとあるはずです。暦年齢で老いをひとまとめにしてはいけません。身辺のささやかな中に楽しみを見つけ自分を生かす努力をしたいものです。

人生のところどころにあった旬

寺井弘子

一生のうち輝いていた旬の時代が誰にも一度や二度あったはずです。若い頃人生の華の時代を味わった人、努力の積み重ねにより晩年に花を咲かせる人。人生の旬という言葉、とてもいい響きです。

自分の歩幅つかんだ頃に喪が明ける

木見谷孝代

ご主人を亡くされて一年ようやく前を向いて一歩を踏み出されました。好きな道を自分なりの歩幅で歩み続けられることでしょう。天国のご主人様もきっとエールを送ってくださるはずです。

足の裏に一度も礼を言ってない

太田昭

考えてみれば決して表舞台に立たず、縁の下の力持ちである足の裏こそ、人を丸ごと支える立て役者でしかも文句も言わず重みに耐えています。人間関係にも足の裏のように支えてくれる存在があるのです。感謝しなければ・・・。

まだ何か起きる予感の澄んだ空

大内朝子

雲一つなく澄み切った青い空、あまりの静寂、かえって何か起こりそうな漠然とした不安を抱いてしまいます。自然界の起こす災害か、または自分の身辺に起こる変化か。思いがけない変事というのは、前触れもなく突然襲いかかるものなのです。予感が現実にならないことを祈るばかりです。

もみじ舞う風にも彩のあるように

澤井敏治

風には季節の彩があるのです。作者の優れた感性には映るのです。あるかなきかの風にゆっくりと舞いながらあたりをもみじの色に染め、風と同化して地にかえってゆくさまを詠まれました。晩秋の静かな風景は人を詩人にさせます。

水煙抄鑑賞

―12月号から

山野寿之

生き甲斐はケアのつもりの野良仕事

松尾信彦

ご近所に九十六歳で施設やデイサービスに行くのは嫌と、毎日鍬を杖にして野良仕事で汗を流し、勤しむ姿は頭の下がる思いです。正しく生き甲斐でしょう。

何にしようスマホ指南の夕支度

田桑恵子

毎日の夕飯のメニューは主婦にとって財布と相談しながら考えるのは大変。そこでスマホを指南役にして検索すれば直ぐにレシピをばっちり出してくれます。

今度こそ抱かせてやって拉致家族

宮宅比佐恵

菅総理にバイデン大統領、日米間の首脳が変わり、今度こそ拉致の子等を家族の下に返すよう国が全力を尽くし、作者のみならず国民の切なる願い祈りですね。

呼びに来た人も加わる栗ご飯

喜多村正儀

お隣さんが用事で奥さんを呼びに来られたが、今しがた出来上がった栗ご飯にお誘いすると、一緒に食卓に座り栗ご飯を相伴している。ところで御用は？

若者の手にはりついているスマホ

助川和美

車中右手にスマホ、左手におにぎりを持ち足を組んで座席にいる若者。右手に張り付いたスマホの親指は激しく動き、左手のおにぎりを時々齧りつく。食欲より若者を夢中にさせるスマホは麻薬かも。

あったはず言ったはずやと手に負えん

穂口正子

ここにあった眼鏡しらんか？さっき言うたとこやろと、このやりとりは老夫婦によくある会話。あったはず、言うたはずはご主人の台詞。眼鏡はおでこに、何言うたかもう一遍言うては、奥さまの台詞。

所持金を人質にする電子マネー

清水久美子

いくら以上だとポイントがつくので、なけなしの財布をはたき、ポイント欲しさに有り金を人質に差し出して空財布に。

会議中空気が読めぬオンライン

田中辰夫

テレワークやリモート会議など、コロナ禍で脚光を浴びたネットの活用が新しい働き方。でも日本人の得意な忖度や場の空気を読んで阿吽のやりとりをするにはもう一つ。頭を突き合わせて打打発止の議論も大事。デジタルとアナログの調和のとれた会議が生み出されるでしょう。

グリーン車で余韻抱きしめ帰路に着く

山口ヨシエ

GoToトラベルで豪華なホテルや交通機関もグリーンを使い安価に利用できます。今後利用できない豪華な旅の余韻を大事に胸の奥に仕舞っておきましょ。

嫋やかな女結びに見る決意

西川千鶴

嫋やかな女結びに見る決意とは？眉を引き紅さしたいつもやさしい女性の決意は男結びより怖いものが潜んでます。

雨台風来ないと困る来て恨む

近藤勝正

人間の得手勝手を上手に詠まれた句。雨台風が来てくれねば水不足、大きな川が氾濫するような雨台風は御免蒙る。

八木千代句集
『椿守』を読む

月波与生

川柳を書き始めて二〇二一年で十年になる。十年前といえば東日本大震災があった年。今も川柳作句動機のひとつには震災があるし忘れられない、忘れてはいけない出来事。そして川柳句集にも忘れられない、忘れてはいけないものがあってぼくにとっては八木千代さんの句集『椿守』がその一冊になる。

木の机　鳥の匂いがしてならぬ　千代
まだ言えないが蛍の宿はつきとめた
はらわたに疵がいっぱいある魚
畳にはぶざまな私を曝す
われは雁　月の真下を渡るなり

鳥だったからこそわかる鳥の匂い、鳥の記憶が蘇る。人は皆ただならぬ真実を隠しているが、何も言わぬまま死んでいく。はらわたを出している魚は私であり私は生きていて私の傷は私にしか見えない。そんな無様な姿は隠したいものであるが、身を曝すことで露わになる真実もあろう。まるではらわたにたくさんの疵がある魚のように。そして疵だらけの私は暗闇を飛ぶのではなく皆から見えるように月光の中を飛ぶ。鳥となって。生きるとは「私は私である」ことを見せ続けることであるかのように。生への渇望。

稜線で逢うお互いの馬連れて
遠くから鐘が鳴るので樹をゆする
やがては闇に沈むにしても月の屋根
椿守　死なぬ限りは椿守
ありのまま流れる　とてもいいきもち

馬とは己が最も信頼するもののことであろうか。その馬に乗って稜線で逢うという浪漫。鐘の音は何の報せだろうか。心の幹なるものに訊いてみる。鐘は少しずつ近づいてくるようだ。やがて樹も朽ちて土に還るにしても、雁が飛ぶような月の真下で眠りたい。この句集は椿を詠んだ句が多い。椿は自分であり姉でありもう手が届かないすべての人たちなのだろう。「生きている限り」ではなく「死なぬ限り」としたところに死生観を知る。僅か一滴でもよいから流される生き方ではなく、ありのままに流れてみたい。その万感の思いを「いいきもち」とひとことで書いたのが印象深い。美しい省略。

評価の高い句集についてあれこれ書くのは自分の不勉強を曝しているようなもので恥ずかしいが、句集『椿守』は何度読み返してもその時々の自分と対話することになり発見がある。『椿守』を発行した出版社はすでになく、あざみエージェントから『椿守』収録の九十三句に未収録の七句を加えた『椿抄』が発行されたが在庫もなく販売は終息しているようだ。これから川柳を始める人、川柳を書き続けることに迷っている人に是非読み継いでいってほしい句集。そして埋もれてしまわないように折にふれ発信していくことが、先に句集を読む機会に恵まれた者の務めだろうと思い恥を曝した次第。

なんて優しいのです　現し世の旅は

「苦しみつつ、なお働け、安住を求めるな、この世は巡礼である」山本周五郎『青べか物語』の一節であるが、この句は長い巡礼の旅を終えた果てのことを詠んでいるかのようだ。今の自分にはこういう句は詠めないが、川柳を辞める前に一句くらいはこういう句を書いて終わりたいものだ。

二〇二〇年（令和二年）

十一月本社誌上句会

投句者二三六人

兼題「ショック」

森山　文基　選

敗因は私だったという事実　大阪　平井美智子

おジイちゃんどうしてスマホできないの　徳島　小畑　定弘

コマーシャルのサプリはどれもわたしむき　奈良　山下　純子

ショックうけそれでも今も続けてる　和歌山　藤原ほのか

落語会くしゃみで落ちを聞き逃す　大阪　齋藤奈津子

ショックです言葉の指と話せない　鳥取　坂本とも湖

昨日まで居た飼猫が姿消し　大阪　藤井　則彦

何年も観ている花の名が出ない　大阪　平松かすみ

また振られたった一人で冷めたピザ　兵庫　村田　博

磨きなおそう錆色になった愛　大阪　宇都満知子

ビギナーズラックだったと思い知る　兵庫　永田　紀惠

足元が崩れてどこまでも落ちる　島根　石橋　芳山

長文のメールに無視という返事　大阪　小野　雅美

キャッシュレス使えませんという不覚　大阪　両澤行兵衛

ショックにも大中小があるなんて　富山　伴　よしお

煙すら昇らず逆縁のショック　愛媛　宮尾みのり

幾山河もうショックには遠くいる　兵庫　中岡千代美

バスルーム鏡は湯気で曇らせる　大阪　山岡冨美子

似合わんな金髪にして孫が来た　大阪　横山　里子

確約の小指まさかの潮が引く　奈良　菱木　誠

カラフルな影へショックを塗り込める　広島　岩本　笑子

翔びながらショックも風にしてしまう　鳥取　八木　千代

快諾の返事が未だ届かない　兵庫　生田　頼夫

苦労してとれたチケット無駄になる　兵庫　櫻井　崇史

やんわりと言われましてもショックです　兵庫　近兼　敦子

お隣の犬の風格には負ける　奈良　居谷真理子

蕎麦アレルギーそばボウロさえ受けつけぬ　鳥取　池澤　大鯰

タワーオブテラーへと乗った失恋　岡山　藤井　智史

お別れですと鉄扉の閉まるあの擬音　大阪　澤井　敏治

逆縁のローソクこころひび割れる　大阪　阪本　秀子

燃え尽きて喜劇だったと行き詰まる　大阪　美馬りゅうこ

不発弾妻が持ってた事を知る　岡山　藤澤　照代

こんにゃくになってショックを和らげる　大阪　鈴木いさお
波に乗る男の素顔剥がされる　和歌山　三枝眞智子
藤川に能見福留居ないトラ　兵庫　堀　正和
おばあさんと迷うことなく呼ばれた日　東京　川本真理子
特養から空いていますと誘い来る　兵庫　糀谷　和郎
ショックやわ悲喜を選ばず口にする　大阪　山根　妙子
幸せの鐘ついたのが運のつき　大阪　東　敬朗
逆転のショックラーメン食べている　兵庫　吉村めぐみ
手間かけた料理跨いでいった猫　奈良　大久保眞澄
天辺を合わせ鏡で見た悲劇　奈良　木嶋　盛隆
どこをどう切ってもぼくは歪です　青森　髙瀬　霜石
倒れそうショック与えて立て直す　大阪　坂　裕之
明日を待つ牡丹の鉢を盗まれる　大阪　森　廣子
百均で別れまた百均で会う　大阪　内藤　憲彦
プライドが薄らいでゆくややショック　鳥取　政岡日枝子
一万歩歩きすぎだと医者が言う　兵庫　田中　雅子
阪神もカープも僕を裏切った　鳥取　福西　茶子
覚悟とは別に白骨見るショック　大阪　原田すみ子
どんくさい男が先に着いていた　兵庫　米田利惠子
澄んだ声糸電話さえ繋がらぬ　奈良　飛永ふりこ

佳

ハンカチに包むとショック柔くなる　大阪　高田美代子
わたくしに断りもなくパン値上げ　岡山　工藤千代子
隕石が落ちた山から降る胞子　長野　西沢　葉火
名簿欄鉛筆書きで添えてある　広島　岸田　武
ゆるキャラが消毒液に浸される　大阪　太田　省三

人

カメラ壊れた恋人に逃げられた　鳥取　新家　完司

地

小さいショック与え続けて手懐ける　大阪　井丸　昌紀

天

二黒土星ショックに弱くなりました　大阪　谷口　義

軸

限界の近さコースターの脆さ

兼題「探　す」　松本　文子　選

生き方を探して花を生けている　島根　石橋　芳山
今日の幸探して今日にけりをつけ　大阪　吉村久仁雄
探していたらひらがなになっていた　大阪　谷口　義
お母さん優しい亡父に逢えたかな　大阪　内田志津子

そして無になる風船を探す旅　埼玉　久保田千代
アワダチソウばかりで野菊見つからぬ　鳥取　福西　茶子
君の愛探し迷子になりました　岡山　藤井　智史
生きる意味探し樹海へ迷い込む　奈良　渡辺　富子
探しています母さんの星父さんの星　大阪　森　廣子
探すこと止めたらきっと暇になる　大阪　片山かずお
上を見て下を見て手のひらを見る　青森　髙瀬　霜石
捨てる場所探しています核のゴミ　大阪　川端　一歩
公園で子供の声を探す風　兵庫　永田　紀惠
じっくりと探す一人で生きる道　愛媛　黒田　茂代
本籍地を探しつづけている翼　鳥取　八木　千代
ぴったりの言葉を探し一行詩　大阪　山口弘委智
生きてきた意味を探して早や米寿　大阪　山根　妙子
心伝える言葉を探す一筆箋　大阪　山本希久子
迷いつつ探しながらの道をゆく　鳥取　政岡日枝子
いつまでも自分探して旅続く　兵庫　松本ゆかり
ポリープはＭＲＩから逃げ切れぬ　兵庫　村田　博
冗談を笑うロボット探してる　大阪　柿花　和夫
探し物毎度のことであわてない　大阪　大浦　初音

さあ今日から独りで探すものがある　大阪　太田扶美代
探査機が地球の謎解きしてくれる　大阪　川本　信子
自分さがし切符一枚途中下車　大阪　酒井　紀華
新聞に探すほのぼのするニュース　京都　清水　英旺
逝ったのはどの星だろう秋の空　高知　辻内　次根
東京へ探しに行った青い鳥　兵庫　萩原　狸月
ＧｏＴｏで秋を探しに行きました　大阪　松本あや子
記憶の底で夢の欠片を探し出す　大阪　片岡智恵子
正論の中で探している学び　愛知　冨田　末男
指先に明日を探す欲がある　福井　伊藤　良一
雑踏の中で探している平和　広島　笹重　耕三
ふるさとの目高を探す丸木橋　徳島　小畑　定弘
あのころの夢の続きはまだ消えぬ　奈良　饗庭　風鈴
良い言葉探してくれるペンを待つ　大阪　上山　堅坊
記憶の海潜り探している言葉　大阪　藤村　亜成
青い鳥もしももしもと深い森　大阪　初代　正彦
面影を人込みの中で探してる　和歌山　藤原ほのか
言い訳を本気で探す午前二時　岡山　藤澤　照代
楽しみを探して辛さ中和する　鳥取　山本ふみ子

定年後居場所探しが一仕事
今は耳立てて季節の音探す
思い出を探す元気を出すために
生き甲斐を探し気がつけば傘寿
本当のわたしを探す旅無限
何もかもスマホに頼る地図や辞書
風呂敷に包んだはずの過去が無い
安住の地はここだと墓を買う
私をまだ探してる八合目
探すまに時を失う砂時計

大阪　平賀　国和

佳

はて俺は何を探しているのかな
わが里を探し群れなすコウノトリ
人の世の生き方探す道半ば
あきらめた頃に出てくる探しもの
長所を探す私を好きになるために

奈良　長谷川崇明
大阪　立蔵　信子
大阪　鈴木いさお
兵庫　みぎわはな
大阪　両澤行兵衛
兵庫　生田えい子
奈良　菱木　誠
兵庫　奥澤洋次郎
大阪　阪本　秀子

人

うなずいて赦す言葉を探す箸

大阪　坂上　淳司
兵庫　長川　哲夫
兵庫　稲角　優子
大阪　江島谷勝弘
大阪　小野　雅美

地

風船が亡母を探しに行ったきり

岡山　工藤千代子
兵庫　北野　哲男

天

優しさを探しています秋の午後

大阪　平井美智子

軸

抜け殻になった心を探す旅

兼題「大　人」

木本　朱夏　選

将来は博士大臣ユーチューバー

岡山　丸橋　野蒜

デジタル化子供が大人置き去りに

神奈川　加藤　佳子

おとなってズルイやくそくやぶるもん

青森　福士　慕情

大人でも子どもでもない十五歳

大阪　鈴木いさお

大人でしょ子供のくせにどっちやねん

大阪　井丸　昌紀

一人でも寂しくないもん　大人だもん

高知　辻内　次根

大人一枚中学生になったんや

奈良　山本　昌代

孫二十もうちゃん付けは止めとこう

兵庫　松倉　正美

カルテだけ大人扱いしてくれる

静岡　中田　尚

叶うなら大人になんかなるもんか

兵庫　松本ゆかり

大人って忖度ばかりしているよ

広島　小畑　宣之

考えながら走り出してるから大人

京都　山田　葉子

成人式ドナーカードを作る意気

大阪　伊達　郁夫

十八の大人がせびる軍資金　島根　原　徳利

親がかりですが立派な大人です　大阪　片山かずお

タンコブが増えて大人になりました　島根　伊藤　寿美

大人の本かくれて読んだ兄ちゃんと　大阪　柴本ばっは

手の平で豆腐を切ってもう大人　大阪　島田　明美

チューインガム噛んで大人を吐き捨てる　大阪　太田　昭

ガキ大将粋な大人へ衣替え　大阪　丹後屋　肇

昨年まで私少年Aでした　奈良　長谷川崇明

古本の巨人の星を大人買い　大阪　太田　省三

印鑑登録やっと大人の仲間入り　奈良　米田　恭昌

大人の風格それまでは陶冶　熊本　杉野　羅天

サイフォンの香りが解り選挙権　岡山　工藤千代子

大人やねんから何とかしはります　大阪　谷口　義

大人だねえ悪魔の辞典使ってる　大阪　澤井　敏治

大人です風を受けたり躱したり　鳥取　大前　安子

働きバチ僕は大人になりました　大阪　川端　一歩

重いけど楽しく担ぐ大人の荷　大阪　平賀　国和

首相の条件は大人であること　大阪　江島谷勝弘

米中のちょっと大人気ない喧嘩　広島　笹重　耕三

中辛の違いが分かるとは大人　長野　西沢　葉火

娘から女にかわる羞恥心　大阪　酒井　紀華

おばはんと呼ばれスパーク止まらない　兵庫　清水久美子

スカートの裾少し汚してもう大人　大阪　森　廣子

かあさんの翼の下でママになる　大阪　太田扶美代

大人が寄るとリンゴや柿に色付ける　島根　川本　畔

働いて食べていけたらもう大人　大阪　穂口　正子

投票に行くのは大人の義務ですよ　佐賀　仁部　四郎

肩たたき大人になれと言うてくる　大阪　岩佐ダン吉

下ネタもさらり大人になりました　兵庫　中岡千代美

アダルトに性善説は通らない　大阪　両澤行兵衛

さあさあここから大人だけの時間　大阪　中村　惠

毛穴からどんどん出そう加齢臭　大阪　きとうこみつ

本物の大人の振りは金が要る　鳥取　竹村紀の治

皺の顔だてに作った訳じゃない　大阪　山岡冨美子

人の世のおぼろを知ってから大人　奈良　渡辺　富子

大人です朝から怒ったりしない　大阪　立蔵　信子

四捨五入鬼になりきらねばならぬ　青森　髙瀬　霜石

大人にはまだ成りきれぬ喉仏　徳島　小畑　定弘

甥っ子が会うたび老けた顔になる　兵庫　櫻井　崇史

佳

O型で気楽な大人やってます　鳥取　政岡日枝子
大人になった春より秋が好き　大阪　山本希久子
舌二枚尻尾も持っている大人　大阪　西出　楓楽
赤チンで治せぬ傷を持つ大人　大阪　平井美智子
少々の傷は笑って遣り過ごす　鳥取　新家　完司

人

恋人は無理悪友になったげる　奈良　居谷真理子

地

月少し欠けて大人の事情とか　島根　石橋　芳山

天

トンネルを抜けて気楽なシニアです　島根　松本　文子

軸

大人にはなりたくないと姫りんご　島根　石橋　芳山

兼題「風」　菱木　誠　選

着たり脱いだり風の気ままに付き合って　大阪　古今堂蕉子
反対の風も大事な風である　大阪　松岡　篤

逆風をわざわざ呼んだ学者狩り　神奈川　加藤　佳子
来年まで冬眠します秋風よ　大阪　宮﨑シマ子
空っぽの郵便受けに秋の風　兵庫　北野　哲男
背景にやさしい妻の風がふく　広島　田中　敬子
母さんの煙やさしい風になる　大阪　廣田　和織
初恋の風はきれいな色をもつ　広島　岩本　笑子
風紋は神の指図かフロックか　大阪　内田志津子
風待ちの港だったか左遷の地　兵庫　大坪　一徳
デジタルの風にいけずをされている　大阪　美馬りゅうこ
風習は崩さぬ連綿の祭り　広島　笹重　耕三
選挙では山も動かす風が吹く　大阪　上出　修
ヒンヤリと一期一会の風が吹く　奈良　居谷真理子
あたたかい風を待ってる介護室　兵庫　吉村めぐみ
走り出す二人にエール送る風　兵庫　冨永　恭子
青春の風東京へ東京へ　大阪　田中ゆみ子
風立ちぬ萩はらはらと人を恋う　大阪　松尾美智代
生き残り賭けてトップの風を読む　愛媛　宮尾みのり
謝罪するトップに透けている社風　大阪　藤井　則彦
風まかせ西方浄土へ往く予定　岡山　岡本　余光

許すこと覚えて風があたたかい　大阪　平井美智子
人間の感性磨く四季の風　大阪　山野　寿之
逆風になると手強い妻になる　徳島　小畑　定弘
まっすぐに進むと決めた風の中　東京　川本真理子
定年後もう風向きは気にしない　宮城　木田比呂朗
逢いたくてひたすらに待つ風の中　埼玉　久保田千代
淋しくはない風とお話できるから　島根　松本　文子
しばらくは詩人になろう秋の風　大阪　酒井　紀華
ふる里の風で調律する五感　福井　伊藤　良一
匿名が一気に変えた風の向き　大阪　小野　雅美
トンネルを抜けると里は冬の風　大阪　太田　昭
ここだけの話もすぐに運ぶ風　大阪　柴本ばっは
知らんぷりで通るつもりか秋の風　大阪　立蔵　信子
埋み火に再起促すつむじ風　兵庫　糀谷　和郎
欲少し捨てると丸い風になる　大阪　伊達　郁夫
エアコンがなかった頃の甘い風　大阪　井丸　昌紀
わたくしを育ててくれた向かい風　京都　山田　葉子
溜め息と吐息集めてつむじ風　大阪　今村　和男
そんなことあった追い風向かい風　大阪　高杉　力

令和二年優しい風はまだ吹かぬ　兵庫　長川　哲夫
人間を鍛えてくれる向かい風　大阪　平賀　国和
きな臭い風が北から吹いて来る　和歌山　木本　朱夏
風評が事の真相吹き飛ばす　大阪　村上　玄也
一言が台風の目になろうとは　和歌山　石田　隆彦
東西南北やさしい風はどちらから　大阪　平松かすみ
風はまだ噂を聞いてないらしい　和歌山　柏原　夕胡
気がつけば異なる風に慣らされて　山口　上村　夢香
追い風と思ったあれが分岐点　大阪　岩佐ダン吉
あの人も風になったと故郷から　奈良　安土　理恵
校庭にブラスバンドの風が吹く　兵庫　山田　耕治
あの世へとこの世を脱いで風になる　奈良　渡辺　富子

佳

わたくしをもっともっとと呻る風　大阪　太田扶美代
いい風だシャツもパンツもよく笑う　兵庫　上田ひとみ
生温い風が私を駄目にする　兵庫　生田　頼夫
メメントモリ遊行期に知る風の向き　大阪　水野　黒兎
思い切り吐いて新たな風を吸う　大阪　藤村　亜成

人

抗った風で流線形になる　広島　田辺与志魚

地

秋風が私の脆いとこを突く　大阪　小川賀世子

天

確と翔ぶつもりで風を溜めている　愛媛　黒田　茂代

軸

定年を脱いでバイクの風になる

兼題「単　純」

さらさらと一筆書きで僕の顔　大阪　井丸　昌紀
直線の延長上にいつも居る　大阪　廣田　和織
暗証番号どうせあんたは誕生日　兵庫　中岡千代美
初孫に付けた名前は一です　奈良　小西　貞子
孫来れば鬼が仏の貌になる　大阪　伊達　郁夫
新婚はキッチン便所四畳半　大阪　川本　信子
初料理少し砂糖を足してみる　兵庫　櫻井　崇史
とりあえず今日も明日も米を研ぐ　東京　川本真理子
味噌汁に卵で足りる朝ごはん　埼玉　中島　通則

新家　完司　選

おフランスよりもソーメン冷奴　兵庫　みぎわはな
昨日今日明日もきっと食べて寝る　青森　福士　慕情
一品が増える魔法の褒め言葉　岡山　丸橋　野蒜
マスクして三密避けて未だ元気　神奈川　加藤　佳子
お疲れさんひと声だけでまたヤル気　大阪　初代　正彦
大事にしてる「ごめんね」と「ありがとう」　大阪　森　廣子
悪滅び善が栄える時代劇　大阪　松岡　篤
顔見れば元気そうだね肥ったね　鳥取　竹村紀の治
分かり良い人だ泣いたり笑ったり　大阪　坂上　淳司
単細胞後先見ずに走り出す　大阪　油谷　克己
込み入ったしがらみ全部きり捨てる　石川　堀本のりひろ
善人と悪人のみに仕分けする　大阪　伏見　雅明
美人には何でもしますハイハイと　大阪　江見　見清
四コマでちゃんと納まる我が生涯　大阪　奥野健一郎
おはようといただきますとおやすみと　大阪　矢倉　五月
わが家では猛虎勝ったら飲み放題　大阪　岩崎　公誠
暗くなればビールを飲んで眠るだけ　島根　松本　文子
柿の種チーズにビールあればいい　大阪　江島谷勝弘
酒出たらすぐに機嫌の直る父　大阪　村上　玄也

酔えば寝る腹が減ったら飯を食う　大阪　鈴木いさお
美味いもの食べて治まる腹の虫　大阪　齋藤奈津子
目分量さっさらさっと男飯　大阪　村上　直樹
好物は何も入れない卵焼き　岡山　折鶴　翔
カップ麺おかずに飯を食っている　高知　辻内　次根
食べるから太るんだよと医者が言う　大阪　片山かずお
放っておいても花は咲いたし子は育つ　兵庫　藤岡　りこ
冬が好きスキーかまくら雪だるま　大阪　田中ゆみ子
シンプルに生きたつもりがただの貧　大阪　今村　和男
年金の暮らしに袋綴じはない　大阪　山岡冨美子
二拍子がいいね行進曲になる　広島　田辺与志魚
老化だと書けば完結するカルテ　兵庫　岸田　万彩
シンプルで黒いのがいい霊柩車　兵庫　松本ゆかり
ジーパンに穿き替えシンプルに生きる　奈良　菱木　誠
真っ直ぐでスッポンポンの男です　島根　石橋　芳山
取説は不要賞めれば動く夫　兵庫　大坪　一徳
お返事は○か×かで願います　兵庫　堀　正和
イエスとノーだけで余生を過ごしたい　岡山　岡本　余光
夏は日陰で冬は日向がいいベンチ　大阪　宇都満知子

ふたつほど若いと言われ好きになる　兵庫　山田　耕治
多機能はいらんオンオフだけでいい　大阪　鈴木　栄子
危険でも真っ直ぐにしか歩けない　鳥取　福西　茶子
梨が好きあなたの里で採れたから　兵庫　冨永　恭子
だいじょうぶ月が私についてくる　大阪　島田　明美

佳

左目を閉じたら口があいてしまう　岡山　大石　洋子
一枚のはがき毛虫を蝶にする　鳥取　斉尾くにこ
ビビッときただけで夫婦になりました　奈良　渡辺　富子
暗算が出来る範囲で生きている　山口　坂本　加代
踏めません白地に赤い丸描けば　奈良　居谷真理子

人

誉められてスキップをして蹴躓く　大阪　平井美智子

地

一本気グラデーションのない夫　兵庫　北野　哲男

天

上にあるものはいつかは落ちてくる　兵庫　糀谷　和郎

軸

腹ペコになるとハートもぺっちゃんこ

老地図

毎月24日締切・35句以内厳守
掲載は原稿到着順となります。
楷書で誤字のないようにお願いいたします。

編集部

川柳塔みちのく（青森）　稲見　則彦報

響き合う夫唱婦随の二人です　則彦
リハビリの姿見せたくないクラゲ　ひとし
晩秋のひと雨ごとが冬の使者　一呑
木枯しにシャンソン響く並木道　風来坊
左遷地の辞令が心重くする　重虎
乗るしかないな三途の川の渡し舟　のぶよし
外出れば少し優しい母となる　隆樹
標準語途中で舌がストライキ　美鈴
南船北馬一生僕の宝物　洋子
四重奏聞いて響くよ胸の内　澄子
ゆっくりと湯船の中で仮面剥ぐ　初枝
気づかれぬ体裁少し持っている　柳子
乗り遅れノアの方舟次はいつ　孝子
めっきゃの～東京さ行げばおいしねす　吹喜
冬眠の準備に熊は町へ出る　慕情
久しぶりカモメひき連れサンマ船　英子
体裁をまだ捨てきれずアリになる　京子
鰹船降りる萎びた力瘤　黙人
朝焼けの水平線を吸う舳先　ひろ
ほどほどの体裁の中生きている　真由美
人の目を気にして天を仰げるか　龍馬
葬儀への参列拒む新コロナ　ふさゑ
陽炎に揺れるチャンスで夢芝居　花峯
鳥の目の高さで鳥とする会話　劦
オートバイお化け屋敷は大騒ぎ　きよし
咳してる人の隣に座らない　霜石
古いしきたり破れば変わり者とされ　呑舟
喜んでいる顔見てる顔が好き　和香子
これを機にもうごきげんは取りません　規子

和歌山三幸川柳会　西川　千鶴報

一日を貧しく生きる箇条書き　和子
暴風雨我が家すっぽり食洗機　日出男
甘えるな影がわたしを叱咤する　ひろ子
幽玄の狭間に白いまんじゅしゃげ　理恵
定年後男は家で貝になる　智三
朝シャンの香る少女とすれ違う　俶子
陽の匂い浴びた布団で待つ帰省　起世子
油断大敵甘い言葉に乗せられる　富香
苦い水と知った蛍は身構える　当代
経験を積んで我流になる軽さ　美枝子
形見分け母の匂いも折り畳む　宏枝
人間の甘さを突いてくる自然　純子
棒グラフ伸びず上司の苦い顔　昇
寄り添って作る二人の甘味料　八重子
病院の匂いを連れて母帰る　幹子
良薬の苦さ知らない糖衣錠　まき
脱皮する少年の背な匂い立つ　菜摘
苦い目に遭って大人になる男　准一
歳問わず甘い言葉は蜜の味　一雄
一本の蝶子の甘さが事故招く　敏照
いい薬だった苦味のある叱咤　昭枝
世代交代土の匂いのせぬたんぽ　かず子
金儲けだけは苦手と言う社長　保州
サヨナラを予感していたビターチョコ　知香
苦い秋肩が泣いてる祭り好き　あき子
つんとくる可憐な花の自己主張　眞智子
稲穂を渡る風の匂いにある平和　悦男
値上げされ泡苦くなるビール党　義泰
御世辞だとわかっているが頬ゆるむ　彦弘
甘くみるとヘクトパスカルすぐ下がる　明子
芋飴をつくり待っててくれた祖母　みつ江
甘い顔見たことないが親は親　よしこ
しくじりの苦さを糧に人となる　康則

逆縁の子供の服が捨てられぬ　文彦
苦い過去拭ってくれた大落暉　千鶴

川柳塔打吹（鳥取）　斉尾くにこ報

人間に少し足りないのは根気　重利
惚けたふり寝たふりをして一世紀　石花菜
精魂をこめリハビリの豆拾う　節子
根気よく漢字パズルと睨めっこ　公恵
バタバタと決まった見合いほっとする　清
台風でバタバタ屋根がめくれだし　久芽代
急な変更バタバタ走る舞台裏　みゆき
返答に迷ったときのそうですね　富隆
バタバタと小六高一共稼ぎ　岳人
突然の新しい顔　総理席　紀子
バタバタの中に密かに幸せが　裕子
棺桶の中でバタバタする予定　三津子
両腕をバタバタ気分だけカモメ　完司
迷わせるネット情報ついその気　義人
マスク柄迷子探しに助けられ　貴恵
日向ぼこ昨日の迷い解けて行く　美知江
古カーナビ迷って走る山や海　照彦
迷ったら大きい方を買うスイカ　紀の治
決めかねている間に奥の手が逃げる　宣子
人間の心が見えぬから迷う　芳光
逢える日も逢えぬ日もあり迷い道　美ッ千

冷えた朝霧が知らせる実る秋　陽之助
露草の藍色見惚れ足とられ　紀美恵
プーチンも怒る兵士の正露丸　野蒜
コロナ菌これほどまでと露知らず　滋
夫若く逝く露程も思わざり　悦子
露知らず連帯保証人となり　大鯰
露の間の命と知らず蝉が鳴く　重忠
芋の葉にダイヤが一つ朝の露　龍枝
半分にしてもまた露はまんまる　くにこ

竹原川柳会（広島）　古田比呂子報

失敗を許すわが身の後始末　節生
目で許す強い味方の妻が居る　敬子
許されている生きているそれでいい　比呂子
好きにせえ父が許した厳しい目　節夫
閻魔様に許して貰う様に生き　美保子
僕よりも先に死んだら許さない　千代美
幸せな朝新米をご仏前　栄香
早朝の間違い電話許せない　宣之
モーニングいつもの席が空いてない　蘭幸
秋ですね朝の日差しが心地良い　慶子
家族五人パン派ゴハン派朝の皿　幸子
午前五時前へ前へと歩を進め　輝恵
朝の風やさしい笑顔待っている　鬼焼
どこからか秋を深めるおけら鳴く　淑子

水野黒兎選

モフモフが乾く心に水くれる　公恵
待つことは気楽待たせるのは辛い　宣之
笑い声する方へ向く羅針盤　俶子
痛い目に会いはったねと他人ごと　さくら
すんなりと決ったわけじゃない中止　直子
上を向こう天は変わらぬ深い青　燿一
脱いでも脱いでも追いかけてくる過去　ゆみ子
秋刀魚一匹表は妻が僕は裏　隆浩
あの時が嵐だったと気付く虹　あかり
さよならとネイルアートを秋にする　星雨

佳句地十選（12月号から）　谷口義選

寝たきりへお早うさんと蒸しタオル　昇
何とかなる何とかなると顔あらう　理恵
お気軽にと整骨院がまた出来た　耕治
まあいいか掃除せんでも死ねへんし　星雨
妻が問うほんとの給与いくらです　隆浩
弟子の頃月が出るまで仕事した　石花菜
過去はもう追わぬ笑っていたいから　茜
年かなあやさしくなってきた主治医　哲子
打たれてもひょいと出てくる杭であれ　美津子
燗がつくまでの五分の長いこと　いさお

満月のこおろぎ恋のノクターン　弘子
いつも対でいるとか百足殺せない　夢香
秋の夜を奏でる虫たちの音符　昭紀
虫の音の今宵静かに眠るべし　笑子
秋深しトトロ信じて歩く姉妹　歩美
曾孫の写真穴があく程見て飽きず　貞子
秋風にまた試されている度量　厚子
台風がそれて佛に手を合わす　規代
漆黒の闇に抗う羽を持つ　史子
ありんこが2ひききょうだいだとおもう　五歳　ちか

わかやま吟社　小谷　小雪報

背を押され賭けたひと日に今がある　富美子
待ち兼ねていよいよ歩く時が来た　明
いよいよの時へ腹いっぱい食べる　夕胡
いよいよと言う時蜂がやって来る　文代
人生色々いよいよ見せる永田町　悦男
差し迫るまではのんびりするつもり　知香
本番へせっぱつまったリハーサル　小雪
ライバルがいよいよ動く眠れない　晶子
学校で畑仕事した戦中派　紀久子
畑どころか庭の草引きやっとです　徑子
自給自足母の畑はパラダイス　紀子
育ってる今朝も畑に語りかけ　佳子
畑売ったことご先祖にまだ言えず　保州
開発の波に畑が失せてゆく　寿子
生真面目な畑が生んだ旬の味　日出男
耕して畑の価値を上げている　ほのか
夏草繁る後継ぎのない畑　俶子
パンダ来て日中友好だった筈　精子
パニックになったパンダの白と黒　春雄
ほころべばパンダもゴミに左遷され　八茶
客寄せのパンダの心誰が知る　和宏
母国まだ知らぬパンダの里帰り　タカ子
竹藪でパンダに会えばどうなるの　尚美
パンダにもイライラする日あるのかな　よしこ
曖昧を嫌うパンダの白と黒　大輪

川柳ふうもん吟社（鳥取）山下　凱柳報

明日知れぬとじもない金よく光り　とも湖
青い鳥やっと来ましたありがとう　一粋
八十六歳句作りあって生きる道　茂登子
文句言う学者いらぬと切る総理　隆浩
買うまでが楽しみだったコレクション　茶人
誰だあえマスクを取って見せてえな　蟹郎
菅さんの一番鶏が鳴きました　妻子
相槌は上手自論持ってない　美恵子
やれやれだ松茸山にスズメ蜂　重忠
嫁姑つぎめ継ぎ目に糊を足す　蛙鳴
人生の継ぎ目こだわりくらくらに　大毅
軍事費の工面に躍起北のドン　振作
貧乏神金の工面をすると言う　みゆき
工面して嫁入り布団出番待つ　節子
子は自由親の工面も知らないで　金祥
有難い決まった時に食える飯　春雄
重たくて継ぎ目を切った墓仕舞　一瑤
継ぎ目からポロリと落ちてきたドラマ　昌鼓
食料の工面あれこれ戦時中　恵
至近距離なのに心に触れられぬ　紫陽
とじもない妄想してはほくそ笑む　一平
わったいなとぶくろ三昧とじもない　みゆき
とじもないことが大手を振る怖さ　真理子
ばあちゃんがさすると治るおまじない　八千代
カーナビが無くて森から出られない　回春子
喉元の棘がとれたぞ三日振り　かかし
大役を終えて沈んでゆく夕陽　か こ
気がつけば終着駅が見えてきた　欣之
ローカルの美酒はレールの継ぎ目音　勲章
腰痛い継ぎ目に油入れたろか　天遊
人と人の継ぎ目まあるくするお酒　紘一
どう工面しても返せぬ親の恩　房江
工面には汗も涙もお伴する　楓花
金で済むならできる限りの工面する　凱柳
フィルターにかけて心の大掃除

富柳会（大阪）　山野　寿之報

もう少し繋いでいたい手の温み　恵
温もりを残しそーっと置き手紙　武人
レールから外れ男の背が丸い　寿之
外人の舌まく程の河内弁　高鷲
刈り終えて賑わう案山子コンテスト　和子
感動の余韻に浸る一行詩　壽峰
外国に行けば日本の良さわかる　一文
ジュテームを掻き消す汽笛ジャンギャバン　田鶴子
来世を祈る姿の蝉の殻　澄子
困難な地球を月がそっと抱く　よしみ
気遣いに今気が付いたかたつむり　きみ子
声高の人権孤独死の隣　欣之
法隆寺鐘の音色に余韻あり　清
悲の欠片残して逝ったペットロス　あかり
傾聴の余韻が未だ耳の奥　文重
外面の良い鬼を一匹飼っている　由夏
だんじりも祭りもなくて秋が過ぎ　正義
幸せは何かなくして気づくもの　常男
直角の喪服の礼に送られて　隆允
ひたすらに心リセット草むしり　章子
コスモスが風とおしゃべり昼下がり　安希子
指先でそっと摘まんだ軽い嘘　良恵

鈴虫のきれいな音色残る耳　やすえ
酒を飲む心の鬼が消える迄　圭

南大阪川柳会　松岡　篤報

アメリカの前でもじもじする日本　いさお
もじもじの酒がまわると大胆に　直子
もじもじと指さし「前が開いてます」　東風
はっきりと言うに言えない会議中　よしみ
何を喋ったらいいのか好きな人　勝弘
立場上本音を言えずもじもじと　国和
もじもじとせずに大きい方を取る　実
見せかけのもじもじだった菅総理　昌紀
聞く方がもじもじお世辞度が過ぎる　楓楽
駅裏でコロナに揺れる赤提灯　柳伸
墨を擦るこころ平らになる和室　弘委智
母の味舌が覚えた煮ころがし　志華子
カイトには負けてなるかと奴凧　歌留多
和服着て少し女に戻る時　通江
中学生並んで来るとちと怖い　一歩
シャッターが並ぶ下町商店街　ひさ乃
古都の秋秘仏並ぶ寺めぐり　ルイ子
へそくりを並べニタニタする夜中　篤
並んでる長屋に残る人情味　シマ子
千円のサンマが並ぶ秋深し　あや子

コロナ禍の空白並ぶ予定表　大子
行列の中にはユダの居るこの世　敏治
がん首を並べ謝罪の二〇秒　俊雄
シャンソンに酔った昔を思いだす　修
フレンチのお昼夕餉は鮭茶漬　妙子
どら息子マドモアゼルと帰国する　満作
憧れたパリに遺影を連れて行く　郁夫
天高く野外食事は栗おこわ　柳右子
三日通いやっと手にした免許証　博
古希すぎたおまけの日々はおいしいな　峰子
晩学の心は凛と老いるとも　弘子
百歳が生きるヒントを残し逝く　克己
この扉開ければ拡がる視界持つ　亜成

川柳茶ばしら（愛知）　関本かつ子報

大根は値下がりしてもサンマ高　まみ子
千枚田黄金が消えた里の秋　三樹夫
三密を余所に賑わう観光地　遡行
進むより難儀引き返す決断　美千代
人の名をすぐに忘れるお歳です　雅美
一枚を着たり脱いだり秋の風　かつ子

川柳ささやま（兵庫）　北澤　稠民報

神様も英和辞典の欲しい絵馬　(北)哲男

急いでも変らぬ速さ老い足　稠民
口許になければ淋しいマスク馴れ　善輔
横文字を使うと何故かかしこそう　剛
やもめには秋の夜長が邪魔をする　重男
給料天引きへそくり口座妻にばれ　喜弘
痛み知る指が辞めてと嘆いてる　良子
信じあう家族の笑顔宝物　照代
耳口を塞ぎ秘め事そっと聞く　(長)哲夫
横文字に意味と注釈ほしい老い　美智子

はびきの市民川柳会(大阪)藤原　大子報

あれから九年土は戻らぬ浪江町　ちづる
土いじる夫はいつも機嫌よし　かつ美
古墳の世人集まって土を積み　正義
土砂降りが縁となって古希傘寿　久仁子
土を持ち上げる雑草見習おう　瑠美子
自粛ながびき土偶のようになりました　シルク
城壁に未だに残る戦乱期　一文
土踏める足が喜び若返る　千鶴子
お笑いが大阪の地によく育つ　みつ子
土煙巻き上げ走る暴走車　ひとみ
はやぶさの土産の土は宝物　宏造
土の中ミミズも欠伸しています　さくら
父からの電話は土の匂いする　久仁雄

たっぷりと土葬の父に酒注ぐ　専平
おぼれずに世間を泳ぎ今安堵　フジ
巨悪には自由に泳ぐ策がある　冬のト
山の神に図星指されて目が泳ぐ　いさお
次の世は上手く泳いでやるつもり　勝弘
浮袋付けずに泳いだ事はない　扶美代
美しい日本気分良く泳ぐ　美代子
向こう岸までいっしょに泳ぐはずでした　理恵
お帰りと池江選手へ拍手する　まつお
自由自在に地下街泳ぐ都会人　こみつ
政界を泳ぎ冷たい人になる　ダン吉
ラッシュの波客と泳いで来た自慢　一歩
世を泳ぐための浮輪になる諭吉　楓楽
瞑想の海で詩人になり泳ぐ　大子
マスク乾す干物の如く泳ぐ軒　洋一

岸和田川柳会(大阪)　石田ひろ子報

お誘いも途切れて人生も秋だ　ダン吉
背を押して扉を開けてくれた父母　蕉子
深呼吸すると扉が軽くなる　和子
生きていく夢は捨てたり拾ったり　常男
誘蛾灯ヤモリ夜毎のバイキング　万彩
掌のひらの生命線もぼやけ気味　洋二
改ざんの命令受けて絶つ命　秀夫

難民の軽い命を泣く地球　信二
極楽の扉固くて開かない　いさお
昇りのボタン誰か押してよ　三成
三密の扉ワクチン出来るまで　義泰
火遊びは如何とライン誘てくる　香代
ドアの外の気配が嬉し回復期　美籠
近頃のゲーム命を軽んじる　康信
長らえた命にコロナの洗礼　英夫
無防備な女を誘う常套句　ふさゑ
上手な誘いに乗っては奢らされ　輝子
命断つ勇気あるならまず生きる　愛子
自動ドア人を選ばず招き入れ　玄也
人生相談みんな必死に生きている　保州
原爆で命おとした小田夢路　一歩
八十路坂夫はわたしの命綱　珠子
もう少しお待ちください閻魔様　眞澄
お誘いのある内が華靴磨く　ひろ子
半額のシールが別腹を誘う　恵子
二の腕の百恵命も干からびて　日出男
志村けん死んで間近にコロナ知る　和美
一色を足して余命を虹色に　みつ江
生き様を手本にしたい母が逝く　穏夫
ときどきは命へご褒美をあげる　信子
財産は無いがドアには鍵3つ　憲彦

晩酌が僕の命を支えてる　さくら
生きてるか生きてまっせと打つメール　清
熱燗で心の扉開け放つ　律夫
良い目覚め今日も私を生きている　恭子

川柳塔唐津（佐賀）　**仁部　四郎報**

何時までもおんなで居たい紅を引く　高明
首筋がひんやり嘘を子についた　四郎
いいことがあると信じて後がない　蜂朗
勝つ迄は祈りは冴えて怠らず　實

ブラザ川柳（大阪）　**穂口　正子報**

苦しまず少し残しておさらばだ　正子
旅行にも行く気になれず老友と　和代
頬染めて無口になったかわいい子　政夫
ダイヤにはなれない私アメジスト　清乃
四季の顔表情変える奥河内　悦夫
くどい話すんませんなと腰下ろす　弘光
畑より心耕す共白髪　求
渇いてる心耕す歎異抄　一彌
目が口程に物語るマスク顔　淳司
石垣に魅せられ巡る城百選　景子
折々の四季の表情愛でる旅　五月
農耕の牛エンジンに一変す　園子
気に入りの遺影未だに決まらない　修
鍬を入れ汗拭く畔に彼岸花　克三

川柳塔鹿野みか月（鳥取）**福西　茶子報**

恋人に会いたるごとし句会の顔　大鯰
居た筈の諭吉に羽根が生えていた　楓花
雑念はいつも心に住んでいる　甚禄
人生の積み木崩れてやり直し　ゆたか
四季を塗るクレヨンもっと減った筈　すみれ
恋破れ体半分失った　小鹿
拝むのと愚痴と半分ずつの数珠　盛桜
母さんの表は賢母裏は魔女　茶子
今もなお夢半分を追っている　草文
健康の自信崩れる再検査　弘子
蟹汁の手筈もなれた年の功　一平
一角を崩すと弱い囲碁将棋　照彦
苦と楽が半分ならば良しとする　鈴
僕の脳右半分が馬鹿だった　文道
太陽が半分昇り夜勤明け　弘六
物忘れ増えたが崩れてはいない　孔美子
半分は治る気で看た妻の癌　重忠
雑学に長けて常識分らない　完司
こんな筈ないと呟く棺の中　恒
おいしそう孫のおやつも半分こ　かおる
母さんの踏んずけた虫死んだ筈　英子
地を這って半人前の草むしり　実満
半分を仲良く食べた昭和の子　孝子
出来る筈のことが出来なくなって老い　宏章
この年でハーフマラソンどっこいしょ　熊四郎
一言で信頼崩す著名人　睦子
納得も裏を呼んでる渋い顔　蟹郎
人間の崩す自然に病む地球　ちかし

ほたる川柳同好会（大阪）**水野　黒兎報**

ポプコーン孫につきあう映画館　春代
私の人生まるで映画のストーリー　奈津子
鞍馬天狗に公民館が湧いた世よ　黒兎
休止符にも気合いを籠めるピアニスト　則彦
休憩と言い訳してはつまみ食い　順子
お見送りせめて駅までホームまで　守啓
断食ツアーせめて二粒梅つけて　一弥
青空に雪吊り映える兼六園　正子
防ぎ方分からないから手をつなぐ　純子

川柳あまがさき（兵庫）**大浦　初音報**

タイガース勝ってよろこび騒いでる　柳明
咳三つ心が騒ぐコロナなの　れい香
引き逃げで逮捕アイドルおさわがせ　初音

白塗りの芸妓の顔に深いシワ　厚江
嫁入りの三面鏡は孫が取り　(入)修平
かじられぬ脛が何だか寂しそう　正彦
塗り絵する孫の腕前ピカソ級　新録
潔い敗者の弁が甦る　菊江
姿見に年相応のボクが居る　良種
うぬぼれをあっさり否定する鏡　紀惠
トランプが負けてテレビに拍手する　健二
コロナ撲滅春は桜と騒ぎたい　久仁雄
潮騒が耳を離れる通夜帰り　美籠
女舞いうぬぼれ鏡拭きながら　紀華
誰とでも話す美魔女の罪作り　堅坊
カサカサに僕もニベアを塗りだした　勝弘
芸人が騒ぐテレビはもう飽きた　耕治
大往生白寿の通夜が賑やかに　雅美
相客で月が揺れ出す露天風呂　正和
おまわりさんいたらちらちらみてしまう　こみつ
ちらちらと見える下着がお洒落なの　千賀子
気がついて時計チラチラ見てるのに　和子
長い夜ちらちら痛む物思い　ヨシエ
孫に論吉をチラチラ見せて手なづける　かずお
長生きは幸せだろか苦だろうか　りこ
銅鏡で化粧直しをする卑弥呼　英坊
キリストが閉じ込められていた魔境　(谷)修平
久しぶり親父と出合う水鏡　万彩
浮き雲の自由にあこがれる自粛　宏造

八尾市民川柳会（大阪）　中薗　清報

鶴千年亀は万年生きられる　清
コロナ禍で冬眠ばかり春はいつ　和雪
少年の扉が軋む反抗期　寿之
人間悲し躓り寄ったり離れたり　耀一
軋む度油差し呉れ寡黙父　卓郎
冬眠もままにならない熊の鬱　壽峰
老化老化聞きあきましたその言葉　あかり
沸点まで束ねるそれぞれの不満　惠
ありがとう軋む心をノックする　涼子
プライドの欠片が軋みなる不仲　高鶩
雪原の美学は鶴のプロポーズ　欣之

きゃらぼく川柳会（鳥取）後藤　宏之報

老人に無縁ですすむIT化　令位子
凛と迄いかぬが背筋伸びている　宏之
旅好きの足がそわそわ赤トンボ　瑞枝
新米の味と香りで元気出る　莱々
人は人比較するのはナンセンス　久直
膨らんでくると花芽に水をやる　紀の治
歳とれば皆どこかが痛いんだ　恵子
当てのない旅のパンフは秋日和　治代
惚けたのか松茸の味忘れたよ　博子
耳掃除医者はするなと楯を突く　俊久
動いてるうちはコロナを忘れてる　宣子
みな必死松茸ごはん探り箸　美穂
丸暗記山が外れて大慌て　汪
秋晴れに母の便りの彼岸花　多美子
さつまいも掘ってはみたが少しだけ　美草
犬と寝るただそれだけで和む夜　日枝子
ちゃんと日が暮れるなんにもしなくても　雨奇
ニュースでは懸念ケネンの連呼です　美緒
こぼれ萩ははの辿った径らしい　千代

川柳ねやがわ（大阪）　籠島　恵子報

そそくさもぼちぼちも同じ一生　弘委智
大阪市民の判決を待つ都構想　祥昭
医者よりもきっとわたしを知る自分　あかり
感謝する心で咲かす募金箱　寿子
わが里の藪にアケビが下る頃　鈍甲
ぼちぼちと家でぼんやりお茶を飲む　一文
ぼちぼちと地球壊れる温暖化　弘一
老犬との散歩時計は止めておく　博
借りた本返すシナモンティ添えて　千賀
借りてきた猫になってるにじりぐち　茜
運動会借り物競争あったよね　銀杏
釘一本ためらいながら借住い　かすみ
裁判を終えてまぶしい空を見る　義広

無罪だと勝ち取る迄の家族愛　尚世
兄弟げんか兄貴に不利になる裁き　かずお
おかげさま医者にかからず元気です　さち子
ちょっとならいいよと医者もいける口　一歩
赤白黄医者は薬を出したがる　灯子
腹八分米寿過ぎても医者知らず　高鷲
コロナ禍に減らぬ年金感謝する　堅坊
まあいいかまだいいほうと生き伸びる　賢子
手縫いなので人にはあげられぬマスク　ルイ子
風配る金木犀の香に浸る　信子
嘲るように人間眺めている鴉　亜成
中秋の月を飲み干す秋の宴　壽峰
引籠り言葉忘れて達磨さん　秀雄
こすもすの優しく揺れて母偲ぶ　朝子
影法師私を好きになって呉れ　博泉
三の矢も覚悟で崖に立つ事情　仁
医療費と食費がデカイ顔をする　高志
自分史の書き直したいとこがある　修
芽の出ない子供に水をやりすぎる　和織
目が笑いマスク同士が会釈する　麗
楽しいなあ同じ悩みの酒仲間　武彦
願うことあって小さな鶴を折る　郁夫

城北川柳会（大阪）　近藤　正報

あの頃にすっと戻れる恋の歌　満知子
旧姓で呼んで初恋確かめる　郁夫
ほのかなる命の炎老いの恋　俊雄
初恋も不倫も乗せて観覧車　洋志
新コロナがんじがらめの日を強いる　賢子
嵌ったらもう戻れない蟻地獄　朝子
川柳で生き吹きかえす我が余生　廣光
還付金の誘いに嵌る欲の皮　満洲夫
ラブソング天使も恋をする聖夜　克己
喪中欠礼長寿社会を反映す　福貴子
恋文を直球にして的を射る　正彦
乾杯の高さに義理を垣間見る　捷二
庭のすすき広い原野を恋しがる　堅坊
死んだ振りしたら乾杯された俺　北舟
乾杯の音頭とってる恋敵　美砂子
恋の歌口ずさみつつお片付け　峰子
AIに嵌り人間性忘れ　一歩
仏壇と乾杯してる自粛中　榮子
憎しみと愛の長さを測りかね　弘委智
親の年無事越えられてまず乾杯　杁香
五七五折れるこの指温める　万紗子
秋夜長昔の恋が蘇る　義昭
ポイ捨てのマスク不気味な繁華街　千恵子
ぬるま湯に嵌り明日が見えぬまま　野鶴
一匙の粥がこんなに旨いとは　星雨
慌てない今日でなくても明日がある　満作
空を飛ぶ車預言者はドラえもん　信子
乾杯の時は味方の顔をする　和夫
秋の日はつるべおとしで忙しい　ルイ子
すぐそこがめちゃめちゃ遠い田舎道　かずお
混浴も昔美人の白い髪　五月
未完の大器言われ続けて最早喜寿　博
駄句没句それでも嵌る五七五　志華子
めちゃめちゃに駆けた稼いだ恋もした　直樹
ありすぎる余裕を埋めるアレがない　修

川柳塔さかい（大阪）　内藤　憲彦報

どたん場で土下座だなんて甘えてる　ひろ子
どたん場でやはり物言うお人柄　堅坊
どたん場で力がだせる粋な人　廣子
最後の最後一句だけ抜けました　勝弘
今すぐにレムデシベルかアビガンか　としお
どたん場でいつも逃げだす卑怯者　光雄
勇み足で星を拾った徳俵　進
どたん場に強いお人だ付いて行く　舞夢
見つめたら母の笑顔にみえる月　朝子
写真見つめ今も好きよと独り言　(綾)清
自分を見つめすぎ逃げ場を失う　蕉子
飢餓の子が空を見つめている瞳　敏治
いつまでも親は見つめる子の未来　志津子
現実を見つめ米寿の米を研ぐ　妙子

木簡を見詰め古代に想い馳せ　憲
試作した罠へ一番先落ちる　扶美代
誘惑の罠がネットに溢れてる　満作
美しい罠にはまって共白髪　和夫
罠にせよここは越さねばならぬ坂　ゆみ子
老人を騙す輩も親が居る　時雄
社長夫人と言われ嫁げば町工場　五月
金融で即決というこわい罠　唯教
見つめてる夫の遺影は歳とらず　敬子
迷ったら満天の星見つめてる　さくら
満月に重なる影を見つめられ　佳子
CT画像見つめて医師の重い口　みつ江
お見合いで妹ばかり見つめてた　玄也
昇格の辞令じっくり読み返す　雅明
夕焼けが美しすぎて立ち止まる　満知子
戻れない故郷見つめている墓標　雅美
うちがいい遠慮しないで飲めるから　いさお
うららかや遠足の子等野に遊ぶ　美津子
運も良く縁起が良くて駄斗鮑　八千代
ウィズコロナ笑顔で暮らすのが秘けつ　憲彦
歌会の絵になる雅のどかなり　みつこ

川柳大阪　山崎　珠生報

満月へお辞儀している芒の穂　堅坊
知らぬ顔されても助けてお月様　比呂志
マフラーでチョット隠して小顔です　和
コートマフラーより冬は君の側　(原)すみ子
一世を風靡しました真知子巻き　(鈴)いさお
手拭いをマフラーにした神田川　勝弘
戦時中いのちつないだ芋の恩　朝子
芋ほりの子らの歓声響く天　(北)賢子
芋粥で生命繋いだ戦火の日　志津子
芋入りの茶粥ふる里想い出す　克己
芋煮会心と体暖かい　珠生
坂道を登った所に好きな寺　芳香
興福寺ぐるりと廻り日が暮れる　一歩
行く果ては投げ込んでくれ一心寺　俊雄
もうそろそろとまだとも思う墓終い　(今)万紗子
生きている証拠に今日も目が覚める　照月
ノーサイド御存じですか大統領　まつお
潤いの亡くなった手なでさする　峰子

岩美川柳会(鳥取)　山下　節子報

自画像に希望の彩がまだ塗れぬ　一瑤
とぼとぼとぴったり寄り添うふたりづれ　一平
ぴったりと潮目が変り釣れ出した　重忠
来年の春は花見ができるよう　完司
虫も殺さぬ優しい顔へ芯がある　美恵子
ぴったりと寄り添う介護手が温い　たぬ
ぴったりと影も私について来る　菖子
カメムシで雪を占う村酒場　幸安
ぴったりと私に合う男が来ず　敏子
くやしいがLLサイズちょうど良い　真理子
イケメンじゃないが相性ぴったりだ　振作
ニッポンの礼儀作法は宇宙一　茶子
虫の音聞きググッと一杯飲む至福　凱柳
虫けらと罵倒されても何くそと　弘六
古民家に文化財とや煤だらけ　蟹郎
ファーブルの本と虫篭置く机　節子

長柳会(大阪)　辻村　ヒロ報

表情の豊かさ見える笑い皺　ヒロ
どこへ行く川柳会よ笑い声　靖子
甲斐性無し涙ながし駄々をこね　洋二
ポケットのティッシュも回る洗濯機　登美子
頼られて生きる力が湧いてくる　ふみ
晩酌に生きる喜び託す老い　光弘
グッと呑む生きてる証酒うまい　孝
紙とペン脳を耕し掘り起こす　孝代
耕して耕してきた人の縁　由夏
稲実る棚田称える夕映えよ　三和子
命かけ耕して来たアフガンを　幸子
悲喜の日を耕し合って老い夫婦　隆彦
颯爽と若い女性の耕運機　正美
若い力が耕作止めた地を救う　ともこ

老舗より安くて美味い店に行く　隆明
せつないねいつまで続くコロナ風　規之
赤提灯のれんが招くあらばしり　澄子
勝つまでは負けにはならぬ勝負あり　邦夫
秋も良二人で散歩桜道　おくみ
たての糸からんでもつれたこの糸　由子
駄目ですか二番煎じの春なのに　和子
美容液今日も盛んに塗り立てる　たけし
笑います心の垢を流すため　千代
死の影に常に怯えた戦時中　ゆき
赤い糸褪せて媚薬をチョイと混ぜ　福子
老いて尚たんまり稼ぎ笑い顔　靖博
下降線辿るお肌は染みと皺　和代
ポックリと逝きたい人がマスクする　正博
目が口程に物語るマスク顔　淳司
鈍臭く生きてきました俺らしく　純風

西宮北口川柳会（兵庫）　緒方美津子報

大切に温めていた卵です　ひとみ
パソコンのスイッチ入れてはい出社　和宏
静寂の日本庭園鹿威し　盛夫
ご近所の最新ニュース待つ床屋　利子
歳なりのお洒落が気品醸し出す　光久
八十路越え心安らぐ歎異抄　千賀子
羽ばたいて油断召されるネオン街　野薫

秋深し団子供えて月を待つ　伯備
元気だね言われる度に若返る　正彦
何気ない会話に知性あふれ出る　廣光
もぐり込む布団ほこほこ陽の匂い　哲男
優しい句繰り返し読む十三夜　恭子
温燗が恋しくなった秋の暮れ　正和
これからは出たとこ勝負それもいい　いわゑ
おはようと大声が出る秋の天　哲子
雲行きが悪くて猫が部屋を出る　千代
炊き出しの鍋からもれる心意気　紀華
給料の話になるとすぐ黙る　富次
呼び方もオカンとなった声変わり　俊雄
満月が歪んで見える歳になり　勝弘
陰口か急にトーンが低くなる　健彦
羽ばたいて少年駆ける夢無限　野鶴
秋色へトーンを変える千枚田　洋次郎
ほこほこの布団恋しい一人者　順子
ほこほこの流言飛語に惑わされ　弘委智
玉子焼挑戦孫の得意顔　(福)弘子
平々凡々せめてなりとも出る杭に　一徳
ちょっぴりの酒にすぐ出る赤ら顔　宣子
家出るや妻を忘れた壮年期　堅坊
マスク取り赤いルージュで出掛けたい　みよし
温泉で体ほこほこ寝つけない　昭九朗
炊きたての新米まんず仏様　武彦

高低のトーンで出来る歌ステキ　(清)弘子
スクワット三日前かな筋肉痛　邦男
トーン下げた仲間同士はあたたかい　迪

あかつき川柳会（大阪）　磯島福貴子報

目と耳と脳が怪しい高齢化　もと
重箱の隅を検事の目がつつく　北朗
怪しさがぶつかり合った世界地図　みつ子
怪しいと放っておけない脳回路　(松)敏子
何かある銚子二本もついている　栄子
怪しげな治安どうなる星条旗　堅坊
ATM怪しい影が付き纏う　(松)秀夫
人間の疑心暗鬼にある憂い　寿之
どう見ても見ならぬ客が通夜の席　壽峰
詐欺集団嘘八百を天こ盛り　満智子
音量でいさかい起こす老いの耳　世潮
騒音なものか秋の運動会　正康
音もなく監視されては不気味です　進
カラカラと風の動きを舞う枯れ葉　克己
雑音も和音になっていて家族　朝子
淋しがり音のする方ばかり行く　みつ江
周り見て世間並みだと安堵する　すみ子
世間体を繕う妻でもっている　蒼水
見ていないふりで見ている世間の目　康信　奬

騒がしい世間がいやな深海魚　常男
世間体気にせず嘘を料理する　公輔
世間とのズレは私か政治家か　古池蛙
父と背が世間の風を受け止める　楓楽
老眼鏡外し斜めに見る世間　(寺)弘子
意に染まぬ者はバッサリ新総理　(河)正
印の重味知らぬ大臣はしゃぎすぎ　しげ子
決まりです悪の烙印核兵器　(近)正
環境を変えられ熊が町に来る　比呂志
冬の音近し金木犀がよく匂う　シマ子
政権を替える今度の総選挙　(川)武
分断も選挙の後はノーサイド　五二
核禁止世論が世間包囲する　一行
消しゴムで消した時間が蘇る　昌芳
ストリートピアノは響く楽しげに　直子

倉吉川柳会(鳥取)　竹信　照彦報

マスク顔見えぬとにかく会釈する　雄大
マスクにもいろいろあると神の声　次男
ガスマスクはアベノマスクより小さい　鬼一
買い物で店に着いたらマスクない　道春
顔立ちも判らぬマスク孫でした　恭子
トランプもマスクの陰で泣いている　隆昌
神棚に上げるぼた餅いつ落ちる　由紀子
問題を棚上げにして片付かぬ　けいこ

病む夫に愛を手掴み上げた日々　日出子
馬鹿にして人を上げ下げ嫌な人　智恵子
上げるもの何もないから笑顔です　酔芙蓉
凧上げをする子はいないスマホかな　明友
天滴のしずく命の音がする　紀美恵
一滴も残してならぬコップ酒　麦青
茶を入れる最後の一滴が美味い　風露
いまわの妻涙おとした一しずく　重忠
ひとしずく紅茶に落とすウイスキー　萩江
点滴のしずく昼寝の時間です　茂夫
晩酌の後は沈没船である　完司
船頭が多くて舟が空回り　石花菜
クルーズ船三密避けれずコロナ禍に　裕美
難破船になって夫婦にすきま風　凱柳
渦潮の目玉見たさに遊覧船　祐子
荒縄を背負い登頂船上山　野蒜
大漁旗揚げて海上デモをする　大鯰
難破して陽炎になる俺の船　照彦

六甲川柳会(兵庫)　糀谷　和郎報

愛煙家値上げ値上げに耐え続け　盛夫
ストリートピアノで六甲おろしを　正和
コンセントまたぎまたぎの冬が来る　ひろし
ポケットの中で我慢が騒いでる　光久
時どきは離婚を口にして夫婦　利惠子

混む店はイヤ空いてる店はもっとイヤ　隆浩
正しいの思いに付いてくる我慢　洋次郎
何事もなかった日こそ二重丸　公輔
お月さま欠けてる時もきれいです　克美
とんがった話笑顔が丸くする　崇史
丸くなり聞いて諍い納めてる　正彦
年頃の孫の身躯が丸み帯ぶ　正美
満月に抱かれ聴いてる愛の詩　千賀子
死神に諭され余生丸くなる　真桜子
冷え込んでかぶらは丸く丸くなり　恭子
かあさんの真似ばかりまたしています　ひとみ
マスク美女追って歩けば我娘　(畿)洋一
靴を履く男は追わぬ意地がある　美津子
書くことが少なくなった日記帳　哲男
わくわくと一年先を追う五輪　美恵子
追う事を止めて僥倖待つゆとり　博
亡き人の思い出を追う秋の宵　廣光
追い足しの塩ひとつまみ決めた味　道子
追い風も味方に付けて新記録　武彦
天地人追ってえんぴつ走らせる　利子
マネキンに恋して今日も遠回り　和郎
高値です細身のサンマしっぽ迄　義明
学問の自由をおびやかす人事　勝弘
父母よりも長生きしてる日日感謝　芳江
賀状欠礼別れじゃないと文字の声　弘

好き嫌い有って笑顔を持ち歩く　憲三
手作りのマスクは恋の布石かも　敏子
コロナ禍も失業不安なき老後　狸月
岩盤ですトランプ支持者虎フアン　和宏
赤を着て二度目の青春まっ盛り　弘華

川柳藤井寺（大阪）　太田芙美代報

アクシデント夫おろおろ妻気丈　大子
嬉しいオロオロ初孫の誕生　みつ江
どうしよう誘われましたマドンナに　勝弘
おろおろとしながら計算は達者　冨美子
聞き上手低い垣根の人だろう　ダン吉
急に来た秋におろおろするもみじ　美代子
告知されればただブランコに座ろうか　久仁雄
赤い糸締め直そうと妻が言う　信二
今更におろおろはせぬ百歳ぞ　シマ子
生垣の向こうの庭は青い芝　進
来た道を忘れおろおろ白昼夢　シルク
その時が来てもおろおろせぬつもり　いさお
予期しない拍手におろおろするマイク　六点
地震きてパニックおこし動けない　芳子
おろおろが喜びになる呱呱の声　ひろ子
おろおろと躓きながら八十路坂　一文
事あれば女の方が据わる肝　婦美枝

国交の垣根外している平和　壽峰
ノーサイド垣根払ってワンチーム　みつこ
むつかしいお題出されておろおろと　正義
嫁入院何もわからぬ家の中　ちづる
垣根の様にガーデニングの植木鉢　香代子
妻の癌強気な父がおろおろと　喜代子
四季のある生垣残る町が好き　フジ子
飲み過ぎか昨日の記憶ないのです　まつお
世の変化男女の垣根取り払う　キーキー
高い垣根翼があれば恋実る　瑠美子
夫婦でも少し垣根がある仲で　一歩
女より男おろおろする修羅場　高鶯
余程の事おろおろしてる父を見た　扶美代

川柳堵なら　大久保眞澄報

あの世とこの世三途の川で繋がれる　千代
くいだおれ太郎も派遣社員です　眞澄
口重くパイプの役は打って付け　ダン吉
面接に背筋が伸びるパイプ椅子　恭正
パイプ咥え戦後立て直した総理　満作
過去流すパイプが詰まり溢れ出す　富子
一本化マイナンバーというパイプ　妙子
パイプ椅子詰まらぬままに通夜終える　雅美
諍いのパイプ役する子の健気　大子

マッカーサーパイプ姿が板につき　展代
久々に抱かれよろこぶダッコちゃん　半六
ぬいぐるみ叱る娘がママに見え　武人
着せ替えのリカちゃん今も人気者　勝弘
現在のノラは世界を闊歩する　ひろ子
こけし人形へそくりの場所知ってそう　敬介
棚田百選案山子並べておもてなし　崇明
抱きしめて人形に愚痴聞かせてる　華蓮
文楽のように魂揺さぶられ　順啓
大王を譲り続ける兵馬俑　百合子
人形に生命吹き込み腹話術　小道
ゆび人形おとぎの国へ迷い込む　みほ子
ゆるキャラがエールを送る郷土愛　貫一
情報の海泳ぎ疲れている人魚　希久子
居るだけで疲れるヒトが側に居る　行久
暇な時間たっぷりあって疲れ気味　万紗子
冗談が通じぬ人とする会話　一歩
何もすることがなかった日の疲れ　保州
疲れたと口には出せぬ旅帰り　常男
在宅の疲れコロナに恨み言　一志
じっとしているだけで疲れるディスタンス　文聡
無為徒食テレビ見るだけでも疲れ　薫
いい人を演じ疲れて自己嫌悪　江里子
タテ社会横に歩いてきた疲れ　すみえ

深呼吸一番したいのは地球　良一
これ以上骨休めると疲れます　和夫

大山滝句座（鳥取）　新家　完司報

顔洗う昨日の欲がついたまま　小鹿
動かない事情が欲しいずる休み　くにこ
欲の皮破れそうですバイキング　紀の治
欲も嫉妬もあり人間がにおう　楓花
手と足と頭外して休みの日　芳山
欲しいもの数え上げると恐ろしい　余光
欲望も希望も遠い遠い過去　石花菜
腰かけて石のかすかな呼吸きく　美ッ千
休んでも誰も困らぬ会に出る　照彦
心臓が休憩したか脈がない　八千代
休日を避けてお出かけ年金者　ゆたか
物欲は消した名誉欲は消えた　芳光
性欲はないがおかわり三杯目　寿代
五億円で予約している月旅行　寛
王様の欲が裸にされていく　麦青
食欲が秋の山陰賑わせる　富隆
休みぐせ横着なのか歳なのか　隆昌
何もない畑へ行って様子みる　道春
いつ行くと知らず筋力アップする　雄大
映画観に行こう大きなスクリーン　幸子

毎日がお休みなんてつまらない　風露
絶対に忘れてならぬキノコ雲　けいこ
大根の首を洗いに行ってくる　博子
休刊日爪を切る日に決めておる　熊四郎
蟻の社交場松茸の傘の下　七ナ
行く年来る年ひたすら一行詩　モナカ
GoToで行くところなく一人酒　正男
休みぐせいつの間にやらこのメタボ　順子
三日働き年中休むコンバイン　重忠
伊吹山リフトで行くか歩こうか　久子
友と旅些細なことで大げんか　コスモス
年金で一儲けなど出来はせぬ　規雄
毎日が老人の日で祝い酒　完司

豊中もくせい川柳会（大阪）初代　正彦報

魔法のミラーあれば人生やり直す　憲央
体調が悪く通院今日休む　英三
足す事も引く事も無いカレンダー　時子
監督の言葉に魔法効いてくる　健二
自らの輝き知らぬお月様　真理子
黒猫も飛脚も急ぐ冷蔵車　歌留多
映画館魔法の時間過ごしてる　多美子
急がないじっくり往こう冥土へは　武彦
午後六時今日も始まるひとり酒　(永)玲子

トランプの傲慢金魚青くなる　きらり
みずうみのきらきら鳩尾に残す　凪子
パート終え急いで帰宅母の顔　敏昭
真っ新の明日へきらきら呱呱の声　野鶴
ときめきが欲しくて野面駈け巡る　ヨシヱ
着ぬままに急いで仕舞う合いの服　堅坊
失くした物魔法のようにパッと出る　忠子
「幸せにする」魔法のような嘘を聞く　弘委智
水平線きらきら残照の浜辺　満作
これ以上もう痩せられぬ尻の骨　求芽
急ぐ時にかぎりピタパを持ち忘れ　見清
気忙しくペダル踏んでる秋の暮れ　正彦
きらきらのツリーに酔えぬのがコロナ　ふりこ
子供達をきらきらさせる誉め言葉　美智代
わたしが大好きなのは万札です　勝弘
イヤリングガラス玉でもよく光る　かずお
愚痴を聞き合うだけでもういい夫婦　則彦
百歳の眩しい笑顔見て習う　洋志
泡立てています小さな夢ひとつ　ひとみ
もったいない若い命が死に急ぐ　英旺
魔法瓶へ夜警が詰める熱いお茶　肇
秋の雲ほんとのんびり浮かんでる　(岩)玲子
忘れまい祈りつづけるルミナリエ　美津子
神農の祭に急ぐ冬支度　黒兎

句会名	日時と題	会場と投句先
川柳大阪	12日(火) 13時開場 育つ・病・希望	メトロ・長堀鶴見緑地線・京橋駅　研修室 〒534-0021 大阪市都島区都島本通4-11-6　山﨑珠生
川柳たちばな	15日(金) 13時45分締切 印象吟・縁（互選）・抱く 自由吟	立花北生涯学習プラザ 尼崎市塚口町3-39-7　℡ 06-6422-6741 〒 661-0953 尼崎市東園田町 3－49－5　藤井宏造
岸和田川柳会	16日(土) 14時 虹・集う・マスク・リボン	岸和田市立福祉総合センター 南海電鉄「岸和田」駅東へ徒歩５分 〒596-0076 岸和田市野田町2－13－19　中岡香代
川柳塔みちのく	16日(土) 17時締切 点・同じ・くるくる	弘前市御幸町13-1「大成小学校地域交流室」℡0172-32-2591 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稲見則彦 宛　℡0172-36-8605
川柳藤井寺	17日(日) 14時締切 平和・共選	藤井寺市生涯学習センター・しゅらホール 3F 近鉄南大阪線「藤井寺」駅下車南へ徒歩10分 〒583-0007 藤井寺市林5－8－20－303　鈴木いさお
豊中もくせい川柳会	18日(月) 13時50分締切 土産・光る・鮮やか・自由吟	豊中市立中央公民館　3F 阪急宝塚線「曽根」駅　徒歩５分 〒569-0073 高槻市上本町5－26　初代正彦
川柳さんだ	17日(火) 13時30分締切 議論・なんで・コメント・配る 自由吟	キッピーモール　6F（JR三田駅前） 〒669-1545 三田市狭間が丘5－10－19　谷　祐康
川柳ねやがわ	20日(水)を誌上句会に(20日締切) 円満・計画・好運・開幕 自由吟	〒572-0063 寝屋川市春日町9－9　高田博泉
川柳塔すみよし	23日(土) 14時締切 点・洗う・自慢に思う事	住吉区役所内　住吉公民館　2F 〒580-0026 松原市天美我堂3－130－2－404 森松まつお
和歌山三幸川柳会	23日(土) 13時15分締切 祈る・鍋・年賀状 投句締切14日	和歌山商工会議所　4階 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛
はびきの市民川柳会	24日(日) 14時締切 役員・拾う・とんとん・席題	陵南の森公民館 近鉄南大阪線「高鷲」駅下車　北へ徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8　徳山みつこ
川柳ふうもん吟社	24日(日) 13時から 自由吟・誕生・不気味・つばさ 席題	〒689-0202 鳥取市美萩野2－171－3　中村金祥
南大阪川柳会	25日(月) 15時締切 あくび・どやす・うらやましい 雑詠	大阪市立住まい情報センター　5F　研修室 メトロ谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒569-1124 高槻市南芥川町9-28-901　松岡　篤

★上記は年初計画です。諸般の事情上、詳細は各柳社にお問い合わせください。

1 月 各 地 句 会 案 内

（開催日順）

句会名	日時と題	会場と投句先
川柳塔 まつえ 吟社	12月30日締切 始め・影・予感・どっぷり・裏	投句先 〒690-0012 松江市古志原７－19－19　中筋弘充
倉吉 川柳会	２日（土）14時締切 和・慶び・動く・席題	倉吉市明倫公民館 〒689-2221 鳥取県東伯郡北栄町由良宿2072－17 谷口次男
川柳塔 なら	７日（木）14時締切 景商い・うきうき・歩く	奈良市中部公民館　４Ｆ　奈良市上三条23-4 近鉄「奈良」駅④番出口　徒歩５分 〒633-0341 磯城郡田原本町薬王寺150－21　中堀　優
六甲 川柳会	７日（木）14時締切 牛・届く・くどくど・ぴったり 自由吟	六甲道勤労市民センター　５階Ｅ室 JR六甲道駅南隣　メイン六甲内 〒657-0011 神戸市灘区鶴甲4－11－11　上田和宏
あかつき 川柳会	８日（金）14時締切 わくわくすること・転・支度 時事吟	大阪保育運動センター（新谷町第１ビル２Ｆ） メトロ「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分（道路向い側へ） 〒543-0013 大阪市天王寺区３－６　木村ビル２階 あかつき川柳会
城北 川柳会	投句句会・９日（土） 新しい・リズム・世界・自由吟	旭区老人福祉センター　３Ｆ メトロ谷町線「千林大宮」駅③番出口 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14　江島谷勝弘
川柳 とんだばやし 富柳会	９日（土）14時締切 軒・潰す	富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ 200 m 〒584-0064　富田林市不動ヶ丘8-31　山野寿之
川柳塔 打吹	９日（土）13時30分締切 旅・祝う・だんだん	倉吉市上灘町９　上灘公民館 〒682-0034 倉吉市大原637－３　牧野芳光 方 川柳塔打吹　事務局
川柳塔 わかやま 吟社	10日（日）14時10分締切 兼　題＝ひねる・肉・どっぷり 課題吟＝世	和歌山商工会議所　４階　和歌山市西汀丁３６ 兼　題　〒649-6253 岩出市紀泉台366　藤原ほのか 課題吟　〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪森町東2-208-5 楽原道夫
八尾市民 川柳会	10日（日）14時締切 安心・さわやか・長い・雑詠	八尾市安中町３－５－１　渋川・安中集会所 JR「八尾」駅から徒歩５分 〒581-0083 八尾市永畑町2－1－7　土田欣之
西宮北口 川柳会	11日（月）14時締切 席題・励ます・袋・きっちり 自由吟	西宮市立中央公民館　６Ｆ　講堂 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「プレラにしのみや」 〒663-8141 西宮市高須町2-1-31-830　福田正彦
川柳塔 さかい	８日（月）投句締切 エコ・宝・攻める 折句：み・か・わ	投句句会へ変更
ほたる 川柳 同好会	12日（火）13時30分締切 鉄・遊ぶ　い・け・だ	豊中市立蛍池公民館 阪急・モノレール蛍池　蛍池駅前ビル　5F 〒561-0813 豊中市小曽根2－4－1　水野黒兎
川柳 あまがさき	12日（火）14時締切 磨く・知能・ふつふつ・自由吟	尼崎市女性センター・トレビエ　２階 阪急武庫之荘駅南へ５分 〒661-0953 尼崎市東園田町3－49－5　藤井宏造

柳界展望

★「第62回井笠川柳会誌上大会　蘖」参加者278名。同人成績。

蘖句碑獲得賞

冨永　恭子

ノーと言う勇気イエスと言う覚悟

★「2020年きょうと川柳大会」は11月3日、ラポール京都で開催。参加者113名。同人成績。

特　選　石橋　芳山

太陽をほんの2時間ほど盗む

▽**表　彰**△

○11月3日、同人・鈴木いさお氏が藤井寺市民文化功労賞として表彰された。

▽**訂正お詫び**△

○12月号、P99中段最後尾　苦・労・→**こ・の・世・**

▽**新誌友紹介**△

羽曳野市　**久世　高鷲**
紹介者　山野　寿之

奈良市　**東　定生**
紹介者　米田　恭昌

神戸市　**横田　次郎**
紹介者　山崎　武彦

伊予市　**田中　なお**
紹介者　木本　朱夏

富田林市　**林　澄子**

句会部よりお知らせ

川柳塔本社令和３年２月句会は、下記の要領で誌上句会といたします。皆さまのご投句をお待ちしております。

記

『川柳塔』令和３年１月号に投句用紙を同封します。
（未読の方は川柳塔社事務所までご請求ください。）
投句締切　１月３１日消印有効
入選発表　『川柳塔』令和３年４月号
投 句 料　１０００円（切手不可）

兼　題「ゆ る い」	髙杉　　力　選	（大 阪 府）
兼　題「ラ ン ク」	工藤千代子　選	（岡 山 県）
兼　題「隠　　す」	北野　哲男　選	（兵 庫 県）
兼　題「わがまま」	米山明日歌　選	（静 岡 県）
兼　題「愉　　快」	新家　完司　選	（鳥 取 県）

（各題２句出し）

問い合わせ・送り先

〒543－0052　大阪市天王寺区大道１－１４－１７
花野ビル２０１　川柳塔社
TEL 06-6779-3490

第４１回ときせん賞

締　切　令和3年1月31日（日）　消印有効
選　者　赤井　花城　小島　蘭幸　雫石　隆子
徳永　政二　森中恵美子　矢沢　和女
作　品　雑詠2句（一口として何口でも可
未発表作品）
選句方法　無記名清記の上　選句1句ごとにその合計点で順位決定
発　表　時の川柳誌　令和3年4月号誌上
（ときせん賞1名・準ときせん賞2名・佳作7名）
応募方法　応募用紙または便箋に作品2句、住所・氏名・電話・所属結社・時の川柳社の誌友、誌友外を記入
応募料　1000円（一口）切手はご遠慮ください。
応募先　〒775－0019
加古川市野口町水足1160
岡田　篤　宛
時の川柳社

第4回　水の都まつえ誌上川柳大会

兼　題　「自由吟　2句」選者8名による共選
選　者　奈良　一艘　　井上　一筒
くんじろう　　新家　完司
笹田かなえ　　米山明日歌
八上　桐子　　樋口由紀子
締　切　令和3年1月31日（日）
消印有効
参加費　一口　1000円（切手不可）何口でも可
投句先　〒690－0001
松江市東朝日町206－7
石橋芳山宛
TEL　090−2003−5846

令和３年度　業務分担表

令和２年12月現在

	常任理事		
総務部	**江島谷勝弘**	上田ひとみ	
企画事業部	**藤村　亜成**	松岡　篤	
編集部	**木本　朱夏**	江島谷勝弘 乗原　道夫	大久保眞澄 内藤　憲彦
句会部	**居谷真理子**	石田　隆彦 平井美智子	内田志津子
同人誌友部	**石田　隆彦**	糀谷　和郎	吉村久仁雄
渉外部	**藤井　宏造**	上田ひとみ	
会計部	**内藤　憲彦**	宇都満知子	
発送部	**吉村久仁雄**	江島谷勝弘 松岡　篤	藤井　宏造
事務部	**森松まつお**	内田志津子	宇都満知子

◎ 太字は部長（部長以外は50音順）　◎ アンダーラインは新任者

詩歌とともに72年！ 伝統と信頼の飯塚書店刊行の川柳書籍

最新刊好評発売中

川柳人が楽しむ エモい 漱石俳句

いわさき楊子 著

漱石の俳句を川柳的視点で鑑賞。俳諧的考察では解き明かされない漱石の人となりが際立ち、諧謔味あふれる「エモい」漱石の世界が広がりました。漱石句162に著者の川柳作品109を収載。写真と挿画も掲載した、新しい漱石鑑賞、評論となりました。

B6変形判並製 128頁
124×184mm
￥1200円（税別）

旅の日川柳

江畑哲男 編著

オールカラー 128頁
￥1000円（税別）

「旅の楽しさ」と「川柳の楽しさ」絶妙にコラボした傑作集が出来上がりました。

スポーツ川柳

編集部編 田口麦彦監修

オールカラー 128頁
￥1000円（税別）

川柳にかかればスポーツもかたなしです。
イラストもたくさん掲載した傑作集。

【全国の書店でご購入出来ます。在庫がない場合は直接小社まで】

〒112-0002 東京都文京区小石川5-16-4 **飯塚書店** TEL03-3815-3805 FAX03-3815-3810
〈HP〉http://izbooks.co.jp 〈E-mail〉iizuka@izbooks.co.jp

明けましておめでとうございます

西宮北口川柳会

例　会　毎月第２月曜日　午後１時　西宮市立中央公民館

（阪急電鉄神戸線西宮北口下車　南出口徒歩３分）

プレラにしのみや６F

投句先　〒663-8141　西宮市高須町２－１－31－830　福田正彦

北島　北川邦男　筧美香　川人靖夫　良種　敏夫　河合子　亀岡哲忠　片山子　金川宣子　奥澤洋次郎　大矢伸　大坪一徳　大塚澄子　緒方美津子　榎忠夫　江島谷勝弘　延寿庵霾　梅澤野盛夫　上山坊　上原翔　上田ひとみ　上田和宏　足立つなこ　秋元て　青木る　阿部公輔　あい子

野口　西口　長島　難波　七反田順伯　長野峰豊　中西明子　長高俊雄　冨山ルイ子　冨永恭子　敏森廣光　都倉求芽　寺杣富次　近兼敦子　竹山千賀子　鈴木新録　佐藤健彦　酒田浩司　酒井紀華　堺由美　黒田能子　小山紀乃　蔵田光子　久保田千代　清田弘子

いわゐ修　敏子　伯備子　山山崎　山田　山田　山口　山口　山口　山内　矢野　村上　宮本　みぎわ　丸山一之　前川千津子　前川淳　堀和　藤原　藤本直　藤岡こ　藤井造　福田彦　福島子　能勢子　野口　真桜子

昭九朗　耕治　武彦　ヨシヱ　光久　弘智　委迪　野薫　氷筆　喜明　はな　正　みよし　り　宏　正　弘　利

新年明けましておめでとうございます

川柳あまがさき

会　長　長浜美籠
副会長　藤井宏造

足立つな子　木山歌留多　藤岡　りこ
池野　英坊　羽奈和子　藤田　雪菜
石川きよみ　黒嶋　海童　古川　奮水
入江　修平　酒井　紀華　大林れい香
上田ひとみ　酒井　健二　堀　正和
江見　見清　坂本　晴美　桝本　宏子
大浦　初音　鈴木　新録　宮﨑シマ子
奥村　五月　髙橋千賀子　森　菊江
長川　哲夫　竹山千賀子　森　たみえ
片山かずお　谷口　修平　森松まつお
釜野　公子　谷　祐康　森松　芳香
河津　正治　都倉　求芽　山口ヨシエ
川人　良種　永田　紀恵　山田　耕治
岸田　万彩　野口真桜子　山田　孝治
北川　純　野口　雄次　渡辺　柳明
北野　哲男　平井　富夫　山田　厚江
きとうこみつ　福田正彦　山田　葉子

例　会　毎月第二火曜日
場　所　尼崎女性センター・トレピエ

川柳　葦群

■主な内容
同人作品「葦群抄」
近詠作品「葦の原」
作品鑑賞　新家完司・大西泰世
柳論　エッセイ　句会報　ほか

■A５版　45頁　季刊（年４回）
年間 4000円（〒込）
発行人・編集人　梅崎流青

〒832-0087 福岡県柳川市七ツ家426　TEL.0944-72-6046
振替口座　01760-2-120254
E-mail　house7@cello.ocn.ne.jp

あけましておめでとうございます

きゃらぼく川柳会

会　員　一　同

事務局　〒683-0804 米子市米原5−1−3−304

竹　村　紀の治

明けましておめでとうございます

川柳とんだばやし

富　柳　会

秋田あかり　都筑文重
穐山常男　栃尾奏子
井澤壽峰　中薗清
岡野安希子　中村恵
河野彦次　林澄子
坂本晴美　肥山一文
久世髙鷲　福元田鶴子
沢田和子　藤田武人
鈴木かこ　堀内きみ子
関よしみ　松谷由夏
田嶋伸雄　松本正治
田中新　山野寿之
土田欣之　他一同

明けましておめでとうございます

川柳ふうもん吟社

会　員　一　同

事務局：〒689-0202　鳥取市美萩野2丁目171-3
中村金祥方
TEL 0857-59-1056

月例会：毎月第4日曜日　13:00～

会　場：県民ふれあい会館（鳥取市扇町21）
（県立生涯学習センター4F）

あけましておめでとうございます

竹原川柳会

会長　小島蘭幸

会計　古田比呂子

ほか会員一同

明けましておめでとうございます

川柳塔すみよし

会長　古今堂蕉子

石橋　直子　坂　裕之　増田　隆昭
磯島福貴子　阪井美世子　松崎　大輔
今井万紗子　佐々木満作　松岡　篤
井丸　昌紀　清水久美子　松下小枝子
岩崎　公誠　鈴木いさお　三宅　保州
内田志津子　立石　郁子　宮崎シマ子
宇都満知子　田中　廣子　森松まつお
江島谷勝弘　田中ゆみ子　森松　芳香
榎本日の出　飛永ふりこ　矢倉　五月
榎本　舞夢　中井　萠　山根　妙子
大治　重信　中村　民子　山野　寿之
大隅　克博　長浜　美籠　山本　進
大西　晴雄　長髙　俊雄　横山　里子
小野　雅美　藤井　宏造　吉村久仁雄
川端　一歩　藤島たかこ
吉川　哲夫　藤原　大子

初心者にもベテランにも役立つ！

川柳の理論と実践

B6判・326頁　1,680円（送料込2,000円）

新家完司川柳集（7）

令和元年

A5判・137頁　1,000円＋84円切手3枚（税・送料）

〒689－2303 鳥取県東伯郡琴浦町徳万597　新家完司
TEL0858-52-2414　FAX0858-52-2449

あけましておめでとうございます

翠　洋　会

安土　理恵　谷口　義
安福　和夫　辻内げんえい
指宿千枝子　津村志華子
岩本　浩二　寺井　弘子
榎本　舞夢　飛永ふりこ
大川　桃花　西出　楓楽
大久保眞澄　能勢　良子
太田　昭　原田すみ子
金川　宣子　藤原　大子
古今堂蕉子　降幡　弘美
小谷　集一　前川　善之
佐々木満作　室田　行久
髙杉　千歩　山本希久子
髙橋　敬子　米田　恭昌
田中　廣子　渡辺　富子

あけましておめでとうございます

鳥取県川柳作家連盟

会　員　一　同

連絡先　〒682-0034 倉吉市大原６３７－３
牧　野　芳　光
TEL·FAX　0858－23－0140

謹賀新年

川柳塔さかい

会長　村上玄也
副会長　矢倉五月

綾田　清　石田ひろ子
出海素頓馬　井上　洋一
内田志津子　宇都満知子
梅木　澄空　榎本　舞夢
太田としお　太田扶美代
奥　時雄　小野　雅美
柿花　和夫　楠井　輝子
源田八千代　齋藤さくら
澤井　敏治　柴本ばっは
髙木世紀子　田中　廣子
田中ゆみ子　谷川　憲
玉瀬　富夫　遠山　唯教
徳山みつこ　内藤　憲彦
中林　佳子　西田　敬子
日野　愿　伏見　雅明
古川　光雄　宮野みつ江
向井　清　山岡冨美子
山根　妙子　山本　進
吉田　禮子　米澤　俶子

明けましておめでとうございます

湯川胃腸病院

・消化器内科・脳血管内科・放射線科
・緩和ケア（ホスピス）〔健保取扱〕
併設：デイサービス・ショートステイ

ISO9001 認定施設・緩和ケア病棟質向上認証施設

■診察受付　月～金 8：30～16：00（土 8：30～11：00）

JR 桃谷駅徒歩 3 分　TEL.（06）6771-4861

湯川胃腸病院　検索

謹賀新年

和歌山三幸川柳会

主幹　三宅　保州

事務局　〒640-8111　和歌山市新通七丁目17　古久保和子
TEL 073－423－8930

例　会　毎月第四土曜日　12時30分
和歌山商工会議所　４Ｆ（バス停　和歌山市役所前）

川柳茶ばしら

謹賀新年

早川　遡行
板山　まみ子
金子　美千代
山本　三樹夫
脇田　雅美
関本　かつ子

あけましておめでとうございます

ほたる川柳同好会

水野　黒兎
藤井　則彦
池田　純子
上山　堅坊
田中　螢柳
中山　春代
栗田　久子
藤原　桂子
荒木　郁子
樋口　順子
貝塚　正子
岡田　守啓
多田　契子
倉本　一弥
齋藤　奈津子

句　会　第二火曜日　午後一時より
勉強会　第四火曜日　午後一時より
場　所　豊中市蛍池公民館

あけましておめでとうございます

川柳塔みちのく

主幹　福士　慕情・ほか同人一同

事務局　〒036-8275 弘前市城西1-3-10 稲見則彦方

あけましておめでとうございます

岸和田川柳会

岩佐ダン吉　桐島カズ子
雪本珠子　木村心
増田隆昭　阪口たかお
松崎大輔　花篤洋二
石田ひろ子　新海信二
助川和美　鈴木益子
宮野みつ江　立藏信子
岸井ふさゑ　中里はこべ
高橋律雄　中原宏之
次井義泰　西岡義博
中岡香代　藤井康信
小島笑司　藤原昭
西田喜代志　三宅白水
池内恭子　三宅保州
出原誠夫　向井清
井戸雲水　井岡一子
柿花和夫　村上喜多子
葛城隆雄　山内規予子

明けましておめでとうございます

豊中もくせい川柳会

会員一同

賀　正

川柳ねやがわ

会員一同

明けましておめでとうございます

川柳塔鹿野みか月

会員一同

会長　森山盛桜

あけましておめでとうございます

川柳さんだ

会員一同

謹賀新年

川柳塔唐津

岩崎實　坂本蜂朗　仁部四郎　山口高明

明けましておめでとうございます
本年もよろしくお願い申し上げます

川柳塔わかやま吟社

同人一同

事務局　〒640-8482 和歌山市六十谷1188-14
川上大輪方
電話・FAX 073-462-7229

明けましておめでとうございます。

六甲川柳会「ろっこうみち」

会員一同

誌上会を続けて来ましたが実句会を復活してゆきます。

事務局： 〒657-0011 神戸市灘区鶴甲4-11-11
（TEL）078-851-5860 上田和宏

謹賀新年

川柳塔まつえ吟社

主幹　石橋　芳山

同人一同

事務局　〒690-0001　松江市東朝日町206−7
TEL.090−2003−5846　石橋芳山方

明けましておめでとうございます

川柳藤井寺

会員一同

あけましておめでとうございます

いずも川柳会

会長　竹治　ちかし
会員一同

事務局　〒693-0026　出雲市塩冶原町3−1−5　竹治ちかし方
TEL 0853−22−4309

明けましておめでとうございます

城北川柳会

会員一同

あけましておめでとうございます

事務局　〒633-0054　奈良県桜井市阿部787　安土　理恵

会長	安土　理恵
副会長	宇賀　史郎
〃	長谷川　崇明
〃	大久保　眞澄
会計	飛永　ふりこ
編集	安福　和夫
〃	中堀　優
世話人	加藤　江里子
〃	髙橋　敬子
〃	仲西　賛郎
〃	渡辺　富子
会計監査	江島谷　勝弘
顧問	中原　比呂志

川柳塔なら一同

迎　春

はびきの市民川柳会

会員一同

あけましておめでとうございます

川　柳　大　阪

会長　山　﨑　珠　生

会　員　一　同

あけましておめでとうございます

南大阪川柳会

会　員　一　同

☆　おりひめ☆ひこぼし川柳会　☆

～２０２１年　春　始動～

☆ 代　　表：藤田　武人
事務局長：栃尾　奏子 ☆

大阪市内から
ひっこしました

〒573-0095
枚方市翠香園町２－７
TEL/FAX：072(395)5453

頌　春

川　柳　塔　社

主幹　小島蘭幸

理事長　新家完司

副主幹　川上大輪

副理事長　木本朱夏

副理事長　内藤憲彦

常任理事　石田隆彦　居谷真理子

上田ひとみ　内田志津子

宇都満知子　江島谷勝弘

大久保眞澄　桒原道夫

糀谷和郎　平井美智子

藤井宏造　松岡篤

松原寿子　藤村亜成

森松まつお　吉村久仁雄

川柳塔社常任理事会

全日本川柳誌上大会のご案内
（令和柳多留第２集通巻２３号）

日本の全柳人が、だれでも、どこからでも参加できる「全日本川柳誌上大会」（令和柳多留第２集通巻２３号）を開催します。日川協年次大会・国民文化祭文芸大会と並ぶ（一社）全日本川柳協会の権威ある三大年間行事ですので、こぞってご参加ください。

一般社団法人　全日本川柳協会
理　事　長　小　島　蘭　幸
出版委員長　西　出　楓　楽

課題と共選者（各題２句・連記）

「刻　　む」大竹　　洋（千　葉）　――　松代　天鬼（愛　知）共選
「めでたい」小林信二郎（山　梨）　――　くんじろう（大　阪）共選
「褒　　美」福井　　勲（東　京）　――　長島　敏子（兵　庫）共選
「ラッキー」藤　　咲子（秋　田）　――　徳丸　浩二（熊　本）共選
「　密　」石川　川柳（埼　玉）　――　鈴木　公弘（鳥　取）共選

第２次選者

天根　夢草（大　阪）、雫石　隆子（宮　城）、島田　駱舟（千　葉）
駒木　香苑（福　島）、平井　義雄（長　崎）

参　加　費　２，０００円（投句料・『令和柳多留第２集通巻２３号』代金含む）

賞　　令和柳多留賞・川柳大賞・ＮＨＫ会長賞
日本青少年育成協会会長賞・全日本川柳協会賞
全日本川柳誌上大会賞（予定）

締　　切　令和３年２月２日（火）〈当日消印有効〉

参加方法　参加用紙に記入し、参加費 2,000 円（振替又は小為替）とともに、下記へご送付ください。

〒530-0041　大阪市北区天神橋２丁目北 1-11-905
一般社団法人　全日本川柳協会
電　話　(06) 6352-2210
ＦＡＸ　(06) 6352-2433
振替口座　00970-9-3575

編集後記

★牛老いて家族のやうにいたはられ　路郎
★牛の瞳に人間何をあわてとる　栞
★牛の背に笛吹く恋がしてみたし　薫風

★昨年の新年号編集後記に私は次のように挨拶をさせて頂いた。「昨年は災害の多い胸痛む一年でした。今年こそ平和で穏やかな日々が続きますよう心からお祈り申し上げます」。2020年、令和2年は新型コロナウイルスに明けコロナに暮れた。三密、オンライン飲み会、マスク警察、ステイホーム、リモート、テレワーク、ソーシャルディスタンス、マスク会食等々、耳慣れぬ言葉が飛び交った。昨日まで確かにそこにあった平穏な日常が失われた一年だった。

★経済を回さねばとGoToトラベル、GoToイートが奨励され、挙句に第三波が押し寄せてきたからと、「緊急事態宣言」を天下の宝刀のごとくちらつかせる。大阪では65歳以上の高齢者は外出を控えろとのお達しも。場当たり的な政策に振り回され途方に暮れるのは私たちだ。身を挺して国民を守ろうと奮闘するのは医療従事者の方々であって、政府のお偉いさん方ではない。そんな中ワクチン開発の明るいニュースも。国民全体に行き渡るには今しばし待たねばならないが、秋の塔まつりには無事皆様とお目にかかれることを信じたい。

★12月号62頁の句集紹介『央ちゃんのつぶやき川柳』の著者の江島央ちゃんは小島蘭幸主幹のお孫さんです。現在5歳。濁りのない素直な心から零れ出たことばの数々に、思わずにっこりした方も多いのでは。「れいぞうこさんイカのおすしがたべたいです」「3びょうでゆめのせかいへいってきます」「ありがとうハートいっぱいぷれぜんと」私にもたしかにあった幼い日を思い出して何度も読み返しています。

（朱夏）

○「日はまた昇る」「明けない夜はない」と呪文のように唱えていた年を越し、新年を迎えることができました。とはいえ、帰省を自粛したお孫さん方とはオンラインとやらでのご対面、不完全燃焼のお正月かもしれません。私も皆さん方とお会いしてご挨拶したい気持ちでいっぱいです。

○昨年度の全日本川柳秋田大会の作品集に、秋田出身の女優浅利香津代さんの誌上講演が掲載されていました。俳優を志す方にとってお国訛りは大きな壁であり、彼女も秋田訛りと闘いながらの演劇活動でした。今はむしろ秋田弁の女優として、指導者としてご活躍です。

○活動の中で『ことばの力』を実感されたとのことですが、会話がままならない今だからこそ、身に染みるお言葉でした。

○新しい年です。本当の春が来たときには、喪中の方や闘病中の方とも、心から喜びの言葉を交わしたいものです。

（眞澄）

ひとこと

苦戦の病室

今年の夏は、足の手術で1か月半入院をした。お陰で猛暑とコロナから逃げられたが、一方でコロナ対策で面会禁止。家族と友人とはパソコンかスマホでしか連絡とれず、また病院が遠方であったため、食物や着替えの差し入れもままならぬ不自由な隔離生活であった。

友人からは、時間はたっぷりあるし、集中もでき、いい川柳が詠めると励まされたが、それがそうでなかった。検査とリハビリの合間に紙と鉛筆を取り出しても、なかなか病室から発想が飛び出していかない。狭い病室で着想が堂々巡りしてしまう。病床で名句を残した子規はすごい人だとおもった。

結局あまり句は詠めなかった。

退院した後、社会と交わりほっとして作句に勤しんでいる。

（敏森　廣光）

川柳塔誌**新規**購読申込書

年　月　日

氏名		住所	〒　－	電話	－　－	紹介者	

年　月から半年　5000円
年　月から一年　9800円
　　該当の方に○をつけて下さい

〒543-0052
大阪市天王寺区大道1丁目14番17号　花野ビル201
川柳塔社（電話　06－6779－3490）
振替　00980－4－298479

◎この用紙は新規購読申し込みのみにご使用下さい

きりとりせん

お知らせ

本社1月句会は誌上句会として開催、12月28日締切りました。発表は3月号です。

新型コロナウイルス感染症第3波最中と思われます。

三密を避け、ソーシャルディスタンスを守り、手洗い、消毒、マスク、換気を忘れず、ご安全にお過ごしください。

本社2月句会は誌上句会です
詳細は川柳塔1月号118頁ご参照
投句締切日1月31日、発表4月号
兼題「ゆるい」「ランク」「隠　す」「わがまま」「愉　快」

作品募集

3月号発表（1月15日締切）

川柳塔（8句） 小島蘭幸 選
水煙抄（8句） 西出楓楽 選
愛染帖（2句） 新家完司 選
檸檬抄「呼　ぶ」（2句） 石橋芳山 古今堂蕉子 共選
インスピレーション・ナビ（2句） 大西泰世 選
一路集（2句） 「机　」石田隆彦 選
「アクション」藤澤照代 選
初歩教室 「咲　く」（3句）居谷真理子 担当
初歩教室「咲く」は4月号発表

4月号
檸檬抄「再　生」
一路集「ま　だ」「調味料」
初歩教室「　芸　」

川柳塔柳箋

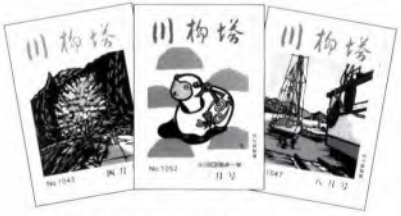
3冊　送料共 1,000円

事務所あてお申し込み下さい。

定価 八百円（送料100円）
半年分 五千円（送料共）
一年分 九千八百円（同）

二〇二一年（令和三年）一月一日発行
発行人 小島和幸
編集人 木本朱夏
印刷所 美研アート
発行所 川柳塔社
〒543-0052 大阪市天王寺区大道一―一四―一七 花野ビル201号室
電話（〇六）六七七九―三四九〇番
振替 〇〇九八〇―四―二九八四七九番

川柳・俳句・エッセイ・小説
新聞・広告・ポスター・伝票等
あなたの思いをかたちにします。



美研アート
〒531-0061 大阪市北区長柄西1-1-10
TEL（06）4800−3018
FAX（06）4800−3028
E-mail：bikenart@ea.mbn.or.jp

令和三年一月一日発行（毎月一日発行）
創刊大正十三年　通巻一一二四号　川柳塔　一月号
定価　八百円（送料　百円）

川柳募集

「ごま」にまつわる
あなたならではの
一句を募集します。

・兼題　「ごま」
・応募要領　川柳塔社主幹 小島蘭幸　選
郵便ハガキに2句、郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記してください。
入選20句、準特選2句、特選1句に賞品。
・発表　本紙4月号にて発表いたします。
・締切り　2021年1月31日(当日消印有効)
・投句先　〒543-0052　大阪市天王寺区大道1丁目14番17号　花野ビル201号室
川柳塔社　ゴマ川柳係　宛

オニザキの
つきごま
手作りの味わいに
こだわり続けて
六十五年

株式会社 オニザキコーポレーションセールス
〒862-0951 熊本市中央区上水前寺1-6-41 OCOビルディング
TEL 0120-30-5050

心を尽くし　思いを尽くし　知性を尽くし
力を尽くして全人的に仕える医療と福祉

医療法人社団　湯川胃腸病院

消化器科　放射線科　脳神経外科
緩和ケア（ホスピス）
デイサービスセンター併設

大阪市天王寺区堂ヶ芝2-10-2　TEL 06-6771-4861
http://www yukawa or jp

雑誌 05703－1